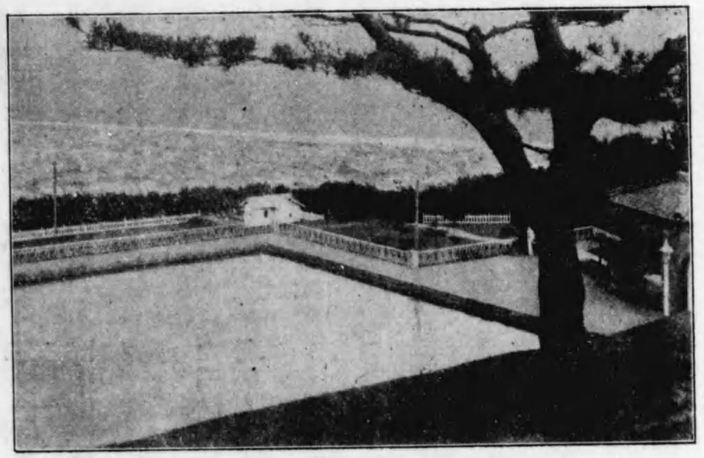
と其の官舍との間にアーチを架渡し、之に「ウエルカム」(歡迎といふ意味)の英字を表はして奉迎し、同夫人は此の日(七月十六日)天皇が行在所から函館支廳に御臨幸あらせられた時、同領事館前に立つて奉迎し、謹んで花束を献上した。此の時天皇は御馬車中より直ちに之を受けさせられ、行在所へ御持歸りあそばされたといふことである。御駐輦中天皇は諸處に御臨幸あらせられ、同月十八日午前八時明治丸によつて函館御出港海路横濱に向はせられ、同月二十一日東京に御還幸あらせられたものであるが、此の函館御臨幸は北海道に取つては開闢以來始めての盛事で、今に宏大無邊の聖慮に感激して居ることである。餘談に亘るが、此の時の御乘船明治丸は現在東京高等商船學校の脇に保存せられて居る。又ユースデン夫妻は函館には深い緣故のある人で、現在の函館公園の如きも、最初其の開設の必要を說いたのはユースデン夫妻である。同公園は明治十二年十一月三日開園式を擧げたものであるが、其の際同夫人は記念として英國產の胡桃と二株のライラックを寄贈し、之を園內に植ゑた。此の樹は現に園內に在る函館圖書館の玄關脇に茂つてゐて、市の名木になつて居る。

其の後、明治天皇は同十四年再び北海道に行幸し給ひ、小樽、札幌、室蘭を御巡幸あらせられたが、其の御歸途、復函館に御臨幸あらせられた。此の時の行在所はもとの諸術調所址に建てられた函館病院內に設けられた。翌十五年二月八日開拓使は廢止となり、全道が分れて函館、札幌、根室の三縣となるや、函館は函館縣廳の所在地となつたが、同十九年一月二十六日三縣は廢せられ、札幌に置かれた北海道廳が全道を管轄することとなつた爲に、函館は復政治上には緣の薄い處となつた。併し其の勢は少しも衰へず、常に北海道第一の都會たる地位を保ち、同三十二年十月一日區制を施行した。

かくて大正十一年八月一日市制を施行したのであるが、其の間に於ける人口增加の概況を見れば、左の通りである。

慶應三年(王政復古の年)　一八、六〇九人



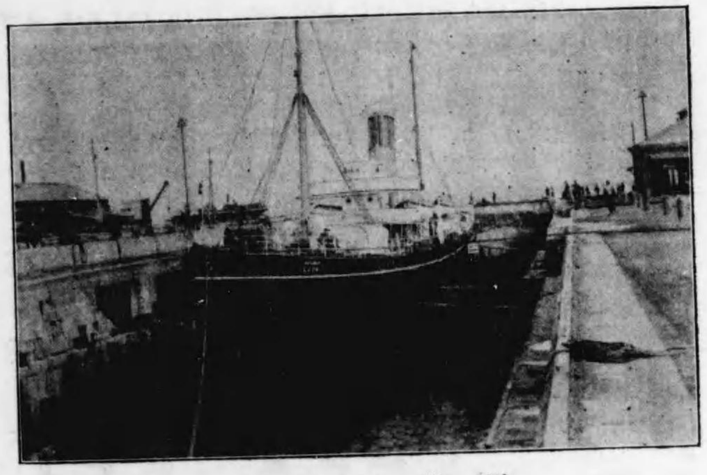
函館水道の配水池

明治三二年（區制實施の年）　九一、三〇一人
大正一一年（市制施行の年）　一四六、八五五人

今や市の人口は約十七萬六千。此の市民を養ふ水道は赤川の水を引用するのであるが、此の川は下流を龜田川といつて、市内を貫流して居る。市は固より軍事上の要地で、要塞地帶に屬し、函館要塞司令部、同聯隊區司令部、同重砲兵大隊、築城部津輕支部、函館憲兵分隊などの所在地であるが、市の發展に與つて最も力のあるのは市が夙に水産業家の策源地となり、函館近海はいふに及ばず、千島方面並に露領沿海州方面に出動する漁船の一大根據地たること及び内外國に對する海産物の一大集散地たることである。工業も近來次第に盛況を呈し、大いに市の發展を助けて居るが、其の中には水産業に伴隨するものも少くない。

市に集まる主要海産物は身欠鰊、鯑、鰯、棒鱈、開鱈、鹽鮭、荒卷鮭、鹽鱒、鰹、蟹罐詰、鮭及び鱒の罐詰、海參、帆立貝柱、帆立耳、筋子、昆布、若布、布海苔、乾海苔、魚肥（魚粕）等で、京濱及び阪神地方を始め、内國各地に賣出されるのみならず、支那に向つて輸出せられるものが殊に多い。茲に函館の外國貿易を見るに、支那、英國、米國、關東州、露領亞細亞等を主要取引國とし、主要輸出品は昆布、鰯、乾鱈、乾鮑、貝柱、海參、鹽魚、罐詰類、澱粉、毛皮、網などで、重要輸入品は食鹽、米、石油、鉄力、豆粕等である。

市の工業としては製材及び製箱、罐詰用空罐、造船、製網、肥料、鐵工、護謨靴、製氷等が重要の地位を占め、函館船渠株式會社、日本製罐株式會社、函館製網船具

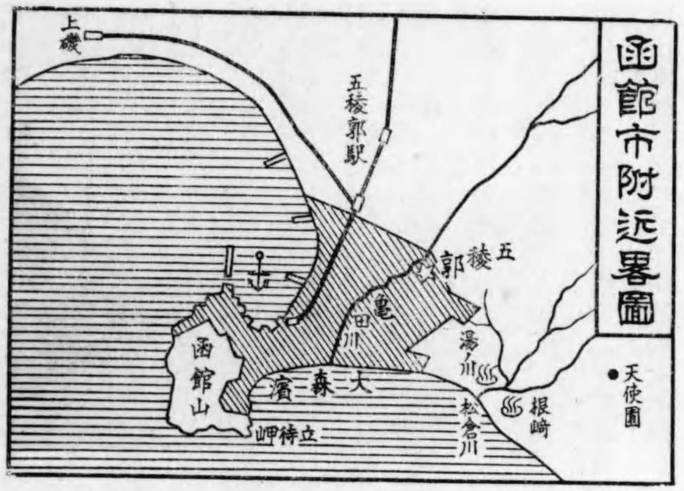


函館ドック

株式會社、同護謨工業株式會社、大日本肥料株式會社函館工場、小熊冷藏庫、函館冷藏株式會社等の工場は市内に於ける主要工場である。

次に函館港の修築を一瞥せんに、安政六年の開港以來函館の貿易は日を逐うて發展し、港灣修築の議は既に明治十二年に起つたものである。併し當時は其の運に至らず、漸く同十九年に至り、始めて内務省雇工師ムルドルの計畫に基き、工費十萬圓を以て、函館山の土砂流出防止と龜田川の轉流工事とを施行し翌年竣工した。龜田川はもと函館港内に注いでゐたものであるが、此の工事によつて反對側なる大森濱に流れ込むことになつたものである。其の後同二十九年に至り、政府は工費八十二萬圓を以て、港内の浚渫、第一防砂堤及び防波堤築造の工事を起し、同三十二年に至つて完成した。然るに港勢駸々として進み、更に築港の必要を認めた爲に、同四十二年政府は北海道拓殖十五年計畫を樹てるに當つて、復もや本港を修築することに決し、同四十三年度以降八箇年の繼續事業としたが、其の工費は百四十四萬餘圓である。かくて諸種の準備を整へた上同四十五年（大正元年）四月工事に着手し、大正七年度に完成した。此の工事によつて第二、第三の防砂堤が出來、又防波堤も增築せられ、現在の如く有効水面積が五十七萬坪となつたのである。

以上三回の修築によつて、函館港は面目を一新したが、大正十四年政府は本道第二期拓殖計畫を樹て、昭和二年度議會の協賛を經た爲に、當港の施設に對しては工費千二百萬圓を投じて、防波堤を增築し、埋立地をつくり、埠頭を築造することとした。



此の工事は昭和五年度を以て起工し、同十九年度に竣工する豫定であるが、完成の曉には有効水面積は百九十七萬坪となり、現在の約三倍半となる譯である。此の外別に市營の埋立地が西濱町及び海岸町の地先に出來、此處にも繫船岸壁を設けることになつて居るから、當港は將來更に大いに面目を改めるに相違ない。

現在、當港は**鐵道省**經營青函連絡船の外、**遞信省**の命令航路たる函館勘察加線、同亞港線、浦潮廻周線、同眞岡線、**北海道廳**の命令航路たる函館瀨棚線、同小樽線、同森線、同日高線、同釧路線、同網走千島線、**樺太廳**の命令航路たる函館大阪東知取線、同芝浦樺太線、同散江線、同安別線及び**朝鮮總督府**の命令航路たる函館大連朝鮮線並に**函館市**の命令航路たる函館下北線、同三厩線、同鰺ケ澤線、同三陸線等の發着點として船舶の出入は頗る頻繁である。

函館電車

市内には電車の便が備はれるのみならず、市外の湯ノ川まで通じて居る。

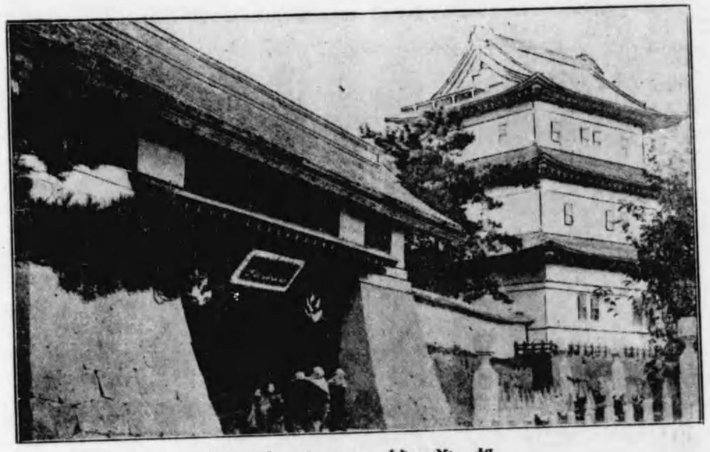
湯ノ川溫泉　函館市の北東に隣接する湯ノ川村の海濱松倉川の右畔に溫泉場がある。之を湯ノ川溫泉といふのであるが、川を隔てて

之と相對する根崎も亦溫泉場である。共に鹽類泉で、胃腸病、皮膚病、神經系諸病に効があるといふことであるが、函館に對する保養地として出入する人が多く、大小の旅館、料理店が立ち並んで、絃歌の響の豐な處である。此の地は函館より電車或は乘合自動車によれば、約二十分間で達し得る爲に、同市郊外の遊覽地として榮えて居る。

天使園（女子修道院）　湯ノ川の北東約三十町の丘上に女子トラピスト修道院たる天使園がある。園内の狀態を容易に目擊することは出來ないが、聞けば各地カトリック公教會の推薦による女子の修道所で、毎日祈禱の外、普通學、哲學、神學を修め、旁牧畜、バタ製造等の勞働に從事して居るのだといふことである。併し元來禁慾的宗教生活の道場で、沈默を重んじ、默々として學び默々として勞働するのであつて、普通の生活とは頗る趣の違つたものだといふことである。

上磯町　は函館市の北西に連る海濱の市街で、人口は一萬三千有餘。函館本線の五稜郭驛から分れて此の地に達する上磯線（五哩四分）が通じて居る。町内に淺野セメント會社經營の上磯工場がある。

當別の修道院　上磯町の南西約四里の當別に、男子のみを收容するトラピスト修道院がある。



松前城の大手門

明治二十九年の創立で、カトリック公教の信者中の男子が、天使園同樣の生活をして居る處である。もと此の地は熊笹の生茂れる荒野であつたが、同院創立以來の修道者の開拓によつて、今は立派な山林、畑、果樹園、牧場などが出來、しかも全く俗塵を離れた聖地となつて居る。院は後に山を負ひ、前に海を眺めて風光絵の如く、後方數町の山腹には聖母マリヤの出現を象るルルドの巖窟がある。上磯、當別間には自動車の便もあるが、函館から定期船によれば約一時間にして當別埠頭に着する。埠頭と修道院との間は約十五町に過ぎない。女人禁制で、女子の參觀は拒絶するが、男子の參觀は許すから、わざ〳〵此處を訪ふ人もある。

福山町　は津輕海峽西門の北岸に位する小港市街。舊名を松前と稱し、慶長年間以來長らく松前家の城地

として知られた處である。當時松前の戸數は三千軒といひ。蝦夷地唯一の城下町で、内地から蝦夷地に向ふものの必ず上陸した處であるが、維新後函館が北海道出入の大關門となつた關係から當町は次第に衰へ、今や戸數は一千に滿たず、人口も約五千に過ぎない。松前城は明治四年の廢藩後に破壞せられ、今に存するものは大手門と之に接する三層樓のみ。其の他の部分は或は市街となり、或は小學校の敷地及び公園になつて居る。公園内に一古松が茂つて居るが、之は元祿年中徳川光圀の寄贈したものと傳へられ、町内の名木になつて居る。町は往時鰊の一大漁場として知られた處であるが、明治時代の末頃から、一向鰊が近づかなくなつた。

江差町　は日本海岸に於ける重要なる漁港の一つ。夙に追分節の本場として知られた處である。此處も鰊漁が行はれなくなつた爲の打擊は受けて居るが、檜山支廳の所在地で、人口八千數百に上り、鐵道函館本線の本郷驛から自動車の便がある。

大沼公園　函館から鐵道函館本線によれば、約一時間にして大沼驛に着く。驛は大沼と小沼との相連續する水峽セバット附近に在つて、大沼公園遊覽客の乘降驛である。大沼公園に就いては、既に駒岳の條に附說した通り、日本新三景の一と稱せられる勝地で、年中遊覽人の絶えない處。園内に新三景の碑、大山、東郷兩元帥の銅像、大沼學院、同養狐場などもある。昭和四年六月中旬に於ける駒岳大噴火の際、風向の關係上、當公園は幸にも其の風致を害せられる樣なことはなかつた。園内の大沼公園驛から東方鹿部に通ずる電車があるが、之を**大沼電鐵**といふ。

大沼公園日本新三景の碑

森町　は函館本線の一驛に當り内浦灣口を隔てて遙に室蘭市と相對して居る。灣内を巡航する噴火灣汽船會社の定期船の寄港地であり、又灣内漁業の根據地であり、尙葛原冷凍倉庫の所在地で、人口は一萬一千餘。**渡島海岸鐵道**は此の地を起點として砂原まで通じて居る。

有珠の善光寺

八雲町　も函館本線の一驛に當り、森町の北西約一時間の車程に在る。尾張徳川家經營の大農場（四千町歩）を始め、大橋農場、鈴木農場、日本乳製品株式會社の工場の所在地で、人口は一萬四千に近く、煉乳（コンデンスミルク）、牛酪の產地として知られて居る。

瀨棚線　八雲から更に進んで長萬部に行く途中に國縫といふ驛がある。此處は瀨棚線の分岐點。今同線は寶岡驛まで通じて居る。

長萬部　は人口約七千五百の農村に過ぎないが、此處から岐れて室蘭線の一驛東輪西驛に通ずる**長輪線**の起點で、交通上重要な地位に當り、將來發展すべき機運に向つて居る。

之より函館本線傳ひに進めば、尙說くべき都會が澤山あるが、それは後にまはして先づ長輪線及び室蘭線方面を述べることにしよう。

洞爺湖電氣鐵道　長萬部から長輪線によつて約一時間半進んだ處に虻田といふ驛がある。此處は洞爺溫泉の出入口に當り、洞爺に至る間に洞爺湖電氣鐵道會社經營の電車が通じて居る（四哩五分）。此の外兩地の間には乘合自動車の便もある。

有珠の善光寺　虻田驛の次驛を有珠といふ。此處は名刹善光寺（淨土宗）を以て有名な處。寺は文化元年幕府が東蝦夷地開發の爲に建ては三大寺の一つで、日高國樣似の等澍院（天台宗）、釧路國厚岸の國泰寺（臨濟宗）と並べ稱せられる古刹である。

伊達町　有珠驛より更に約五哩進めば、伊達紋鼈驛に着く。驛の所在地は伊達町の本部ともいふべき處。町は明治三、四年頃、仙臺の支藩亘理の舊領主**伊達邦成**（明治三十七年十一月二十九日卒す）が舊藩士を率ゐて此の地に入り、主從協力土地の開拓に從事して好成績を擧げた處である。初め領主の姓によつて伊達村と稱へたが、大正十四年八月町制を施行するに至つた。今や町の人口は約一萬四千。町内に伊達男爵の邸宅がある（邦成に男爵を授けられたのは明治二十五年十月十五日）。

室蘭市

は内浦灣（噴火灣）の南東の端に入込む室蘭灣の岸に在る市街で、アイヌ語モルラン（靜な道を下るといふ意味）の轉訛である。灣は繪鞆半島によつて其の南を護られ、口を北西に開いてゐて、其の樣子が函館に似て居る。繪鞆半島は遠き過去の時代には、測量山（約一八二米）を主峯とする丘陵性の島であつたが、後に本土に續いて半島になつたものだと傳へられて居る。市は東西三里五町、南北三里二十九町餘の地域を占め、其の面積は五方里〇四九であるから、其の地積の廣さに於ては、全國の都市中大阪、名古屋、東京の三市に及ばないだけである。併し其の大部分は丘陵に蔽はれてゐて、平地の乏しい處である。

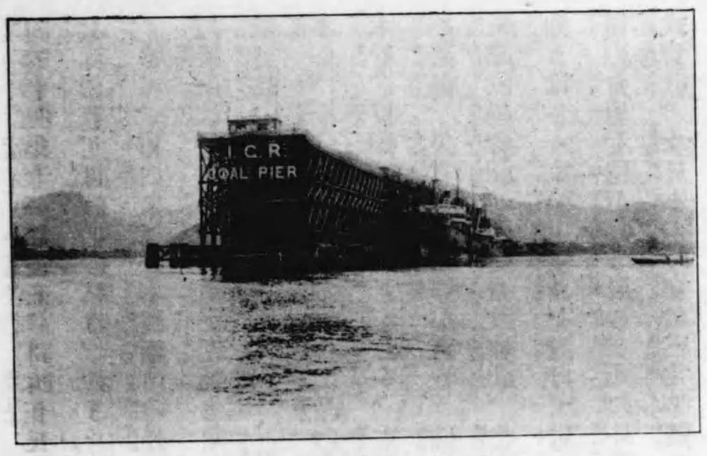
茲に市の沿革の大要を顧みれば、松前氏の蝦夷全島管轄時代には、本市地域の大部分は之を繪鞆場所と稱し、松前家臣の領地であつた。併し幕府直轄時代には箱館奉行の支配地となり、明治維新後は先づ箱館裁判所管下となつた。爾來數次の變遷を經て明治四年開拓使の管轄となつた。其の後も行政上幾多の變遷はあつたが、著しい發展を見ず、同十四年明治天皇の御臨幸を仰いだ時の如きも、人煙稀少で何等誇とすべきものはなかつた。

然るに同二十五年鐵道室蘭線及び夕張線が開通して石炭の積出港となり、翌二十六年には函館及び青森への定期航路が開かれ、更に同二十七年には特別輸出港となつた爲に、急激の發達を見ることとなつた。其の後同三十二年八月四日開港場となり、同三十三年七月町制をしくに至つたが、同四十四年日本製鋼所の開業によつて更に一段の光彩を放ち、大正七年二月一日區制を施行し、同十一年八月一日市制を施行することとなつた。今や市は市役所の外、膽振支廳、函館稅關室蘭支署、北海道水産試驗場室蘭支場等の所在地で、人口は約五萬二千。本道中第

五位の都市となつて居る。

顧みれば、明治二十三年室蘭は第五海軍鎮守府の豫定地と指定せられた。爲に實現の曉には港は當然軍港となる筈であつたが、同三十六年此の指定を解除せられた。港は元來天然の良港なりとはいへ、其の口を稍廣く北西に開いて居る爲に、同方向の風を受ける場合には港内も波が荒いのみならず、時勢の進運に應ずる爲には、港底浚渫の必要もありと認められ、既に明治二十一年から屢々築港の計畫が樹てられた。併し樣々の事情で、容易に實行の運に至らず、漸く大正七年國費を以て起工することとなつた。爾來工事を續行すること約十年、昭和二年八月に至つて竣工したが、其の總工費は五百萬圓。之によつて港口に南北兩防波堤が築かれ（北堤は長さ約九町、南堤は五町五間）、港内水面二百四十萬坪の内、二十八萬坪は水深三十尺に、八萬坪には二十四尺に浚渫せられた。爲に年中風波の憂ひのない良港として、内外國多數船舶の出入を送迎して居る。港外大黑島には明治二十二年建造の室蘭燈臺（光達距離十八浬半）があり、又市の南端なる地球岬には大正九年竣工の同名の燈臺（光達距離二十五浬半）があるが、共に濃霧、深雪の際には、サイレンを鳴らして其の位置を報ずる設備を備へて居る。

さて、市内には日本製鋼所の外には、特に誇るべき大工場はなく、又同所の製作品以外には特に產額の多い產物もないが、各種貨物の一大集散地で、石炭、洋紙、鐵類鐵製品、米穀、馬糧（燕麥、牧草）、木材、鮮魚、魚粕（肥料）、果實、酒類等の出入は頗る多い。今當港に於ける輸移出品の主なるものを見るに、石炭、洋紙、銑鐵、兵器類、木材、豆類、鮮魚などがあり、重要輸移入品としては、米、機械類、鐵及び鐵製品、藁製品、果實、酒類等がある。殊に石炭、洋紙の取扱は著しく多く、爲に、北海道炭礦汽船會社、三菱鑛業會社、北海道鑛業會社（舊名は山下鐵業會社）、大倉鑛業會社の如きは各々室蘭出張所を設けて居り、王子製紙會社及び富士製紙會社は共に洋紙貯藏用の倉庫を特設して居る。此の外栗林、楢崎、室蘭埠頭倉庫株式會社、北海道硫黃株式會社、北日本、硫安、三井等幾多の倉庫があつて各種の貨物を吐呑し、又栗林商



室蘭の高架棧橋

會、北都運送株式會社、栗山組、室蘭運送株式會社、運送社などの運送店が手廣く營業に當つて居る。

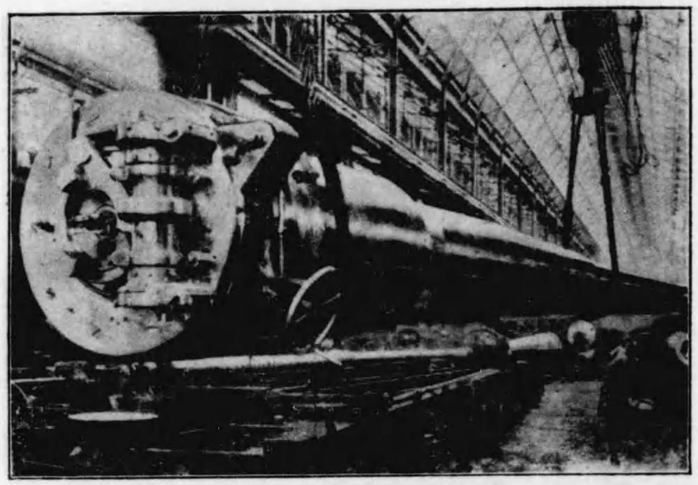
石炭の積込設備は當港の大なる誇とすべきものであるが、先づ擧ぐべきものに鐵道省經營の**高架棧橋**がある。此の棧橋は石炭積込專用のもので、室蘭驛構内埋立地の先端茶津岬から海中に突出する長さ五町餘（一九一二呎。其の内海中突出部は三町餘卽ち一一八四呎）、上部の幅九間半餘（五七呎六吋。下部の幅約十二間卽ち七二呎）、滿潮時に於ける海面上の高さ十間餘（六二呎二吋四分の三）の木造棧橋である。明治四十三年二月起工、同四十四年十一月竣工、同四十五年三月使用を開始したもので、建設費は五十四萬〇七百二十九圓を要したのである。橋上には軌條が敷いてあり、電燈も設けてあるから晝夜の別なく炭車から石炭を橋側に碇泊せる汽船の炭庫に落し得る。積込能力は一晝夜に一萬噸以上、繫船能力は三、四千噸級の船は片側に二隻宛、五、六千噸級の船は片側に各々一隻である。

此の外、北海道炭礦汽船會社營經の**コンベングローラー**、**移動コンベヤー**、**ロコモチーブグレーン**及び**フィダー**並に三菱鑛業會社經營の移動コンベヤーなどによる石炭の積込も行はれて居る。右の中高架棧橋は現在室蘭港の一大偉觀ではあるが、其の修繕費に多額の金を要するのみならず、海陸連絡設備としては現代の要求に應ずるものとはいはれない爲に、鐵道省では別に機械的設備を設けることとし、昭和三年其の工事に着手した。此の新工事は石炭積込專用の岸壁を設け、積込機械を据ゑつけるのであるが、總工費は五百萬圓、五箇年の繼續事業である。

尙、內務省では、北海道第二期拓殖計畫の一部として、當港に新埠頭を設け、石炭以外の貨物の輸移出にあてることとし、約四百萬圓の豫算を以て昭和五年に起工する豫定であるから、是等の工事が完成した曉には、市は更に一段の發展を見るであらう。

當港より靑森に至る**靑蘭航路**は北日本汽船株式會社の經營。鐵道省との連帶航路で省線との間に直通乘車券を發賣し、毎日一回定期船が往復して居る（航海時間は十一時間半）、長輪線開通以前には相當に客も荷物もあつたものだが、昭和三年九月十日長輪線全通以來此の航路は大打擊を受けて居る。

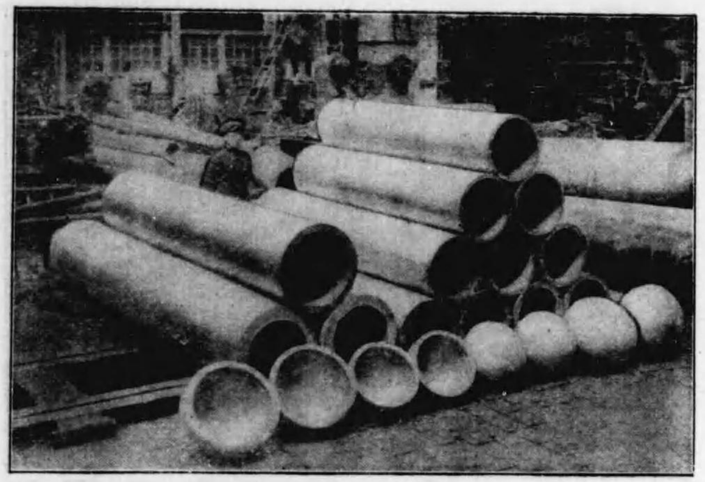
次に室蘭市の大なる誇として紹介すべきものに、**日本製鋼所**がある、當所は北海道炭礦汽船株式會社及び英國のアームストロング會社並にビッカース會社の共同經營による株式會社で、本店は東京市にあるが、工場は室蘭市內茶津町及び輪西に在る。前者を**室蘭工場**、後者を**輪西工場**といふ。元來當所は製鋼及び兵器製作の目的を以て



室蘭工場製四十糎の砲身

明治四十四年一月に開業したもの。其の頃は室蘭工場だけであつたが、大正八年十二月輪西なる北海道製鐵株式會社（北海道炭礦汽船、三井合名、三井鑛山三會社の共同經營）たりしものゝを合併して之を輪西工場とし、翌九年十一月廣島縣安藝郡仁保村なる株式會社廣島製作所を買收して、之を**廣島工場**と改稱した。尙當所々有の鑛區は隨分多いが、著しいものは朝鮮平安南道价川郡の**价川鐵山**及び北海道膽振國虻田郡の**倶知安**、**虻田**兩**鐵山**などである。

さて、**室蘭工場**の用地は約二十八萬坪、

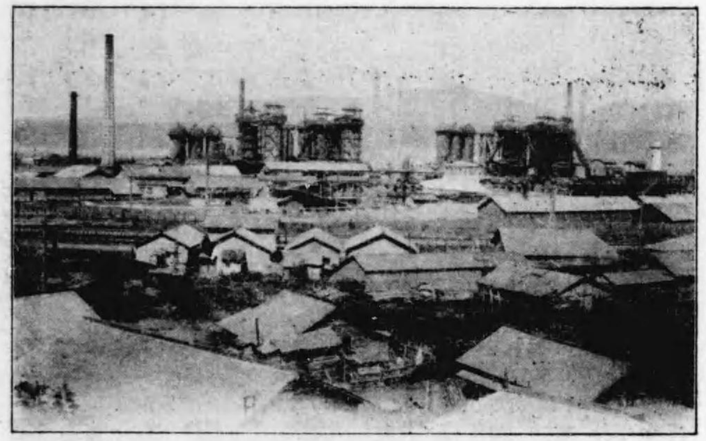


室蘭工場内に於ける水雷氣室と端蓋

鍛冶、鑄物、熔鋼、鍛錬、機械等の諸工場を備へ、鋼塊、大砲の砲身、砲彈藥筐、魚形水雷氣室、汽車、汽船、鑛山用の器具機械、製紙機、發電氣、車軸、車輪など樣々なものを製し、尙特に**鍛刀部**を設けて、常に日本刀を鍛へて居る。其の規模は實に宏大なもので、當所の用水は約三里を隔つる鷲別川から引いて居り（其の一部を室蘭水道に分水す）、各工場、埠頭及び鐵道省本線と連絡する廣狹兩軌道の延長は約二十哩に達する。當所專用の埠頭は長さ三町半餘（一三〇〇呎）、其の先端に電力百噸の起重機があ

り、工場附近御前水町には二千餘戸の社宅及び當所鎭守の御傘山神社（明治四十四年七月創建。祭神は大國主命）がある。此の外當所所屬の病院（當所關係者は勿論、一般の患者をも診療す）、倶樂部、劇場、花園等の設けもあつて、能く設備の整ふたものであるが、殊に有名な建物は**瑞泉閣**である。閣は明治四十四年大正天皇がまだ東宮にましまして本道御巡啓中、當所に行啓あらせられた際、御宿泊所にあてる爲新築したもので、殿下が親しく御命名あらせられ、後に其の御額字を賜はつた。其の後大正十一年今上天皇陛下が攝政宮として御行啓あらせられた時及び大正十五年高松宮殿下御行啓の時も、當閣は御休憩所にあてられたものである。

尙、當所の製作物中、世界に對して誇るべきものは大砲用の大鋼塊である。元來大鋼塊鑄造の場合には、其の內部に幽痕と稱する不純部の生ずるのが普通である。しかも世界各國共に之が防止を不可能とし、製鋼上の癌の如くに見做されてゐたものである。然るに當所技師**蒔田宗次**氏は苦心研究の結果昭和三年其の防止法を發明し、之



輪西工場

によつて工學博士の學位を授けられた。蒔田博士は三重縣の出身。明治三十八年東京高等師範學校を卒業したる上、東北帝國大學に入り、同大學卒業後當製鋼所に勤務して今日に至つて居る人である。今や當所に於ては最大一個百六十噸の幽痕なき大鋼塊を造り得るのであるが、此の技能を有するのは、世界中唯當所のみであるから、特に日製鋼の名を附して居る。

輪製工場の用地は約十二萬坪。構内運搬專用鐵道の延長は約十四哩で、室蘭工場の專用鐵道及び省線と連絡して居る。製煉工場（熔鑛爐四基あり）、骸炭工場（コッパース式二列六十基、コッペー式二列百五十基あり）、副產物工場等があつて、銑鐵、骸炭、硫酸アンモニヤ、ベンゾール、クレオソート油、硫酸などを製造して居る。

道外のことになるが、**廣島工場**の用地は約二十萬坪。機械、鑄造、鍛冶製罐等の工場があつて兵器、諸機械の組立、仕上及び各種工具類等を製造して居る。

市内には、繪鞆半島に於ける先史時代の遺跡（貝塚、竪穴あり）、南部陣屋址（安政二年より明治維新の際まで南部藩兵の駐屯せし處）、電信濱（海水浴場。明治二十四年森までの海底電線布設地、其の後同三十一年及び同三十七年各一線を增す）、トッカリショ、增市濱、茶良津内の勝景、本輪西神社（猿田姫外五神を祀る。櫻の名所）、八幡神社、室蘭公園など訪ふべき史蹟、名勝が少くないが、特に市の光榮とする史蹟は**明治天皇の御駐蹕址**と**天澤泉**とである。明治天皇は民情御視察の爲、明治十四年本道に行幸あらせられた時、九月二日札幌御發輦、千歲、白老を經て同月四日室蘭に御着輦あらせられ、御一泊の上翌五日軍艦迅鯨によつて森港に向はせられたのである。此の時室蘭に於ける行在所は山中萬次郎といふ人の邸宅

であつたが、同三十七年一月火災に罹つた爲に、其の土地の所有者（栗林五朔）が行在所址に水松を植ゑて此の名蹟を保存して居る。

尚、室蘭御駐輦中御用にそなへた御料水は、今も御傘山神社の境内に在る清泉で、爾來之を御前水と稱し、此の附近一體の町名を御前水町といつて居るが、後に高崎正風男爵（明治四十五年二月二十八日薨ず）が雅名を選んで天澤泉と名づけた。

室蘭本線　室蘭驛を起點とし、東輪西で長輪線と接續し、登別、白老、苫小牧、沼端、追分、栗山、志文等を經て岩見澤驛に至る八十六哩七分の鐵道を室蘭本線といふ。

登別溫泉　室蘭本線中の登別驛から、**登別溫泉軌道**（五哩四）の電車によれば、三十五分間にして登別溫泉に達する。此處は幌別郡幌別村大字登別といふ溫泉街で、海拔約二百米の山間の傾斜地に在る。泉源は數箇處に在つて、泉質も異り、硫黃泉、酸性泉、鹽類泉、單純泉等樣々に分れるが、最も著しい泉源は**地獄谷**といふ爆裂火

登別、地獄谷の地獄山

口底である。谷は湯泉街の奥數町に在つて、殆んど四方を絶壁に圍まれ、其の底には大小の丘陵が起伏して、頗る複雜な地形を呈して居る。

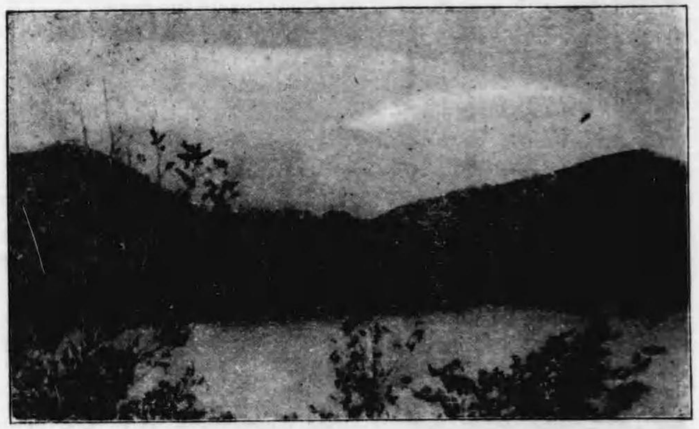
嘗て此處に在つた間歇泉は明治三十五年頃から衰へて、今は其の所在も明かでないが、鉛地獄大地獄、虎地獄、大砲地獄、血ノ池地獄、新龍卷地獄などから盛に瓦斯及び熱湯を噴出して壯觀を呈して居る。是等の熱湯は多くは長い樋によつて溫泉旅館に引用せられて居るが、泉源（地獄）の異るに隨つて泉質も異り、又醫療上の効驗にもそれ〴〵特徴があるといふことである。併し地獄谷の湯が悉く旅館に引かれる譯ではな

登別、地獄谷の大砲地獄

い。餘湯は湯ノ川といふ溪流となつて溫泉街に入り、溪中の斷崖に至るや、崖上に取りつけた十餘本の木樋に導かれて、高さ二丈餘の湯瀧となつて落ちてゐる。爲に浴客は崖下に並び立つて湯瀧にうたれることも出來る。

地獄谷から小高い峯を一つ越した處に**大湯沼**といふ火口湖がある。長徑約三百米、短徑約二百米の熱湖で、湖面は海拔約二百五十米。硫黃の噴出あるが爲、表面は常に濁つて灰色を呈して居るが、今は一つの硫黃礦區となり、船を浮べて湖底から硫黃を採取して居る。

土地の傳說によれば、當溫泉の發見は鎌倉時



登別の大湯沼

代だといふことであるが、發見の由來も其の後の來歷も詳ではない。併し當溫泉の今日ある基を開いたのは**瀧本金藏**といふ人である。此の人は埼玉縣本庄の人。安政四年本道長萬部に移住して、開墾に從事してゐたが、其の妻が皮膚病に罹つた爲に、同年秋共に此の地に來り、小屋を建てて日々入湯した。其の効によつて妻の皮膚病が全治した爲に、改めて居を此處に定め、溫泉宿を始めた。之が當溫泉の開祖といふべき人である。當時の宿は固より茅屋、浴場には屋根もなかつたといふことで、入湯客もアイヌばかり。熊の皮一枚が一週間の宿料であつたと

いふことである。其の後追々和人の客も迎へることとなつた爲に、金藏は明治十四年始めて浴室を造り、又同二十一年十月自費を以て登別村の本部から此處に至る道路の開鑿に着手した。此の道路の延長は一里二十八町で、二千餘圓の費用を要したが、二十四年十月に至つて竣成した。爲に同年十二月十七日金藏に對して藍綬褒章の御下賜があつた。之より先き和人の浴客が次第に增しつつあつたが、翌二十五年八月一日室蘭線が通じてからは、急に浴客が增加し、溫泉場としての施設も日を追うて整うて來たものである。

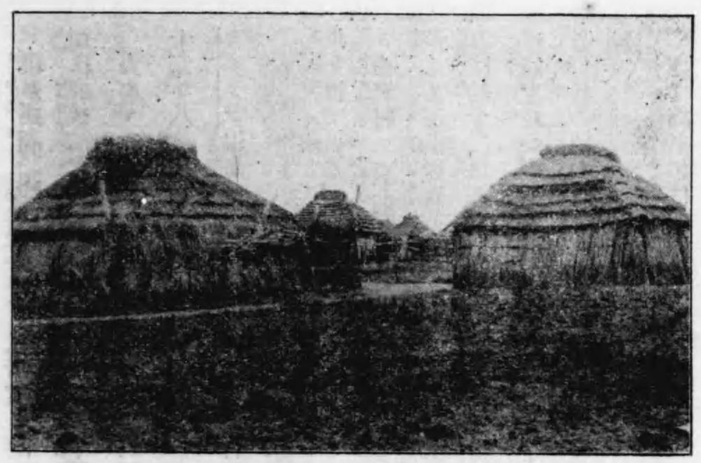
金藏は同三十二年二月八日を以て歿したが、當溫泉は年と共に繁盛に向ひ、今は宏大な旅館、商店が軒を並べて保養、遊覽の客を迎し、本道屈指の湯治場になつて居る。地は山間の溪流に臨める傾斜地で、固より廣濶ではないが、附近一體は國有の原始林で幽邃閑雅。追分山(櫻の名所)、溫泉公園、勝閧ノ瀧、紅葉谷(紅葉の名所)など觀るべき處もあり、稍遠く離れて倶多樂湖及びカルヽス溫泉もある。

倶多樂湖　は登別溫泉の東方約一里に在る火口湖で、其の周圍は約三里、略ゝ圓形を呈し、水面は海拔二七九米。湖の南西岸に中尾氏經營の姫鱒の養殖所がある。

カルヽス溫泉　は登別溫泉の北西約二里に在り、自動車によれば約二十分間で達する。明治三十二年八月日野久橘氏が開いた溫泉場で、現在旅館が四軒ある。泉質がチェッコスロバキヤ國のカルヽス溫泉に類する爲に、かく名付けたものだといふことである。此の附近にあるカルヽス沼(一名橫池)といふ楕圓形の火口湖(東西四七〇米、南北三七〇米)には日野氏が鯉を移殖して好結果を得て居る。

白老村　登別驛から苫小牧驛に至る途中に白老といふ驛がある。驛の所在地は白老郡白老村で舊土人部落視察者の乘降が多いが、其の部落は白老村の一小部分に過ぎない。卽ち白老村の全戸數は約千二百五十戸、總人口は約六千四百ある內、舊土人の戸數は約八十戸、人口は四百人內外に過ぎない。其の部落は驛を距ること數町の地にあつて、其の子弟のみを敎育する小學校もある。此の地の舊土人は多少農業も營むが、主要生業は漁業で、夏季には和人漁業家の雇人として遠く千島方面に出漁するものが多い。

さて白老村は、明治十四年に明治天皇が北海道を御巡幸あらせられた時、札幌から千歲村を經

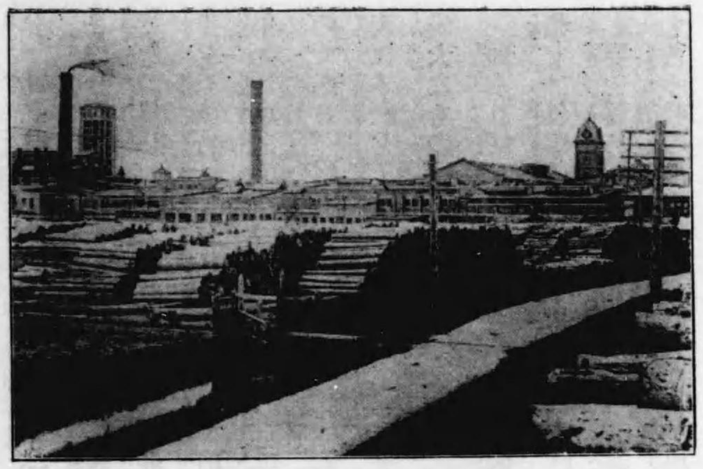


白老土人部落の家屋

て室蘭に向はせ給ふ途中、御一泊あそばれた處で時は同年九月三日。當時の行在所は大澤周次郎といふ人の家であつた。同夜御旅情を慰め奉る爲、行在所御庭に於てアイヌの熊祭の儀式及びアイヌ踊を天覽に供し奉つたのである。もつとも御前に於て熊を殺すは畏れ多いことであるから、唯其の形式に止め、之を殺さずに連歸つたものである。惜い哉此の行在所は後に火災に罹つた爲に、今は當時御庭にあつた水松だけを村内八幡神社の境内に移植して記念として居る。この木は御駐輦中天皇が特に御目をとめさせ給ひ、「麗しき木なり。」と仰せられて、御宸筆の御短冊を御かけあそばされた名木で、今之を「譽の松」と呼んで居る。

苫小牧町　は室蘭市を距ること鐵路四十哩七分。約二時間で達する。大正七年一月一日町制を布いた處で、人口は約二萬の都會であるが、町の今日あるを致した最大の原因は王子製紙株式會社が此の地に苫小牧分工場を設置したことにある。元來同社は我が國に於ける洋紙製造の元祖で、其の設立願書を大藏省紙幣寮に差出したのは明治五年十一月。翌六年二月其の認可を受け、同七年九月東京市外の王子に工場の建築を開始し、同八年七月に至つて營業を開始したものである。爾來國内に於ける洋紙需要の激增に伴ひ、各地に分工場を設けたもので、現に本社を王子町に置き、王子外十二ヶ所の工場を經營して居るが、就中規模の最も宏大なものは苫小牧工場である。

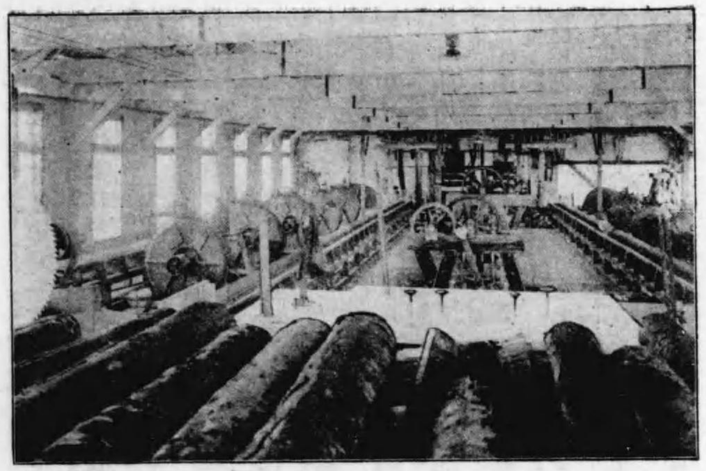
顧みれば、明治三十七年二月日露戰役の開始以來、新聞用紙の需要が頓に增加し、頻りに外國の輸入品を用ひなければならなくなつた。爲に本社は新聞用紙輸入防遏の必要を認め、同三十九年に至つて新に苫小牧に工場を設けることとしたのである。そも苫小牧の地たるや、廣大なる工場用地が得易いのみならず、鐵道の便も備はり、又



苫小牧工場

町の北西約七里の地には洪水、渇水の憂なき面積約五方里の不凍湖たる支笏湖があつて、水力電氣の發電に便であり、尙其の附近の御料林及び國有林から製紙原料たる針葉樹を得る便利もある處。會社は是等の諸點に着目して工場を此處に設けたものであるが、其の開業は實に明治四十三年九月であつた。爾來新聞用紙の輸入は遂に其の跡を絕つこととなり現に全國新聞用紙の約七割は當工場が供給して居るのである。

今や、當工場は新聞用紙の外蠶座紙をも製造し、尙電力の販賣及び木材の賣買をも兼營して居るのである。當町に於ける工場敷地は四萬六千八百餘坪、附屬用地は百五十九萬六千七百餘坪、專用鐵道の延長は約二十五哩。工場は調木、碎木、調成、抄紙、仕上、汽罐、汽機、製藥等の諸室より成り、蝦夷松、椴松の大木が苦もなく截斷せられ、粉碎せられて刻々其の姿を變じ、遂に洋紙となり、直ちに荷造して發送せられて居るのであるから、常に洋紙のみを見て居る者の目には實に珍しく、偉大なる機械力に對して驚かざるを得ない。現在當工場に從業する職員は二百三十人、職工は千六百人。職員社宅約百六十戸、職工社宅八百餘戸、職員合宿所一棟、職工合宿所九棟、共同浴場五箇所の備があり、其の外倶樂部、理髮所、病院、娛樂所、從業員補習學校、物品配給所などもあつて、實に能く設備の整ふた大工場である。殊に倶樂部には貴顯、大官を迎へる可き施設があつて、屢々高貴な方々を送迎したこともあるが、明治四十四年九月大正天皇が東宮にましまして當工場に行啓あらせられ、又大正十一年七月今上天皇陛下が攝政宮として行啓あらせられたのは、特に當工場の光榮として居ること



苫小牧工場の調木室

である。

當町から支笏湖畔に至る十五哩餘の輕便鐵道も當工場の專用であるが、一般人士の便乘を許して居る。支笏湖に就いては、既に樽前火山の條に述べて置いたから、茲には述べないが、同湖の排水路たる千歳川を利用する發電事業も當工場の經營で、千歳郡烏柵舞村に第一より第四に至る發電所があり、全部で二萬二千百キロワットの電力を發して居る。此の外千歳川の支流たる漁川を利用する漁川發電所及び尻別川を利用する尻別第一、第二の發電所も當工場の經營で、前者は千九百キロワット、後者は合せて一萬三千二百キロワットの電力を發して居る。是等の電力は苫小牧工場の外同町、白老村、札幌、小樽等に供給せられて居る。

尙、當工場用の製紙用材は、前に述べた通り、主として道内の御料林及び國有林に仰ぐのであるが、事業の確實を期する爲、會社自らも山林事業を營み、苗圃及び植栽地二百三十三萬千八百餘坪を持つて居る。

之を要するに、苫小牧町は當工場の爲に急速の發達を見た處であり、同驛は**日高線**の分岐點である。同線は今日高の佐瑠太驛等を經て靜内まで通じて居る。

浦河町　人口七千數百に過ぎないが、浦河支廳の所在地で日高國内に於ける中心市街である。

沙流軌道　は日高線中の佐瑠太より平取に通ずる八哩餘の輕便鐵道である。**平取村**は人口四千數百の村落で、其の一部に舊土人部落がある。其の戸數は約三百、人口は凡そ千三百。概ね農業を營んで居る。村内に源義經を祀る義經神社があつて、舊土人の崇敬を受けて居る。

北海道鐵道　話が再び室蘭本線に戻るが、苫小牧の次驛**沼ノ端**は室蘭本線と北海道鐵道との交

叉點である。同鐵道は當驛より北西に向つて函館本線中の苗穂驛に通じ（三八哩九）、尙一線は東方に向つて、今は邊富内まで達して居る（四一哩）。

夕張線　沼ノ端から更に北東に進むこと十六哩六分の地に追分といふ驛がある。驛は夕張線の分岐點。同線は紅葉山、鹿ノ谷等の諸驛を經て夕張驛に通ずる線（二七哩二）と紅葉山から分れて登川驛に至る線（四哩八）とで、共に石炭を運ぶことの多い線である。

夕張町　は夕張諸炭坑の採掘によつて開發せられた市街で、人口約四萬八千に達する。

夕張鐵道　追分驛より室蘭本線を北方に進むこと十三哩に栗山といふ驛がある。驛は夕張鐵道の分岐點。同鐵道は當驛より鹿ノ谷驛を經て、今は新夕張驛まで通じて居る（一八哩七）。

万字線　栗山驛より岩見澤に至る途中に志文といふ驛がある。當驛より分れて萬字炭山驛に通ずる線を萬字線といひ（一四哩八）。夕張鐵道と共に石炭を運ぶことの多い線である。當驛の北方三哩五分の岩見澤驛は室蘭線と函館本線との接續地であるが、此の地については函館本線に沿ふ都會を說明する場合に述べることにする。

壽都鐵道　長萬部驛から叙述の都合上、話を長輪線及び室蘭本線方面に轉じたが、玆で復話を函館本線方面に戻す。長萬部驛から函館本線を北行すること十二哩四分に黑松内といふ驛がある。驛から分れて北西に向ひ、壽都町に至る鐵道（十哩二）を壽都鐵道といふ。壽都町は人口約五千。此の方面に於ける主要漁業地である。

倶知安町　黑松内から函館本線を進むこと三八哩七分にして倶知安驛に至る。倶知安はアイヌ語で「狩小屋」といふ意味であるから、昔は盛に狩の行はれた處と見える。眞狩岳（蝦夷富士）の麓に在る人口約一萬四千の町で、後志支廳の所在地。此の地方に於ける中心都會であるが、取立てて紹介する程のものはない。驛から分れて南東に向ふ鐵道は京極線といひ、今は京極驛等を經て脇方まで通じて居る。同線中の京極驛から分れて南方に向ふ鐵道があるが、之は膽振鐵道で今喜茂別まで通じて居る。

岩内線と岩内町　倶知安の次に小澤といふ驛がある。此の驛から分れて西方なる岩内に通ずる線を岩内線といふ。岩内町は人口凡そ一萬四千。古來漁業の盛な地として知られた處で、既に築港も完成し、將來益〻發展すべき形勢を示して居る。尙此の地に在る日本アスパラガス株式會社はアスパラガス（西洋うど）の栽培、收獲、加工、販賣一切を經營して好成績を擧げて居る。主として東京に供給して居るが、其の品質は頗る優良で、外國品に讓らず好評を博して居る。

余市港に於ける生鰊の荷造

余市町　函館本線は小澤驛から北東に向ひ、十八哩餘にして余市驛に着く。倶知安附近から此處に至る間の沿線では苹果畑が次第に多くなり、余市に至つて其の最も盛なるを見る。併し余市の苹果については既に産業の條に述べて置いたから、此處には述べない。

元來余市は本道屈指の漁業地として知られた處。殊に鰊の漁獲を以て有名な處である。近年其の漁獲高は多少減少の傾向を示して居るが、其の漁期には奥羽地方からの臨時出稼者が頗る多い。即ち三月中旬から秋田、青森、岩手の諸縣から出稼者が多數入込んで漁業家に雇はれ、鰊の漁獲、運搬、鰊潰等に從事し、五月下旬頃歸鄕する。此の出稼者を「ヤン衆」とも「神樣」とも呼んで居る。

余市に於ける主要漁獲物は鰊の外、鰮、鱚、鰈、蛸、鱈、鰤、鮪、烏賊、昆布、和布、石花菜、角又などであるが、漁業家は主として海濱に居を構へて居る。之が余市町の本部で、普通余市市街と呼ぶ。此の舊市街に對して、近來余市驛附近に新市街が出來て居るが、俗に之を大川市街といひ、今や、全町の人口は約二萬。國費支辨の水産試驗場は高島町（小樽市附近）より移されて當町に新築せられ、港は昭和四年度より六年間の繼續事業として築港工事を起して居る。完成の後には町は更に盛況を呈するに相違あるまい。

町内余市小學校裏手の畑の中に、竪穴址が三つ殘つて居るが、將に湮滅せんとして居る。

小樽市　余市から函館本線によつて東方に進むこと十二哩半（五十分間を要す）、蘭島、鹽谷二驛を經て小樽驛に着く。驛は小樽市の中央部に在る中心驛であるが、此の外市内には、函館本線中に南小樽、小樽築港の二驛があり、尙南小樽から分れて手宮に通ずる手宮線（一哩七）中に色内、手宮の二驛がある。

市は東西二里十六町（九五粁六）、南北二里三十五町（十一粁六七三）、面積三方里七〇九（五四方粁九五八）に達する大都會。北、西、南の三方を繞れる丘陵、山岳が其の脚を伸ばして、市中に多くの起伏をつくり、唯東方のみが小樽灣（石狩灣ともいふ）に向つて開いて居る。隨つて市の大部分は緩傾斜地に屬し、灣に向つて五指狀に流れ込む手宮、色内、於古發、入舟、勝納の五小流が地を數部に區切り、川沿の谷は深く内部に入込んで居る。

聞けば、小樽は「ヲタルナイ場所」と稱へた處。「ヲタルナイ」はアイヌ語で「砂川」又は「小石川」といふ意味。もとは見る影もない小漁村に過ぎなかつたといふことである。然るに明治四年北海道開拓使廳が札幌に置かれ、石狩原野の開拓及び石狩炭田の開發が先づ行はれることとなつたが爲に、各種物資の呑吐口とし、海陸運輸の接續地として、新に石狩灣岸に港を設ける必要を認めた。當時石狩川の河口を以て之に充てんとする說もあつたが、米國技師クローフォルトの意見によつて、小樽が其の選に當ることとなつた。乃ち同年札幌、小樽間の道路開鑿の工事を起し、同十一年に至つて竣工、翌十三年十一月二十八日札幌、手宮間の鐵道も開通し、手宮に棧橋も出來、茲に商港としての端緒を開いた。かくて翌十四年明治天皇が本道を御巡幸あらせられた時には、八月三十日先づ當地に御上陸あそばされ、直ちに汽車で札幌に向はせられたが、其の際有栖川宮熾仁親王（明治二十八年一月二十四日薨去）は叡旨を奉じて當地の鐵道附屬工場を御巡覽あらせられた。

其の後、道内の開發に伴つて、貨物も蝟集し、戸口も增加し、市街の狹隘を感ずるやうになつた爲に、同二十年沿岸三萬三千餘坪の埋立地を造り、同二十三年には水面積二千三百坪及び三千二百坪の船入澗を築設して市街の擴張と海陸連絡の便を圖つた。其の前年卽ち同二十二年七月三十一日當港は特別輸出港となり、爾來港勢は日に盛況を呈したものであるが、港口が廣過ぎる爲、冬季北西風の吹荒む時に當つては、高島、茅柴兩岬を廻つて押寄せる怒濤の勢が猛烈であり、又春、秋の候に於ける東

風による激浪も港内に襲來して、船舶碇泊の安全を期することが出來なかつた。

然るに同二十五年七月本道長官に就任した**北垣國道**（同二十九年四月まで在任）は、當港將來の重大なる使命に鑑みて、之が修築の急を唱へたのみならず、翌二十六年內務大臣**井上馨**（大正四年九月四日薨ず）も本道を視察して其の必要を認め、國費を以て築港工事を起す豫定の下に、其の設計調査を命じた。道廳に於ては當時札幌農學校（今の北海道帝國大學の前身）に於て土木工學を講じてゐた教授**廣井勇**に其の設計を命じた。

餘談に亘るが、廣井教授は高知縣高岡郡佐川町の生れ（文久二年九月二日生）。九歲にして父を失ひ（明治三年）、其の後は祖母と母との手で育てられてゐたが、十一歲の時（明治五年）叔父侍從片岡利和（明治三十三年五月九日男爵を授けられ、同四十一年十一月二日薨ず）を賴つて上京、同家の學僕となつた。かくて刻苦勉勵、明治十年十六歲にして札幌農學校に入學、同十六年米國に渡つた。時に年は二十二歲。夙に土木工學に志してゐた所から米國に於ても苦學しつつ其の學を修め、後命ぜられて獨逸に留學。二年間其の研究を續けた上、同二十二年七月二十八歲にして歸朝し、直ちに札幌農學校の教授になつた。爾來同校に土木工學を講ずること約八年。其の間一方に於ては本道廳の土木課長を兼ね、函館及び其の他の港の築港に關する調査、設計並に工事の監督に當つたもので、同三十二年四月工學博士の學位を授けられた。時に年は三十八歲であつた。

さて、年月に於て話が前に戻るが、小樽の築港工事設計は廣井博士の手によつて立てられ、先づ其の第一期工事として**北防波堤**を築造することとなつた。其の工事は博士の擔任で行はれたものであるが、其の起工は明治三十年五月であつた。然るに當時はまだ土木工學の幼稚な時で、現在行はれて居るケーソン式などといふ方法の生れ出ない時代であつたから、先づ海底を深く掘下げ、石を入れて其の底を固め、其の上に混凝土製方形の塊を積上げたのである。然るに方形塊を餘り大きく造る譯にゆかないが爲に、激浪に搖動かされる心配があつた。爲に塊と塊との間にホゾをいれて結びつけたものだといふことである。聞けば博士は非常な決心を以て工事に當り、自ら人夫

と共にセメントを捻つたものださうで、常に家人に向つて「若し此の事業成らずんば混凝土を以て我が身を包み、以て防波堤の人柱とならん。」と語つて居られたといふことである。次に掲げるのは大正十三年八月二十五日小樽で、港の修築工事及び市營の沿岸整理工事の竣工式を擧行した際に於ける小樽築港に關する博士の追懷談の一節であるが、之によつても博士が如何に心血を注がれたものかを察することが出來る。

小樽築港の緒が開かれたのは明治二十六年で、故北垣男が北海道長官であり、故井上侯が內務大臣であつた時だと思ふ。當時政府は横濱築港の大失敗に懲々してゐた爲に、小樽に築港工事を起すなどといふことは以ての外だといふ風に見えてゐた。所が井上內務大臣が東北地方及び北海道の視察をした時、親しく小樽の地勢を視、又北垣長官から小樽港修築の必要を聽いて、成程と共鳴した。……中略……其の頃井上侯の勢力は大したものであり、又隨分恐れられてゐたものであるが、小樽は勿論、北海道の發達は井上侯の盡力、北垣男の努力に負ふ所が多い。明治三十年小樽港の修築費二百十二萬圓が議會の協賛を經、愈々其の工事を起すことが出來たのも、全く是等の人々の盡力の賚だと謂つても差支はない。

私は小樽に行く前、函館で少しく築港の仕事をした。其の時、砂が港內に押寄せて水深を淺くする結果、段々船が海岸近くまで來ることが出來ぬやうになり、荷役が面倒になつて來た。防砂堤をつくる必要ありと認めて、此の事を侯に話した。幸ひ侯が早速承知せられた爲に、函館に防砂堤が出來た。其の後侯が再び函館に來られた時、素裸になつて堤內の海中に這入つて調べて見られた。所が築堤後函館區が少しもかまはなかつた爲に、スツカリ淺くなつてゐて砂が一杯になつてゐた。そこで侯は烈火の如くに憤り、案內役の區長に向つて「政府が貴重な國費を割き、函館の爲に防砂堤を造つてやつたのに、此の有樣は何事だ。」と詰責した。侯は元來肝癪の强い人であつたが、此の時には目の玉が飛出る程に叱りつけたものだといふことである。

侯の肝癪玉は有名なもので、當時の人々は其の破裂を恐れたものであるが、侯は一度是なりと信じて、實行しようと決心したならば、如何なる妨害があつても、やり通さなければ承知せぬといふ誠意と熱をもつてゐた偉人である。侯に此の熱誠があつた爲に、小樽の築港も横濱の次に着手することが出來たのである。侯が明治二十六年視察に來られた時は、まだ鐵道は札幌、手宮間だけにしかなかつたが、唯形式一遍の保養的視察ではなく、或は馬に騎り、汽車に乘り、或は汽船により、時には草鞋がけで精細に土地、民情を視察せられたもので、國を思ひ、民を思ふ實意

の深い勇敢な政治家たることを窺ひ知るに足るものがあつた。

北垣男も北海道の開拓に多大の努力を拂つた人である。一部の人は男が道内に土地を所有して居られた爲に、男の努力は其の土地の利益を圖る爲だと惡口を曰つたものだが、之は全くの誤解で、男を見る明のなかつた人の酷評に過ぎない。私は井上侯及び北垣男の如き人々は、北海道の大恩人として感謝しなければならないと信ずる。

小樽の築港費二百十二萬圓といふ金は、今では必ずしも問題にするやうな大金ではない。併し當時の國勢と貨幣價値から考ふれば、實に巨額の經費であつた。小樽區民も私等も、丸で鬼の首でも取つたやうに喜び勇んだものである。今日では港灣にも、土木にも、鐵道方面にも、大家が揃つてゐて、少しも事を缺かないが、當時は其の人達がまだ卵ともいふべき時代であつたから私は小樽築港の大任を負うて、實は人知れず非常な心配をした。

其の頃は、まだセメントを使つた經驗がなく、一體どういふ工合に使ふのかも判つてゐなかつた。横濱築港の失敗といふのも、其の使方が惡かつたのだと聞いてゐたから、之には頗る頭を惱ました。偶〻佛蘭西の或雜誌を讀むと、セメントに火山灰を混ぜれば、非常に成績が好いといふことが出てゐた。早速試驗して見ると、如何にも成績がよいので、盛に之を取寄せた。併し後には小樽附近で取れた爲に、大いに工費も助かつた。

併し友人などが來て「君そんなものを使へば、二三年たつとゾク〳〵波に浚はれて行くぞ。」などといつて冷かしたり、脅かしたりする。大丈夫だらうと思ひながら實施したことではあるが、まだ大した確信のない時のことであるから、ヒヤ〳〵しながら仕事を續けてゐた。所が或日暴風雨が起つて海が大いに荒れ始め、激浪が高く海岸にまで打寄せて來た。防波堤が氣懸りで、其の夜はどうしても眠ることが出來なかつた。若し此の波で防波堤が壞されるならば、切腹する外はないと度胸を定め、夜明けを待ちかねて見廻りに出かけた。所が有難いことには少しも損害を受けてゐないので、ヤレ〳〵嬉しやと安心したものである。こんなことが一二度あつてから後は、確信がついたから度胸も定まり、

廣井工學博士の肖像

風が吹きすさんでも、海が荒れても一向氣にかからぬやうになつた。今から思へば馬鹿〳〵しいやうなことであるが、其の頃は頭も幼稚であり、經驗も足りなかつたから、眞劍になつて考へたり、研究したり、心配したりしたものである。

火山灰を使ふことは、私が小樽で使つたのが日本で最初の試みであるが、今では何處でも使はぬ所はないといふ有樣である。今の道廳の港灣課長伊藤君などは私と共に勉强して働いた有望な技術家で、明治四十二年に着手した第二期工事などは、殆んど同君一人で設計もし、着手もしたといつてよい。下略……

廣井博士擔任の第一期工事たる**北防波堤**の築造は明治四十一年五月に至つて竣工した。堤は港の北端ポントマリ岬に起つて南端なる平磯岬に向ひ、其の長さ十一町四十八間五尺（四二五三尺）で、起點に近く幅五十尺の小舟通航路を設けた。堤の主部は干潮面下十九尺まで捨石を投じて先づ其の基礎を造り、其の上部に混凝土塊を傾斜積とし、更に其の上部一帶に場所詰混凝土を施したもの。堤の幅は二十四尺（四間）、高さは干潮面上六尺五寸に達せしめ、其の內外は混凝土塊を階段形に布置して堤を擁護して居る。之に要した經費は二百十八萬九千餘圓であるが、此の防波堤によつて、北西風によつて起る激浪に對し、本港の北半部を安全に被覆することが出來たのである。

さて、此の第一期工事の始め頃、廣井博士の部下として極めて忠實に働いた技師に**青木政德**といふ人がある。此の人は京都生れ。十七歲にして鐵道局見習生となつて以來、主として土木工事に從事し、或は琵琶湖疏水の難工事及び關西線中の加太隧道工事の完成に盡力し、或は北海道炭礦鐵道敷設にも關係したものであるが、明治二十六年北海道廳屬に任ぜられた。かくて廣井博士の部下として小樽築港の事に關係し、同二十九年北海道廳技師に昇進した。翌三十年愈〻防波堤築造工事が始められるや、青木技師は自ら潛水服を纏うて深く海中に入り、嚴寒の候といへども、殆んど晝夜の別なく海中に於て、波濤の力を驗測してゐた。爲に遂に病に罹つたが、猶其の作業に當つたものである。之を見かねた友人、先輩などが頻りに靜養を勸めても、之に應ぜず

して仕事を續けた。それが爲に工事は益々進行したが、病氣は次第に重くなり、同三十三年五月十八日を以て歿した。乃ち有志者が相謀つて記念碑を、北防波堤の起點に近い手宮公園に建て、同技師の事蹟を永久に傳へて居る。

男爵北垣國道の銅像

餘談に亘るが、小樽築港の恩人**北垣國道**は明治二十九年四月拓殖務次官に轉じ（拓殖務省は同年四月一日新設、翌三十年九月一日廢止）たが、同年（二十九年）六月五日男爵を授けられ、後樞密顧問官となり、大正五年一月十六日八十一歳で薨じた。其の銅像は京都市内にもあるが、小樽公園内にも建ててある。

廣井勇博士は、其の後東京帝國大學工學部教授に任ぜられ、幾多の俊才を教育して大正八年六月退職せられた。併し元來博士は「生きて居る中は仕事をする。仕事の出來なくなつた時が即ち死である。」との固い信念を懷いてゐた人であるから、退職後も孜々として土木工學の爲に盡し、昭和三年十月一日狹心症にかかり、六十七歳で天國に昇られたが、其の當日まで、東京帝國大學土木科に於ける工學辭典編輯會議に臨まれたのである。今小樽公園東山の頂上に在る博士の胸像の除幕式は昭和四年十月十二日に行はれたもので、永久に小樽港を看守つて居るものの如くに思はれる。

話が復前に戻るが、明治四十年時の長官**河島醇**（明治三十九年十二月就任、同四十四年四月二十八日薨ず）は本道拓殖進展の大勢を考慮し、小樽港に**南防波堤**築造の必要を認め、第二期工事として施行する計畫を樹て、技師**伊藤長右衛門**擔任の下に、同四十一年度を以て起工した。此の工事は主に函塊式によつたもので、大正十年七月に至つて竣工したが、其の經費は五百十七萬八千餘圓に上つた。茲に第二期工事の概略を述べんに第一期工事によつて出來た北防波堤に增延工事を施して、其の全長を十五町三十九間二尺（五六三六尺）とし、其の南端と幅二町十三間二尺（八百尺）の正港門を隔てて長さ八町

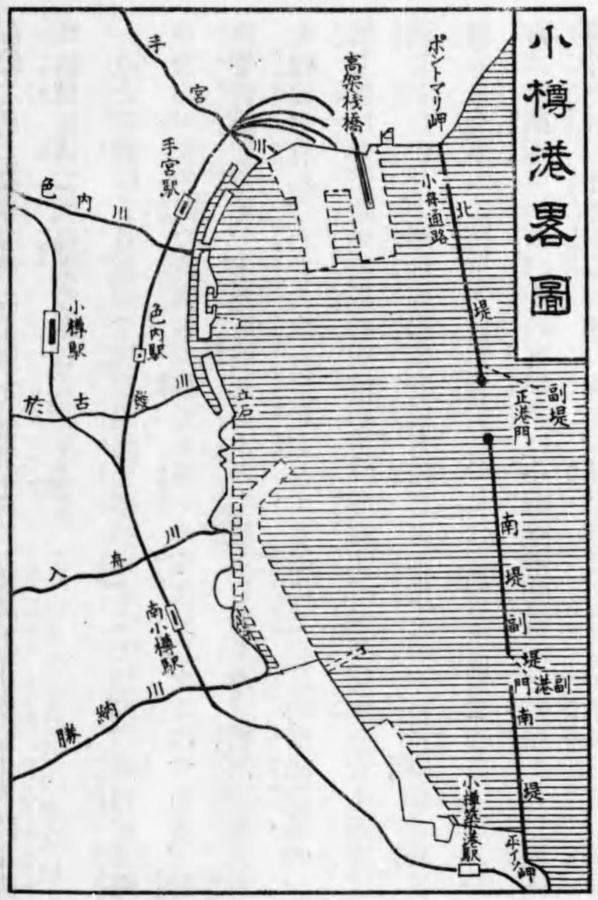
二十三間三尺(三〇二一尺)島形の防波堤を築き、更に其の南に五十一間二尺(三〇八尺)の副港門を隔てて長さ八町三十二間四尺(三〇七六尺)、半島狀の防波堤を築き、以て平磯岬に連接せしめたのである、それ故現在小樽港の防波堤は、北はポロアントマリ岬から、南は平磯岬に至る間にあつて、其の全長は三十二町三十五間三尺(一一七三三尺)に達するのであるが、北堤内に幅八間二尺(五十尺)の小舟航通路があり、又南北兩堤の間には幅二町十三間二尺(八百尺)の正港門、南堤中には幅五十一間二尺(三〇八尺)の副港門があるのである。

第二期工事中、半島形防波堤の構造は第一期工事に準じたものであるが、主要部たる島形防波堤及び北堤の增延工事は、捨石上に二十六尺立方鐵筋混凝土製の函塊を並べ立て、其の上部に場處詰混凝土を施したもので、堤の高さを干潮面上五尺とし、堤の内外兩側には混凝土塊が並べてある。

正港門の兩脇なる兩堤頭には圓壔形混凝土造の燈臺が各々一基立つて居る。燈火は紅綠二色、高さ滿潮面上四十八尺(八間)、三秒時毎に明滅する閃光明滅式で、光達距離は晴夜に於て九海里である。

以上國費による第一、第二兩期工事の完成によつて、港内は全部安全な碇泊地になつたが、此の間に鐵道省に於ても種々の施設をしたものである。卽ち同省に於ては從來手宮驛を以て、本港海陸連絡上の主體としたもの。構内面積五萬餘坪、線路延長十七哩餘を有し、石炭の取扱を主とする關係上、其の附屬設備の一つとして、高架棧橋を設けた。此の棧橋は明治四十三年起工、翌年完成したもので、工費は四十三萬餘圓を要した。室蘭港の高架棧橋と同じく木造トレッスル型で、長さは凡そ二町三十八間(九四八呎)、幅約十一間四尺(七〇呎)、高さ十間餘(六十一呎)。一年間の積込能力は百二十萬噸である。此の外同省は小樽築港驛構内を擴張した。同驛はもと構内面積一萬坪内外の小停車場であつたが、明治四十五年より大正三年に亘り、附近の海面六萬八千二百坪を埋立てて、今や構内諸般の設備中である。

又、小樽市は市營第一期港灣修築事業として、運河式埋立工事を起した。此の工事は大正三年を以て起工し、同十二年九月竣工したもので、工費は百九十萬餘圓を要したものであるが、手宮川河口から市内堺町の立岩に至る沿岸八



百間に亘る海面五萬三千餘坪を使用して、在來の市街地沿岸との間に長さ十二町十五間、幅二十二間、水深八尺の運河を殘し、島形及び半島形の埋立地を造り、合計三萬二千七百九十八坪の地積を得たのである。其の埋立地の中央部には面積二千二百餘坪の船入場が設けてあつて、小舟の繫留及び船員、旅客乘降の便を圖つて居る。今や此の埋立地には倉庫が立ち並び、在來の海岸にある倉庫と共に、普通貨物年額百萬噸の取扱能力を備へて居る。

斯の如く小樽の港は、政府、鐵道省及び當市の計畫による諸種の工事が行はれて、人爲的の良港となつた爲に、大正十三年八月二十五日を以て、小樽港修築及び沿岸整理工事の竣工式を擧行した譯である。今や港内水面積は百三十餘萬坪に上り、船舶の碇泊は極めて安全である。然るに當港にはまだ海陸連絡設備として一般の使用に充てる埠頭、棧橋の大なるものがなく、旅客、貨物の乘降取扱に不便を感ずることが多い。高架棧橋の如きも必ずしも現代の要求に適應する設備とはいはれない。仍つて政

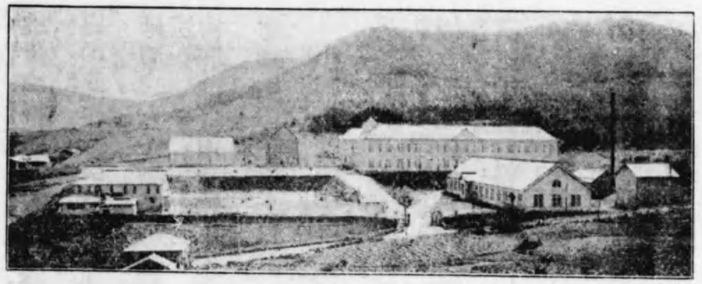
府は更に本道第二期拓殖計畫事業の一部として、昭和四年度以降十六箇年の繼續事業とし、總工費千〇九十萬圓を以て、本港を修築することにして居る。卽ち現在の北防波堤の南端より五十間後退した處を起點とし、現堤に對して四十度の角を保つ長さ二百間の副防波堤を增築し、又島形防波堤の南端から、現堤延長線と三十度の角を保つ長さ二十五間の副防波堤を增築する豫定である。

尙、手宮驛前の海面六萬〇百四十五坪を埋立て、幅八十間、長さ二百四十間の埠頭二基を、八十間の間隔を置いて設ける。かくて水深二十八尺の繫船岩壁を築造し、五千噸級の船舶十二隻を同時に繫留せしめて荷役を爲さしめる。尙又市營第一期埋立地中央部より海中に突出する幅三十間、長さ九十間、面積二千七百坪の埠頭一基を設け水深二十五尺を有する繫船岸壁を築設して三千噸級船舶の繫留に充て、以て船客の乘降及び貨物の取扱を便利にする筈である。

次に、鐵道省は昭和二年度以降六ヶ年の繼續事業とし、工費八百萬圓を以て、埋立地及び棧橋を設ける豫定である。卽ち埋立地は小樽築港前の船入澗附近及び既設埋立地の北に續いて合計六萬二千七百餘坪を造り、更に長さ百五十間幅十五間の棧橋を設けて、六千噸級の船舶を繫留せしめる豫定である。此の工事完成の曉には現在の手宮驛は普通貨物專用の海陸連絡設備を整へ、小樽築港驛は石炭及び木材の取扱設備を加へる筈である。

小樽市營の新計畫は、立岩から勝納川河口に至る沿岸に於て二萬二百餘坪の埋立地と二千八百六十餘坪の水中貯木場及び千百九十餘坪の船入場を設ける豫定で、此の埋立地と鐵道省埋立地との間には幅三十三間の運河を殘す筈。此の工事費は百六十三萬三千圓の豫算で四ヶ年の繼續事業とする筈である。

築港話が存外長くなつたが、元來小樽發展の基は本道開拓の初期に於て、海陸運輸の接續地たる選に當り、道內拓殖の大關門たる地位を占め得たことによつて開かれたものである。然るに其の港は天然の良港でなかつた爲に、官民協力諸種の施設を加へ、



小樽高等商業學校

以て原始的港灣をして文明的港灣たらしめ、今や更に時勢の進運に伴ふ設備を整へようとして居るのである。顧みれば小樽が開港場になつたのは明治三十二年八月四日で、第一期の築港工事中のこと。當時既に本道内の要都たる地位に達し、同年十月一日、函館、札幌と共に**區制**を實施した。爾來三都鼎立の姿を呈し、殆んど同一歩調を以て發達し、大正十一年八月一日**市制**を布いた。當時小樽の人口は十一萬七千餘に過ぎなかつたが、今や人口十五萬餘。道内では函館、札幌に及ばないだけである。思ふに小樽市は**高等商業學校**（明治四十四年の開校）以外には誇とすべき學校もなければ、官廳、軍衙もない。然るにかく長足の發展を見たのは道内の開發及び港灣設備の整頓に伴ふ對内、對外兩商業の發展によるものである。隨つて倉庫業、金融機關は能く發達して居るが、工業上に於ては誇るべきものが少く、北海製罐倉庫株式會社及び日本製粉株式會社以外には大きな工場はない。

北海製罐倉庫株式會社は市内北濱町に在る。大正十年の設立で、日はまだ淺いが、非常に盛なもので、今では東洋第一の製罐工場である。製罐原料の鉄力は米國製、英國製及び國産品を併せ用ひ、米國製自動製罐機を使用して、罐詰用の空鑵十數種を製造して居る。主要販路は露領勘察加、本道各地及び青森等。近來の年産額は凡そ一億一千七百萬個（其の内約七千萬個は露領勘察加に向ふ）。之を積み重ねる時は、富士山の高さの約二千倍となり、又横に並べる場合には地球の赤道の約四分の一に達するといふこと。當會社は市の工業界中特別の光を放つて居る。

品が前に戻るが、商業は小樽市の大生命。當市から府縣に向つて移出せられる主要品は豆類、魚肥、鹽魚、乾魚、石炭等であり、府縣から當市へ移入する重要品は織物

金屬類、米、釀造物等である。

外國貿易は其の總額に於ては函館に及ばないが、輸出に於ては函館を凌駕して居る。重要輸出品は豌豆、木材、板、隱元豆、鹽鱒等で、主要輸入品は米、鉄力、小麥石油、豆粕等である。

港は海運界の一大中心で、北海道廳の命令航路たる小樽稚内線、同北見線、同函館線、遞信省命令の函館樺太線、秋田縣廳命令の小樽船川線、樺太廳命令の小樽眞岡線、同眞岡惠須取線、同大泊線、伏木敷香線、同惠須取線、樺太東岸線、同西岸線及び小樽大阪線、同東京線、同伏木線等幾多の定期航路の發着點及び寄港地であるから、船舶の出入は頗る頻繁、港内は常に盛況を呈して居る。

當市の市街はもと海岸に沿うて弓狀を呈してゐたものであるが、市の發展につれて勝納、入舟、於古發、色内諸川の上流に向つて奥深く人家が立ち並び、谷も丘も市街に化しつつある。隨つて市を海上より望めば、大體の形勢は神戸市及び門司市に似た點があり、市街の奥と口とでは土地の高低に著しい差がある。爲に市民を養ふ水道は配水上、市を高低兩區に分けて居る、當市の水道の水源は二ヶ處あるが、其の一つは奥澤水源池で、市内天神町字二俣に在る。此處は小樽驛の東南約一里半の山間で、勝納川の支流二俣川が本流に會する合流點。川を横斷する一大堤を築いて水を堰止めたもので、人爲的湖水が出來て居り、其の餘水がそれより下流の勝納川を養つて居るのである。水は飽くまで清く、あたりの樹林が其の影を靜かに水面に浮べて頗る風趣に富み、市の一遊覽地になつて居る。他の一つは朝里水源で、小樽築港驛の東方半里餘の地點で石狩灣に注げる朝里川の水を引用するもの、川の上流海拔一九三米餘（六四〇尺）の地に貯水池が設けてある（市外）。奥澤水源は人口九萬、朝里水源は八萬を養ふ能力を備へて居るが、將來市の人口が增して十七萬人以上に達する場合には、更に配水能力を增す爲の擴張工事を施すべき餘地が殘してある。

市内の遊覽地中先づ擧ぐべきは小樽公園である。園は市の中央部なる天然の一大丘

廣井勇博士の胸像

陵を利用したもので、其の面積は約九萬坪。松、櫻、梅等各種の樹木鬱蒼として、清新の氣滿ち、歩道縱横に起伏して變化に富む。丘頂に立てば小樽の海陸双眸に收まり、海を隔て遠く石狩、天鹽の連山を望む。園内嵐山には既に述べた男爵北垣國道の銅像あり、東山には工學博士廣井勇の胸像、西山には忠魂碑がある。其の外、市役所、圖書館及び綠、花園兩小學校、グラウンド並に公會堂などもある。公會堂は明治四十四年八月大正天皇がまだ東宮にまし〳〵て本道御巡啓中、當市に行啓あらせられた際、其の御旅館に充て奉らんが爲、此の地に於ける經濟界の重鎭であり、又市の元老たる藤山要吉氏が獨力建築して市に寄附したものである。其の後大正十一年七月時の攝政宮殿下（今上天皇陛下）が本道御巡啓の際にも、此處に御一泊（同月十日）あらせられた。

當公園の東方約十町、海岸近くに水天宮山といふ丘がある。丘上に水天宮（安政三年の創建）の社がある爲に、此の名を得たのである。小樽公園よりも遙に低い丘であるが、市の展望上の好適地として知られて居る。去つて市街の北端に向へば、手宮驛構内に接して、手宮公園がある。園は小樽港の北岸に蟠れる海拔六十米餘（約二百尺）の丘陵を利用したもので、其の面積は約四萬坪。此處も亦小樽の水陸を大觀し得る好展望所。殊に活氣の滿ち〳〵た港の形勢を觀るに最も都合のよい場處である。園内には既に述べた通り、青木政德技師の記念碑があり、又大正九年露領ニコライエフスク（尼港）に於てバルチザンの毒牙に殪れた邦人七百餘名の遺骨を納める尼港殉難者納骨塔もある。

下つて手宮驛構内に入れば、有名な**手宮の洞窟**を見ることが出來る。洞窟は手宮公園の南端一帶、凝灰岩の斷崖中に在る可なり大きな南面の岩窟であるが、奥行は極淺いものである。聞けば慶應二年或石工の發見に係り、當時は窟内の廣さは凡そ八疊敷位もあつたといふことである。然るに其の内壁に一種の彫刻が施してある爲に、明治十一年榎本武揚等が此處に出張し、其の彫刻を模寫して東京の大學に送つた。

手宮の洞窟

爲に急に名高くなり、同年東京大學の雇教師**ジョン、ミルン**も之を模寫して新聞に發表し、之に關する意見を述べたことがある。かくて其の彫刻が繪か模樣か、或は文字かの判定もつかぬ中に、誰が呼始めたか、**手宮の古代文字**と稱せられて今日に及んで居る。其の後同十三年**開拓使**からも役人が出張して所謂古代文字を模寫したもの。其の模寫は現に札幌博物館に藏せられて居るが、之をジョン、ミルンの模寫に比べて見ると、彫刻に非常な變化があり、又其の數まで違つて居る。此の變化は小樽市に於ける此の方面の熱心な研究家**五十嵐鐵**氏の研究によつて、白野夏雲といふ人が物産、岩石等調査の爲に、道内巡廻の際、其の部下の者が、彫刻に變化を加へ、尙草とも木とも判定し難い形を彫加へたものだといふことが立證せられた。

明治十一年ジョンミルン模寫手宮の古代文字

然るに其の後にも、何人かゞ更に惡戯を加へたものと

見え、明治十六年故渡瀬庄三郎博士撮影の古代文字の寫眞を見ると、開拓使の模寫（明治十三年）とは復大いに趣が違つて居る。斯樣な惡戯は其の後に於ても絶えなかつたと見え、同二十一年の夏坪井正五郎博士（大正二年五月二十六日薨ず）が現場に臨驗せられた時には、新についた疵及び擦れ痕などがあつて、正しく模寫することが出來なかつたといふことである。

下つて同三十年頃、此の附近を石炭置場としてゐた北海道炭礦鐵道會社で、彫刻を明瞭にしようとて、特に手入れをした上、朱を塗つたといふことであるが、此の際大いに形を毀損したものだといはれて居る。其の後手宮に高架棧橋を架設し（明治四十三年起工、同四十四年竣工）、之に導く鐵道敷設の際、洞窟の外部が甚だしく破壞せられ、彫刻の大半は土砂中に埋沒した。そこで土地の有志が其の保存の必要を認め、土砂を取り除けたが、彫刻は著しく剝落減少してゐたのである。其の後も猶惡戯を加へたものがあつたものか、或は天然自然の風化浸蝕によるのか、大正元年に寫された寫眞と同

明治十三年模寫手宮の古代文字

七年寫しの寫眞とを比較しても、全く一致しない點がある。

今は窟前に金網張の建物があつて、彫刻に觸れることの出來ないやうにしてあるが、此の建物は市の有志が組織した保存會が大正七年に建てたものである。隨つて同年以後の古代文字には人工的變化が加はつてゐない。

さて、此の所謂古代文字が何であるかは今以て判然しない。或學者は一種の繪畫ならんといひ、或人は靺鞨語なるべしともいつたことがある。然るに大正七年に至つて或人は手宮の古代文字は古代の土耳其文字で、「……我は部下を率ゐ、大海を渡り……戰ひ……此の洞穴に入りたり……」といふ意味だと發表し同時に齊明天皇時代の彫刻だらうと推測した。爲に古代文字の發見以後、彫刻其の物に屢々人手の加はつて居ることを知らな

現在の手宮古代文字

い人は、既に解決がついたものの様に思うて居るのであるが、其の事情を知つて居る者は此の説に對しても首肯しかねて居るのである。此の外、手宮の洞窟はアイヌ酋長の住宅の奥の院に當るものであり、壁面の彫刻は最初其の部下の家譜を彫りつけたものであらうといふ説などもある。

想ふに、古代文字の發見以後、明治十一年ジョン、ミルンが模寫するまでの間にも、何人かが彫刻物に惡戯を加へてゐはしないかとの懸念もないではないが、前記五十嵐鐵氏の調査によれば、明治七年古代文字を熟視した小樽現存の老人が、ジョン、ミルンの模寫以外の模寫或は寫眞は皆惡戯の加はれるものだといふさうである。隨つて同氏は「古代文字其の物を讀破しようとするならばジョン、ミルン模寫の古代文字を讀破しなければならぬ。」といふ意見を懷いて居られる。古代文字發見以後明治七年に至る間に於て、彫刻に變化が有つたか、無かつたかを知るべき有力な資料の得られない今日に於いては、最も穩健な考へ方だと思はれる。

斯樣な次第で、手宮の所謂古代文字が何であるか、又如何なる民族の彫刻なるかはまだ解決しないが、小樽名所の一つであり、又本道の一名蹟に相違なく、既に大正天皇は東宮の御時、明治四十四年八月本道御巡啓に當つて親しく御臺覽あらせられ、政府は大正十年三月本洞窟を指定して史蹟と爲し、尙今上天皇陛下は大正十一年七月攝政宮として本道へ御行啓あらせられた際、御臺覽あらせられた。

さて、手宮の洞窟から手宮驛に至る途中、手宮町三丁目十五番地に近海郵船株式會社の小樽支店がある。之はもと日本郵船株式會社の小樽支店といつたものであるが、

忍路の環狀石籬

其の頃卽ち明治三十九年十一月十三日、樺太に於ける日露の國境劃定第一年の作業を終つた兩國の委員が相會して、殘りの作業に關する協議をした處として有名な建物である。當時其の協議に使用した室は、二階の二間で、一つは會議室、他の一つは控所。今に其の儘殘つて居り、控所の壁間には協議中の有樣を撮つた寫眞が掲げてある。

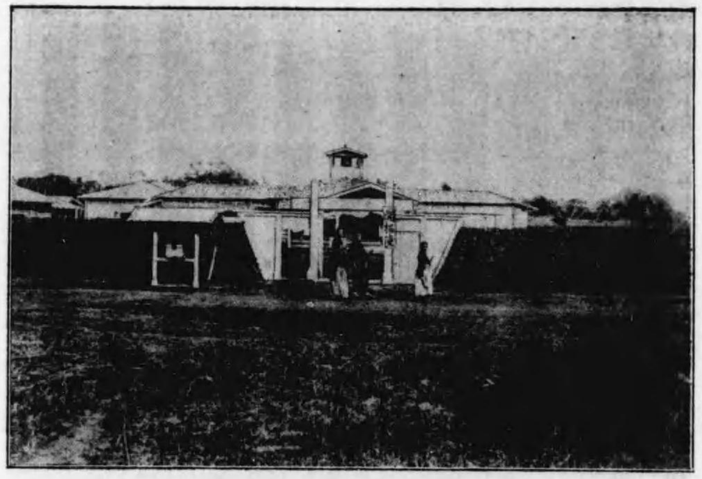
此の外、新富町の龍德寺（曹洞宗）、松ヶ枝町の金毘羅大本院（眞言宗高野派の寺）及び量德町の住吉神社（縣社）は市內に於ける有名な寺社である。

忍路の環狀石籬　小樽市の西方約三里、忍路村字土場の澤（蘭島驛の東方數町三笠山の麓）に東西の直徑十五間餘、南北の直徑十二間餘楕圓形の周圍に自然石約三百を立て並べた處がある。之は我が國に於ては頗る珍しい環狀石籬卽ち英語のストーン、サークルで、遠き過去の時代に、對岸の大陸から此の地方に移り住んだツングース族の遺蹟だらうといはれて居るものである。其の用途については、或は祭壇、或は寺院なるべしとの說もあり、或は宅地、墳墓ならんかとの說もあり、又天體觀測所ならんとの說もあるが、まだ何れを眞とすべきかの解決はついてゐない。

札幌市　札幌はアイヌ語のサトポロの轉訛で、「乾いた廣い土地」といふ意味である。石狩平野の西南部に位して、石狩川の支流豐平川の中流に跨り、西には三角山（三一一米）、圓山（二二六米）、藻岩山（五三〇米）等の連山があるが、其の他は一望際限なき平野に連り、市街は全く平地に在る。此の地函館を距ること鐵路百七十九哩餘、普通列車によれば約十時間、急行列車によれば約八時間半を要し、小樽からは二十一哩餘で、約一時間で達す

る。

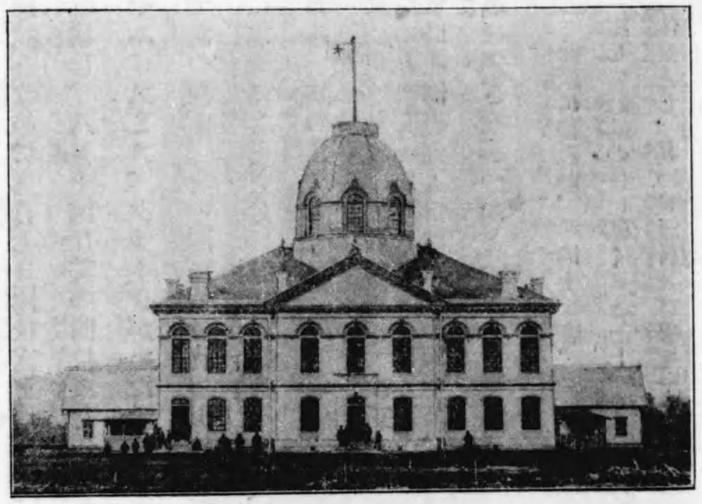
市の沿革を見ると、明治維新前の狀態は詳でないが、安政、萬延の頃、此の地方一體は鬱蒼たる密林で、猛獸の出沒した處、唯數戸の土民と二戸の移住者が居たに過ぎないといふことであるから、それ以前の狀態は推して知るべしである。然るに明治二年十一月十日時の開拓使判官**島義勇**が、將來此の地を全道の首都と爲すべき豫定の下に、サトポロの密林中に分け入つた。此の時島の一行は百五十人ばかりであつたといふことであるが、十一、十二の兩日を以て、島は先づ開拓使假廳舍敷地の繩張を爲し、續いて今の豐平館の裏手（北一條西一丁目）に官舍を建て、十二月三日之に住込んだものだといふことである。翌三年二月島は轉任して東京に歸つたが（後に島は明治七年江藤新平と共に佐賀の亂を起し、四月十三日刑せられた）、三月大判官岩村通俊が赴任して着々計畫を實行し、同四年三月**開拓使假廳舍**の建築に着手して四月に落成し、五月開拓使が函館から此處に移つた。假廳舍は平屋で、建坪は五十三坪、太鼓櫓があつて、時を報ずる爲に毎時太鼓を打つたもの。今の北四條東一丁目に在つたもので、建築費は千三百十一圓餘であつたといふことである。今とは貨幣價値に相違があるとはいへ、此の金高を思ひ、又僅か二月の間に出來上つたことを思へば、粗末なものであつたであらう。同月**市街の區劃**を行ひ、又今の南一條東一丁目に**札幌本陣**といふ旅館の新築に着手した。當時札幌には宿屋がなく、官民共に不便を感じた爲に、特に開拓使が本陣を建てることにしたのである。本陣は七月に至つて竣工。其の建坪は二百四十五坪、七千八



開拓使假廳舍

百四十二圓餘の建築費を要したといふことである。今の**札幌神社**の假宮が始めて圓山に建てられたのも此の年六月のことで、其の遷宮が行はれたのは九月十五日。其の頃の社格は國幣小社であつた（遷宮以前は明治三年春今の北六條東一丁目に建てた小祠に祀つてあつた。祭神は大國魂命、大名牟遲命、少彦名命）。かかる間に募りに應じて函館地方から移つて來た商人が二十餘戸あり、其の他にも移住者があつた爲に、此の年（明治四年）札幌は全部で二百餘戸の小市街を形造ることが出來た。

翌五年七月今北海道廳のある處（北二、三條、西五、六丁目）に**開拓使本廳舍**の建築を始めたが、其の設計者は開拓使の顧問米國人**ホーレース、ケプロン**。其の建築に當る大工木挽、鍛冶等の諸職工千三百二十五名は東京からつれて來たもので、其の經費は三萬一千二百九圓餘。同六年十月に至つて竣工した。本館は二階建、其の上に八角形の塔を戴く西洋造。當時之が北海道第一の建築物で、特に人目を惹いたものだといふことである（此の建物は明治十二年一月十七日火災に罹つて焼失した）。



開拓使本廳舍

ケプロンはもと米國農務局長であつたが開拓使次官黒田清隆が洋行中（明治四年）に開拓使顧問として招聘したもので、北海道開拓に關する方針を立てる上に、功勞の多かつた人である。明治五年正月二十日開拓使が他日高等農事教育機關を建てる準備とし、又機を見て札幌に移轉する豫定の下に、東京の芝、山内に**開拓使假學校**を設けたのも、ケプロンの建議によつたものである。其の後札幌の戸口も次第に增加し、市街も稍整うて來た爲に、明治八年札幌に新校舍を建て、名を**札幌**

學校と改めて九月七日開校式を擧げた。然るに翌九年其の組織を改めて**札幌農學校**と改稱し、八月十四日其の開校式を擧行したが、此の時教頭として有名な米國人**ウイリヤム、スミス、クラーク**がゐたのである。クラークはマッサチューセッツ農科大學長であつたが、時の開拓使長官黑田清隆が高等農學校組織の衝に當るべき人格者を米國に求めることとし、我が外務省を通じ、駐米公使吉田清成を煩はして招聘したものである。其の爲クラークは現職の儘一年間の賜暇を許され、明治九年七月三十一日札幌に到着。札幌學校の內容に大改正を加へて遂に札幌農學校を開校せしめたのである。當時北海道の人口は僅かに約十萬、札幌の人口は三千に滿たず、同校の學生は二十四名に過ぎなかつたといふことである。

餘談に移るが、明治十年春、クラークは我が政府との契約期限が滿ちた爲、四月十六日札幌を辭して歸國の途に就くこととし、先づ陸路室蘭に向つたが、當日同校では敬意を表する爲、臨時休業とし、其の朝職員及び學生一同はクラークの宿舍にあてられてゐた札幌本陣前に集まり、出づるを待つて皆馬に跨り、記念の寫眞を撮つた上、札幌の南東約六里膽振國島松まで送つた。かくて同地の驛遞中山久藏といふ人の家に休憩して晝食を喫したのであるが、其の間も一同はクラークの周圍を去らずして別れを惜んだ。さて、愈別を告げる時になると、クラークは學生一同に向ひ「一枚の端書によつて、長く諸子の消息を報ずることを忘る勿れ。」と幾度も繰返しつつ再び駿馬に跨り、「青年諸君、宜しく大志を懷く可し。」(Boys, be ambitious.)といふ名句を殘した上馬に一鞭を與へて立去つた。クラークは札幌に在ること僅かに八ヶ月餘。しかも其の間に於て學生の受けた感化は實に偉大なもので、札幌農學校の校風はクラークによつて樹立せられたものといはれて居る。其の後クラークは明治十九年三月九日六十歳で歿したが、札幌農學校では同年五月三日校內の演武場に於て盛大な追悼會を擧行した。演

クラークの肖像

武場は（明治十一年十月十六日竣工式擧行）今も元の儘に殘つてゐて、俗に**時計臺**と稱せられ（正面屋根上に大時計がある爲）、札幌市教育會の圖書館となり、階上の廣間は講演會場になつて居る。

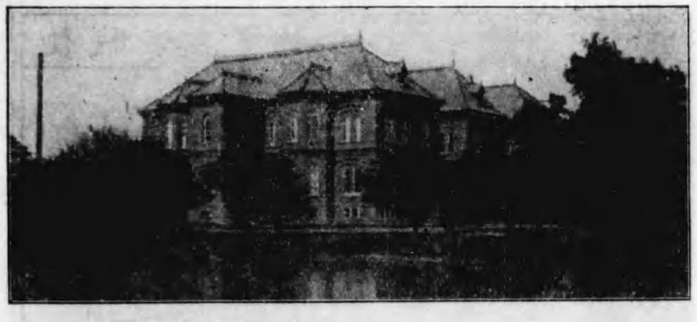
尙、今同校の後身たる北海道帝國大學農學部の校庭に在るクラークの胸像は、同大學が大正十四年創起五十年記念式を擧行した際に建てられたものであり（除幕式は五月十四日）、市內大通に在るクラーク會堂は大正十一年有志がクラークを記念する爲に建てたものである。

さて札幌農學校が現在の北海道帝國大學になるまでの沿革は後に改めて述べることにするが、同校からは隨分多くの俊才を出したもので、枚擧の遑がない程であるが、現在北海道帝國大學總長農學博士**佐藤昌介**氏は同校第一期（明治十三年卒業）卒業生であり、又農學博士、法學博士**新渡戸稻造**氏は第二期（明治十四年卒業）の卒業生である。彼の小樽築港第一期の工事を擔任した工學博士故**廣井勇**氏も新渡戸博士と同期の卒業生である。

餘談はさて置き、札幌は其の後年と共に發達し、明治十三年十一月二十八日札幌手宮間の鐵道が開通して一層活氣を添へ、翌十四年には辱くも明治天皇の御行幸を仰ぐに至つた。卽ち此の年八月三十日、天皇は小樽に御上陸あらせられ、直ちに列車に

豐平館

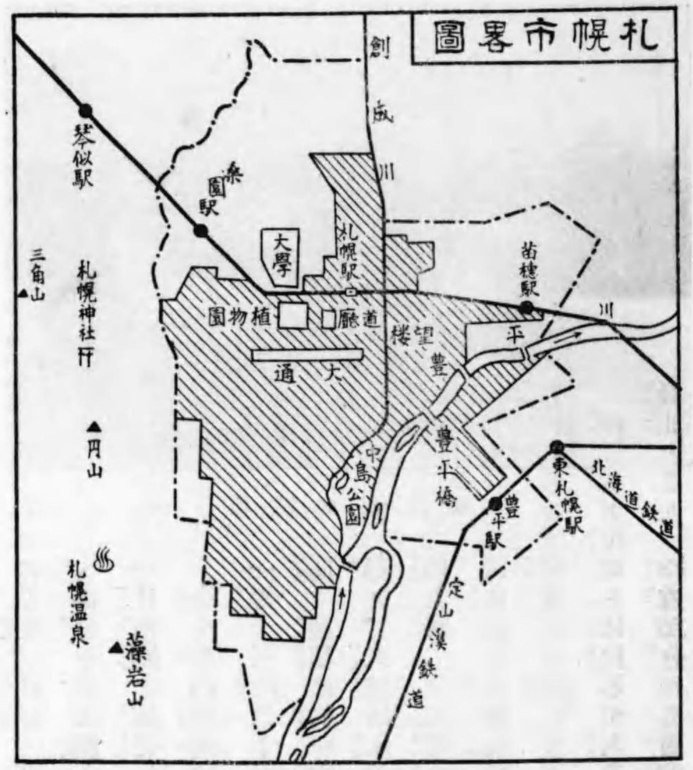
御乘御の上札幌に向はせ給ひ、行在所**豐平館**に入らせられた。館は前年開拓使が建築に着手し、此の年八月御行幸以前に竣工したものである。御駐輦三日の間に、天皇は札幌農學校、官營麥酒釀造所（明治九年開拓使が創設したもの。今の大日本麥酒株式會社札幌支店の前身）及び眞駒內牧場並に山鼻小學校等諸處に御臨幸あらせられ、九月二日室蘭方面に向つて御發輦あらせられた。今山鼻小學校前の山鼻小公園中に、**御聲がかりの櫻**といふ大木があるが、之は山鼻小學校へ御臨幸中、樓上より窓外に見えた此の木に御目を



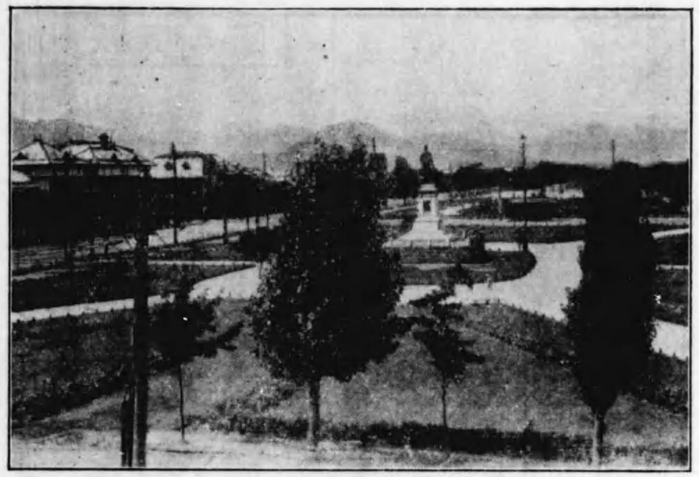
北海道廳

とゞめさせ給ひて其の名を問はせられ、侍臣が其の槲なることを奉答したといふ由緒ある名木である。後の話であるが、此の外同園内には明治四十四年八月大正天皇がまだ東宮にましまして本道御巡啓の際の御手植の樹及び大正十一年七月今上天皇陛下が攝政宮として本道御巡啓の際の御手植の樹も彌榮えに榮えて居る。右兩度の御巡啓に當つても、豐平館は御駐泊の光榮に浴した。館は木造洋式二階建の建築で、今は札幌市役所の管理に屬し、其の許可を受くれば、明治大帝玉座の御間を拜觀することが出來る。

茲で話が復もとに戻るが明治十五年二月八日開拓使は廢止となり、全道が分れて函館、札幌、根室の三縣に分



れた時、札幌は札幌縣廳の所在地となつたが、同十九年一月二十六日右三縣を廢し、新に北海道廳を置いて全道を管轄せしむることとなるや、札幌は其の所在地となつた。爾來札幌は全道に對する爲政の中心として日に繁榮を加へ、明治三十二年十月一日區制を實施し、同四十三年四月一日隣接



札幌市の大通

の豐平、札幌、苗穂、白石の一町三ヶ村の大部分を區に編入した上、大正十一年八月一日**市制**を施行した。

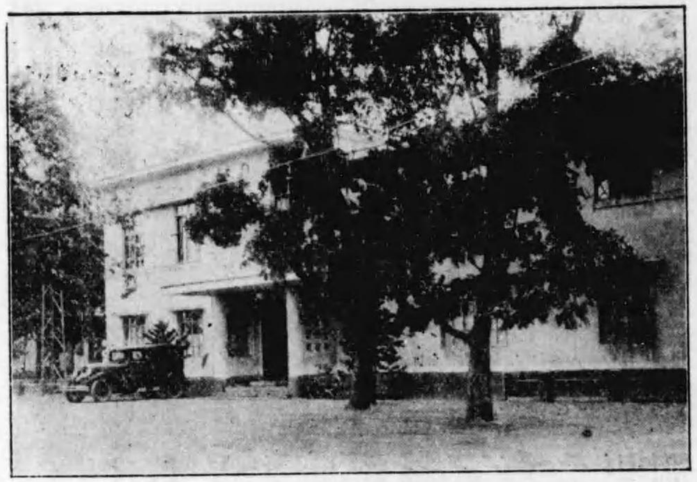
今や市の周圍は約七里。其の廣袤は東西一里十三町二十五間、南北二里二町二十五間。面積は約一方里半。戸數は三萬一千を超え、人口は凡そ十七萬餘に達して居る。即ち嘗て一大密林たりし地が僅か六十年間に化して全國屈指の大都市となつた。其の發展には驚かざるを得ない。嘗てクラークは「國にして人なくば國なきに等し。」と曰つたことがあるが、密林時代の札幌は殆んど世の顧みる處とならなかつた。然るに其の後官民幾多の人を得、其の努力によつて能く今日の大都市を築き上げたのである。

其の市街を見るに、札幌市本部の中央部を東西に貫く廣場がある。之は**大通**といつて、幅は六十間。本市の中央防火線と逍遙地とを兼ねたもので、其の中に黒田清隆伯及び永山武四郎將軍の銅像並に開拓記念碑もあり、又綠樹青草の間に花卉が植ゑてあつて、美觀を呈して居る。此の大通を基準として、北方は北一條、同二條と次第に數を增しつつ北二十六條まであり、南方は南一條より同三十條まである。又東西區分の起點は豐平川より分水せる**創成川**（排水及び防火用）で、之より東一丁目或は西一丁目と稱し、東は十五丁目、西は二十丁目まである。しかも其の區劃は整然として碁盤の目の如く、新編入部も本部の例に則つて市區整理を爲しつつある。市内外の景觀を大觀するには藻岩山が最もよいが、市内に於て市の形勢を展望するには、公立札幌消防組で建てた**望樓**に登るがよい。樓は同組長向井次郎氏の盡力によつて出來たもの。豐平館附

近に在つて、鐵筋混凝土造、七階建。昇降機によつて機敏に昇降することが出來る。其の高さは屋上なる避雷針の尖端まで實に百四十三尺。今では之が市内最高の建築物である。

札幌市の望樓

今や市は北海道廳、石狩支廳、札幌控訴院、同聯隊區司令部、同憲兵分隊、帝室林野局札幌支局、札幌營林區署、札幌鑛山監督局、北海道帝國大學、同物產館、札幌鐵道局、同放送局等の所在地で、政治、學術等諸方面の中心に當り、又鐵道省苗穗工場、帝國製麻株式會社札幌製品工場、大日本麥酒株式會社札幌工場、古谷第二製菓工場、北海製綱株式會社等の大工場を始め幾多の工場があつて、盛に各種の工業が行はれて居る。麥酒、亞麻製品、乳製品、木工品、菓子類、清酒、味噌、醬油、革製品等は其の產額の特に多い工業品で、商業も頗る盛である。



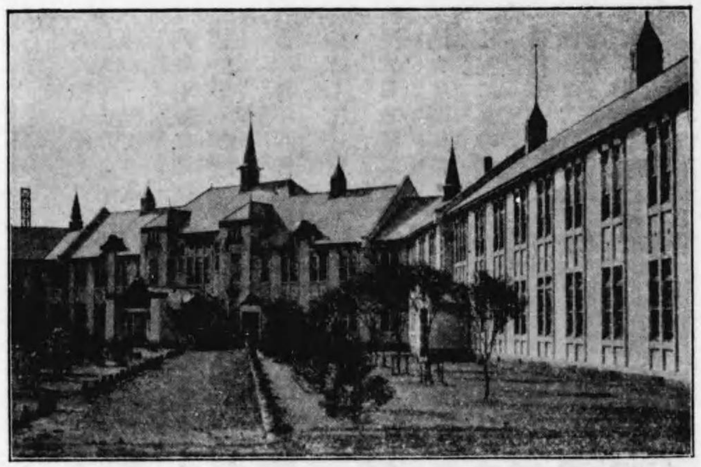
札幌放送局

市内には市營及び札幌溫泉軌道の電車が通じて居り、鐵道は函館本線の外、苗穗驛から分れて邊富内に通ずる**北海道鐵道**及び白石驛から東札幌、豐平等の諸驛を經て定山溪に至る**定山溪鐵道**があり、又札幌驛附近から石狩河岸の茨戸に至る軌道もあつて

交通も頗る便利である。

北海道帝國大學　曩にクラークによつて組織された札幌農學校は其の後年と共に名聲を高め、明治三十二年現在の農學部の位置即ち市内北八條西六丁目に改築することとなり、同年六月十三日盛大な起工式を擧げた。かくて同三十六年七月三十日改築校舍に移轉したが、其の際前に述べた**演武場**（今俗に所謂時計臺）だけは舊位置（北一條西二丁目）に其の儘殘して置いたのである。

然るに同四十年六月二十二日の勅令によつて**東北帝國大學**を仙臺に置くこととなるや、當校は組織を改めて其の一分科となり、東北帝國大學**農科大學**と改稱した（九月一日）。其の後大正七年三月三十日の勅令を以て、札幌に新に**北海道帝國大學**を置くこととなつた爲に、從來の東北帝國大學農科大學は同年四月一日より改めて其の一分科となつた。かくて翌大正八年四月一日本大學に**醫學部**を新設すると同時に、在來の農科大學を**農學部**と改稱し、更に同十三年九月**工學部**を新設して今日に至つて居る。本大學がまだ札幌農學校と稱した時代に、明治天皇の御臨幸を仰いだことは既に述べたが、明治四十四年八月二十六日（東北帝國大學農科大學時代）には時の皇太子殿下（後の大正天皇）の御臺臨を辱くし、大正十一年七月十二日（北海道帝國大學時代）には攝政宮殿下（後の今上天皇陛下）御臺臨の光榮に浴した。



北海道帝國大學工學部

此の外、本學は豫科、農學實科、林學實科、土木專門部及び水産專門部を附設し、尙農學部は附屬農場（第一より第八に至る農場及び余市の果樹園の九ヶ所に分る。其の中第一及び第二農場は本學敷地に連接し、其の他は道内各地に散在す）、附屬演習林（道内に四ヶ所、樺太、朝鮮、臺灣、和歌山縣に各一ヶ所あり）、植物園及び博物館を經營し、醫學部は附屬病院を、水産專門部は後志國忍路郡忍路村に臨海實驗所を經營して居る。

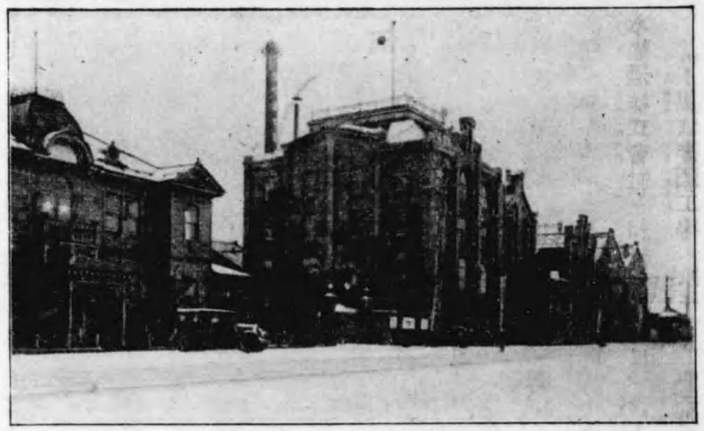
農學部附屬植物園　は市内北三條西八丁目に在つて、其の面積は三萬六千五百六坪餘。明治十七年の創設で、廣く北海道及び内外國産の植物を蒐集栽培し、植物學實地教授用並に研究資料に供するのみな

らず、道外及び外國産の植物中、本道に適するものあるや否やを試驗し、以て本道の園藝、林業其の他の産業に資するを目的として居る。農學部附屬博物館は當園内に在つて、天産、勸業、史傳の三部より成り、主として本道産の動物、鑛物及び人類學並に民族學に關する標本を蒐集し、尙各府縣産及び外國産の顯著な標本類も陳列されて居る。是等の諸施設を行ふに當り、常に構内原始林の保存に留意して居るから、老樹大木が到る處に繁茂し、アイヌ穴居址の竪孔も遺つて居る。毎年四月から十一月に至るまで公開して衆庶の觀覽に供して居る爲に、當園は札幌名所の一つとして遊覽者の數が頗る多い。

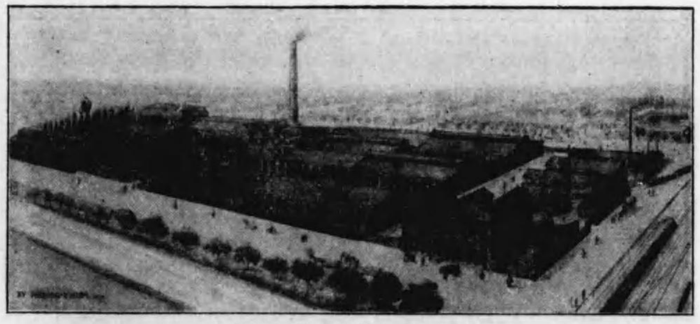
大日本麥酒株式會社札幌工場　は市内北二條東四丁目に在る。玆に當工場の起原を見るに、明治九年開拓使が本道拓殖事業の一つとして道産の大麥及び葎花を以て麥酒を釀造することとし、札幌に其の釀造所及び葎花園を設けたのが始まりで、當時は官營であつた。然るに同十九年民業に移り、同二十一年札幌麥酒株式會社の經營となつた。爾來年と共に其の規模を擴張し、本邦麥酒釀造界の重鎭となつたが、同三十九年一月日本、大阪、札幌の三麥酒株式會社が合併して**大日本麥酒株式會社**を組織した爲に、當工場は其の札幌工場と改稱することとなつた。

當工場は**麥酒工場**（敷地一五、九三四坪。建物坪數三、六三五坪。水一日使用高五千石。一年の釀造力八万石。職員二十五人。職工三〇八人）、**麥芽工場**（市内苗穂町に在る。敷地四四、一八三坪。建物坪數二、一四四坪。職員八人。職工五一人）、**製壜工場**（市内北四條東七丁目に在る。敷地六、二〇六坪。建物坪數一、六〇八坪）、**葎花園**（市内の山鼻、苗穂及び上富良野に在る。植付地積四十町歩）の四部より成り、此の外附屬設備として、麥酒箱製作所、大樽製作所、機械修繕所等を備へ、又社宅、寄宿舍等を設けて居るのであるから、實に大規模のものである。

製品は札幌ラガ麥酒、同黑麥酒、ミュンヘン麥酒、生麥酒等で、いづれも世の賞讃を博して居るが、特に原料を外國に求めず、國産を用ふることは、當工場の大なる誇であり、又明治十四年八月三十一日明治天皇の御臨幸を仰ぎ、同四十四年八月二十八日時の東宮殿下（後の大正天皇）の御臺臨を辱くし、大正十一年七



札幌麥酒工場

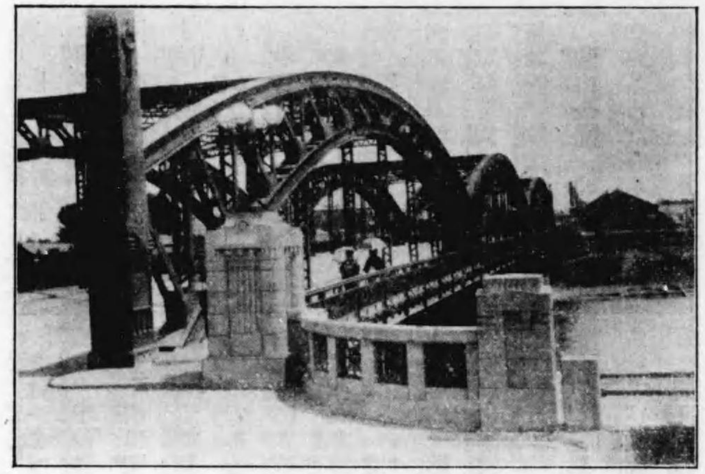


帝國製麻會社札幌製品工場

月攝政宮殿下（後の今上天皇陛下）の御行啓を仰いだことは當工場の大なる光榮である。

帝國製麻株式會社札幌製品工場　は市内北七條東一丁目に在る。そも帝國製麻株式會社は明治四十年七月日本製麻株式會社と北海道製麻株式會社の兩社が合併して設立したもので、本店は東京市日本橋區日本橋北詰に在る。其の工場は製線、製品兩工場に分れ、前者は北海道内に三十餘ケ所あり、後者は札幌の外大阪市、大津市及び鹿沼町（栃木縣）にある。其の原料は日本在來の麻とは全く類の異る亞麻である。

當會社の製品にはリンネル服地、着尺地、ワイシャツ地、卓子掛、ハンカチーフ、手藝用リンネル地、シーツ、帆布、ダック（天幕、貨車雨覆、軍隊の寢具地、水兵のヅボン等用途の頗る廣いものである）、飛行機翼用布、ホース、蚊帳糸、疊糸、網糸、柳行李編糸等諸種のものがあるが、札幌工場の製品は主として帆布類である。



豐平橋

當工場の敷地は八、〇四〇坪、建物坪數四、〇五〇坪、從業員は六百名を超え、舍宅、寄宿舍、幼兒保育所等の設備もあつて、實に堂々たる大工場である。

北海道物産館　は市内北一條西四丁目二番地に在る。館はもと北海道廳が經營してゐた北海道商品陳列所を札幌商工會議所の經營に移管したもので（昭和四年四月一日）本道生産品の改善、發達、普及を圖り、又本道商工業の發達を助成することを目的とするものである。之が爲其の事業として本道特産物及び參考品の陳列、本道名産品の試賣、道産品を主とし各種商品の即賣、商工業に關する調査並に取引の紹介、見本市、試賣會、展覽會の開催、館内貸室及び館外賣店の貸付等を行つて居

る。隨つて本道商工狀態の一般を大觀するに頗る重寶な處である。

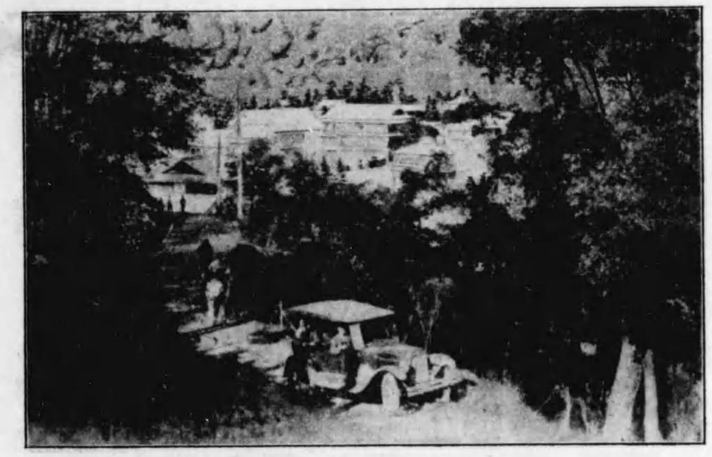
豐平橋　は市内に於ける橋梁中の最大偉觀。南四條通より豐平及び月寒なる步兵第二十五聯隊兵營方面に通ずる要路中、豐平川に架けたる鐵橋で、大正十三年の架設。長さは六十六間。幅十間。其の中央三間は電車道、其の兩側二間宛を車道に充て、更に兩端一間半宛を步道としたもので、工費八十萬圓を要したものである。

中島公園　札幌驛の南方約十町に在る。明治十七年公園豫定地として施設を加へ、同二十一年一先づ竣工したが、其の後同四十三年度に至り、更に樞要地域に手を加へて始めて公園と稱した。豐平川と其の分流たる創成川との間に挾まれ、殆んど島に近い地形を備へて居る爲に中島公園と呼ぶのである。地積は十八萬六千餘坪、老樹蓊鬱として其の影を池水に映し、池中常に十數の短艇を備へて遊漕を待つ。園内に忠魂碑（西南、日清、日露戰役戰病死者の靈を合祀す）、農業館、拓殖館、放送局などがある。

圓山公園　は札幌神社の境域に接する公園で、其の面積は十七萬五千餘坪。園内に日露戰捷記念たる市内各小學校の記念造林及び愛國婦人會札幌支部の御大典記念植林などがあり、又特に櫻が多い爲に、其の花時には盛に觀櫻會の行はれる處である。

札幌神社　の創立に就いては既に前に述べたが、明治五年官幣小社、同二十六年同中社に列せられ、更に同三十二年七月十七日官幣大社に列せられた。現在の社殿は同三十年より幾多の歲月を經て成りたるもの。北海道の總鎭守として世の尊信篤く、毎年六月十五、十六兩日の例祭には參拜者が頗る多い。今上天皇陛下は大正十一年七月十二日攝政宮殿下として御參拜あらせられ高松宮殿下は同十五年五月十五日に御參拜あらせられた。

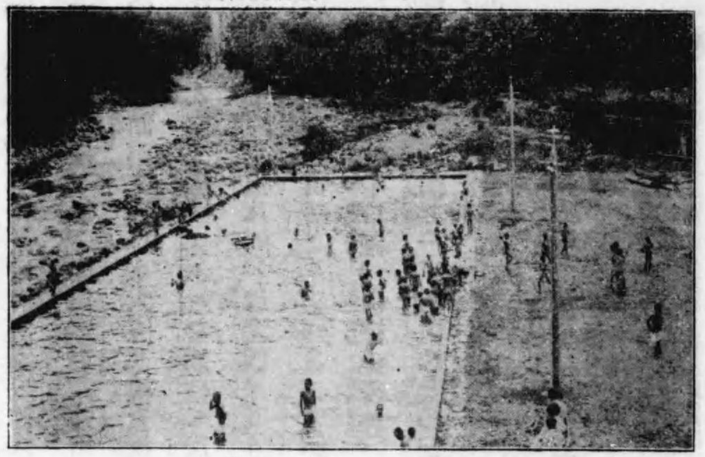
市外月寒に農林省の種羊場があり、眞駒内に道廳の種畜場、琴似に農事試驗場のあることは、既に產業の章に述べて置いたが、いづれも本道の誇となるものであり、又札幌近郊の觀覽地として參觀者の多い處である。此の外、琴似には農事試驗場の附近に國費による**北海道工業試驗場**がある。本場は大正十二年四月二十八日の開場で、道廳の經營であつたが、同十四年政府は本道第二期拓殖計畫を樹立し、之を國費經營とする必要を認めた所から、帝國議會の協贊を經て、昭和二年四月國費に移管した。本場は工業啓發の基礎資料を究明し、本道獨自工業の基本を確立し、以て本道拓殖の進步發展に資せんとするもので、頗る世の注目する所となつて居る。其の敷地は八千〇八十六坪、建物延坪數は一、二四四坪餘。實に堂々たるもので、從來既に試驗研究を完了し世に發表したものも頗る多い。



定山溪溫泉

定山溪溫泉は札幌市の南西約七里、豐平川上流の峽谷（豐平峽）の兩岸に湧出して居る。**定山溪鐵道**は函館本線白石驛を起點とし、東札幌、豐平、眞駒内（驛附近に種畜場あり）、石切山（驛附近に俗に札幌軟石と稱する安山岩質凝灰岩及び札幌硬石といふ安山岩の石材を切出す處がある）、藤ノ澤（驛の附近は麥酒釀造用の大麥、葎花及び亞麻の名產地）簾舞（驛の附近に北海水力電氣會社の第二發電所あり）、一ノ澤（驛附近に同第三發電所あり）、錦橋の諸驛を經て定山溪驛に至る十八哩六分の鐵道で東札幌或は豐平驛から一時間以内に達し得る。

定山溪溫泉は無色透明の單純泉で、土人は



元湯ホテルの萬人プール

夙に其の存在を認めてゐたが、溫泉場として開かれたのは明治初年頃のことである。卽ち明治二年越前（福井縣下）の僧**定山**が巡錫して札幌に來り、或宿屋に泊つた際、土人の下女から豐平川上流に溫泉あることを聞き、荊棘を踏分けて此の地に入り、溪間に溫泉の湧出て居るのを見た。そこで定山は浴場を設けて世人の病苦を濟はんことを開拓使に願ひ出た。同四年七月開拓使は浴場を設け、道路を通じ定山を其の湯守とした爲に定山溪の名が起つたのである。其の後同十一年十二月定山が歿して、佐藤伊勢藏なる人が其の經營に當り、

更に大正七年十二月定山溪溫泉株式會社**元湯ホテル**の經營に移つた。今や此の外中ノ湯、高山溫泉、鹿ノ湯倶樂部、定山園、豐隆館、鐵道ホテル、ラヂオカルク溫泉等の溫泉旅館がいづれも大厦高樓を構へて湯治客及び遊覽客を送迎して居る。其の中には廣大な露天溫泉プールを設けて居るものもあるが、元湯ホテルのプールの如きは、長さ三十間、幅八間、最深四尺五寸といふ大きなもので、萬人風呂と呼ばれて居る。以て泉量の豐富なことを知ることが出來る。

附近には銚子口瀧、白樺の密林、白糸瀧、玉川遊覽場、北海水力第一發電所等の遊覽地もあり、南方一里半には**奥の定山溪**といふ勝地があつて、其の中に北妙義、北耶馬溪などの奇景がある。

江別町　鐵道函館本線によつて札幌驛より北東に進めば十三哩餘にして江別驛に着く（此の間に四十餘分間を要す）。驛の所在地江別町は石狩川が支流江別川と會する合流地に在つて、水陸兩路交通の便を備へ、人工約一萬八千。富士製紙株式會社江別工場の所在地として知られて居る。そも**富士製紙株式會社**は王子製紙株式會社と並び稱せられる本邦二大洋紙製造會社。其の創立は明治二十年。本社は東京市京橋區三十間堀一丁目一番地に在るが、其の工場は北海道、樺太、靜岡縣、東京府、京都府、兵庫縣、和歌山縣に亘り合計十六を有する大會社である。

江別工場は明治四十一年十一月の完成で、工場用地總面積は一六〇、四一六坪、工場建物坪數は二〇、七七二坪、私設專用鐵道の延長は三哩餘、從業人員約一千人。蝦夷松、椴松を原料とし、盛に新聞用紙、雜記帳用紙、更印刷用紙、包裝紙、パトロン紙、蠶座紙等を製造して居る。社宅、合宿所、物品配給所、共同浴場、理髮所、專屬醫院、倶樂部及び修養、娯樂機關等を兼ね備へ、實に堂々たる大工場である。

尚、當町は**江當軌道**の起點。同軌道は今北方約七哩の當別まで通じて居る。

岩見澤町　は江別の北東鐵路十二哩餘に在る交通上の要地で（江別よりは約三十分間、札幌からは一時間と十五分を要する）、函館本線と室蘭本線との接續地に當り、又幌内太を經て幌内及び幾春別に通ずる**幌内線**（十三哩）の起點。鐵道操車場は全道貨車の統轄配給地となつて居る。此の地の東方には一帶の丘陵が横たはつて居るが、其の他は石狩の大平野

に連り、地勢平坦、地味肥沃、氣候亦溫和にして冬季の寒さも左程烈しくはない。顧みれば此の地には、明治十五年開拓使が旅客保護の爲に建設した一棟の休憩所があつただけで、全く無人の森林地であつたが、此の年十一月十三日札幌、幌内間の鐵道が開通するや、翌年岩手縣**狩野末治**なる人が札幌から移り來り、官設休憩所を借受けて旅館業を始めた。之が此の地に於ける移住者の元祖である。其の後山口縣外十一縣に亘る士族團體の移住があり、次第に戸口が增加して同十八年には二百七十七戸の**岩見澤村**が出來た。かくて同二十五年八月一日室蘭線の開通後は移住者が頓に增加し、同三十年には人口一萬に達して繁榮を加へ、同三十九年二月村を改めて**町**とした。然るに當町は地形、土質の關係上飲料水に乏しく、僅少の井戸と河水を用ひたるに、水質不良にして衞生上の懸念あるのみならず、防火上の不便もある所から、一ノ澤といふ溪間を水源とする水道を設けた（明治四十一年十月完成）。然るに其の後水源附近の樹木伐採の結果、著しく濁水が流入し、夏は池中の沈澱物が化合して臭氣を發することさへあつた。爲に貯水池に濁水放水路を鑿ち、濾過池二ヶ所を設け、更に貯水池沈澱物浚渫工事を施して、漸く淨水を配給することとなつた。今や町の人口は約二萬八千。**空知支廳**の所在地として管内の中心地に當り、又農產物の集散地たる上、釀造業及び皮製品、藁製品、杞柳製品、竹製品、漆器、木工品、護謨靴等の製造も行はれ、交通上の要地たると同時に、產業都市としての氣運を開きつつある。北海土功組合の造田工事完成の曉には、當町は新に三千町歩の水田を增す豫定であるから、町は一段の發展を見るであらう。

美唄鐵道　岩見澤から更に函館本線を北東に進むこと十哩餘に美唄といふ驛がある。驛は美唄鐵道の分岐點。同鐵道は今常盤臺まで通じて居る。

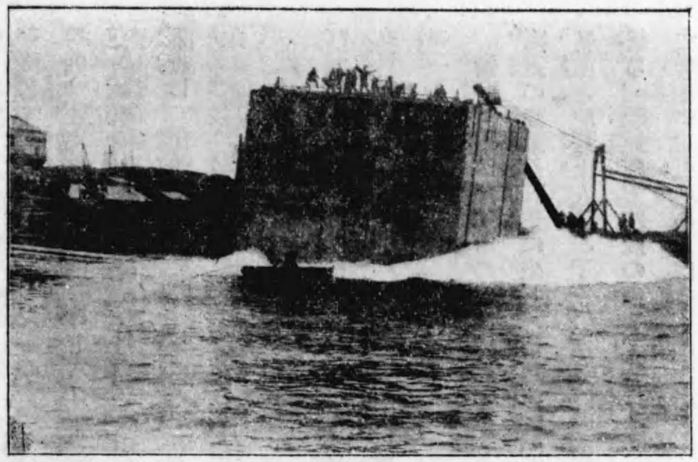
歌志内線と上砂川線　美唄驛から尙も函館本線を北東に進むこと十一哩半にして砂川町に着く。町は人口約二萬。上砂川線及び歌志内線の分岐點に當り、前者は今、上砂川まで（五哩）、後者は歌志内まで（九哩）通じて居る。町内奈井江に森永煉乳株式會社の空知工場がある。

瀧川町　砂川の次驛瀧川は函館本線と**根室本線**（瀧川より下富良野、清水、帶廣、池田、釧路等の諸驛を經て根室に至る二七七哩九分の鐵道）との接續地。驛の所在地たる瀧川町は、石狩川と空知川との合流地に在つて、米、雜穀、亞麻、木材等の集散地に當り、人口は約一萬三千。農林省經營の**種羊場**（地積千七百町歩。緬羊數凡そ二千三百頭）の所在地として知られて居る。

町の西隣なる**新十津川村**は明治二十二年八月十九日の暴風雨に當つて大水害を蒙つた大和（奈良縣）十津川の罹災者が同年十月移つて以て新に起した村として有名である。

深川町　は瀧川町の北東鐵路十五哩餘に在る。既に産業の條に述べた**深川土功組合**で有名な處であるが、明治二十年頃は石狩川の河畔に、水草を逐うて移動する舊土人の家が數戸散在して居るのみで、殆んど全土森林に蔽はれ、熊、羆などの出沒してゐた處である。然るに同二十三年頃**山室朝行**といふ熊本縣人が家族と共に此處に來て開墾を始めた。之が深川開拓の最初の人である。次いで蜂須賀侯、菊亭侯等が各〻農場を此の地に經營せられることとなり、同二十五年始めて**深川村**が出來た。此の年秋本道開拓の先覺者であり、又深川土功組合發起者の筆頭たる**東武**氏が菊亭侯爵家から千五百五十町歩の未墾地割讓を受けることとなり、翌年四月氏自ら此の地に入り、殘雪を踏み分けつつ技師を督して測量させたのである。かくて同二十七年新十津川村から人を移して開墾を始めさせたもので、大いに此の地の開拓に氣勢を添へた。其の後屯田兵の移住もあり、且又同三十一年七月十六日鐵道が空知太（今の瀧川）から此の地を經て旭川まで通じた爲に、急に農商家の移り住むものが多くなつた。其の上同四十三年十一月二十三日留萌に通ずる鐵道も開通して交通上の便を得、更に大正五年九月深川土功組合の事業も一先完成した爲に、戸口も增加し、村勢も高まり、遂に同七年一月一日村を改あて**町**とした。今や町の人口は一萬に近く、道內著名の米産地となつて居る。**留萌線**は今深川驛を起點として留萌に至り（此の間三一哩一）、更に延びて一線は南方**增毛**に通じ（留萌、增毛間は一〇哩四）、尙一線は北方なる鬼鹿まで通じて居る（留萌、鬼鹿間は一七哩七）。此の外、深川驛は**雨龍線**の起點であるが、同線は**幌加內**まで通じて居る（二七哩二）。

留萌町　は深川町の北西鐵路三十一哩餘に位し、約二時間で達し得る。町の本部は留萌川河口附近の丘陵性高臺に坐し、留萌河畔の平地及び同河の注げる留萌灣に向つて緩に傾斜して居る。留萌とは舊土人語の「ルルモッペ」の轉訛で、「河水の鹹き」意と「要地」の意を兼ね備ふといはれて居る。鐵道側では此の地を「ルモイ」と呼び、之に倣つて此の地の乘合自動車も「ルモイ」と書付けて居るが、土地の人は多く「ルモエ」といひ、國定地理書も「るもえ」と振假名をつけて居る。

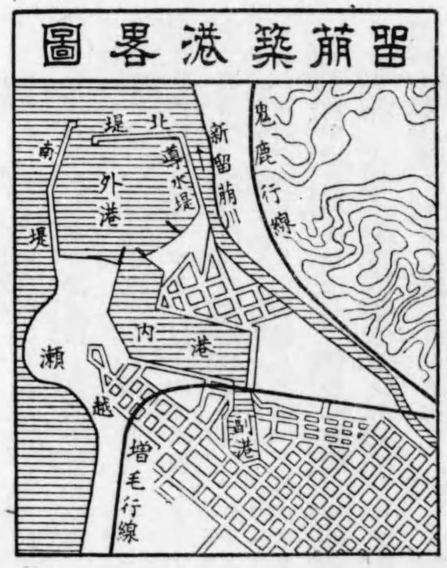


留萌築港ケーソンの進水

此處も古くは晝尙暗き密林地帶で、土人のみの部落があつた處。和人が始めて此の地に這入つたのは寶曆年間で（九代將軍德川家重時代）、松前の人**村山傳兵衞**が最初だと傳へられて居る。近海に魚介が豐富な所から、爾來松前藩の漁場となり、寛政の初年頃十一代將軍德川家齊時代）から續々內地人が移住して今日の基礎をつくつたものだといふことである。其の後幾多の變遷を經て、明治四十年四月一日**町制**を布いたが、同四十三年十一月二十三日深川、留萌間の鐵道が先づ開通し、更に大正十年十一月五日には留萌、增毛間、昭和二年十月二十五日には留萌、大椴間、同三年十月十日には大椴、鬼鹿間の鐵道が開通したのみならず、近い將來には鬼鹿、羽幌間も開通せんとする豫定であるから、町勢は年と共に榮え

近く完成すべき築港と相俟つて一大飛躍を爲さんとする形勢にある。

元來、留萌港は瀨越半島によつて其の南を擁せられ、口を北西に開いて居るのみならず、港頭に留萌川を容れてゐた爲に、冬季の北西風に對しては安全な碇泊地ではなく、又港內の水深が淺い爲に、大船を送迎することが出來なかつた。爲に既に明治二十四年頃から本港修築の必要が唱へられた。併し色々な事情で實行の運びに至らず、漸く明治四十三年國費を以て其の工事に着手することが出來た。然るに其の後屢〻計畫が變更せられ、之に伴ふ工費豫算の改訂及び完成期限の延長が行はれて、現に工事中であるが、既に其の大部分は出來て居るから、其の完成も近きに在る。



其の工事の概要を述べんに、**留萌川**の下流は之を切替へて其の水を港外に導く。又港は之を內外の兩港に分ち、**外港**の北側に長さ約五町（一、七八〇尺）の導水堤と二町半の北防波堤を設

け、南側には長さ八町半餘(三、一〇〇尺)の南防波堤を築く。かくて外港面積を二十二萬六千四百坪とし、其の内の主要部面積三萬六千坪を水深二十六尺に浚渫して大船の碇泊に充てる。**内港**の面積は十萬三千五百坪で、其の深さは十二尺乃至二十六尺とし、鐵道による石炭、木材、工産物、農産物等の積込場とする。以上の工事費を通算すれば、實に千〇十二萬餘圓。昭和五年度竣工豫定であるが、濱口内閣の緊縮政策の爲に、多少遲れるかも知れない。此の外、内港の奥に續いて面積二萬坪、水深六尺の**副港**がある。これは町營で、小舟、艀船の收容所。既に竣工を告げた。

元來此の地は漁業地として發展した處。現に各種の産業中、産額の最も多いのは水産物であるが、麥類、豆類、蔬菜等農産物の集散地として重きを爲して居る。將來築港完成の曉には、留萌港の勢力圏は大いに擴大せらるべく、少くも旭川市及び上川盆地との提携が密接になるに相違なく、旭川方面に對する移出入貨物は必ずしも遠距離の小樽を經由する必要が少くなつて、留萌を經由することになるべきである。若し將來留萌、苫前等の炭田開發が行はれるならば、當港は更に著しい發展を見せるであらう。

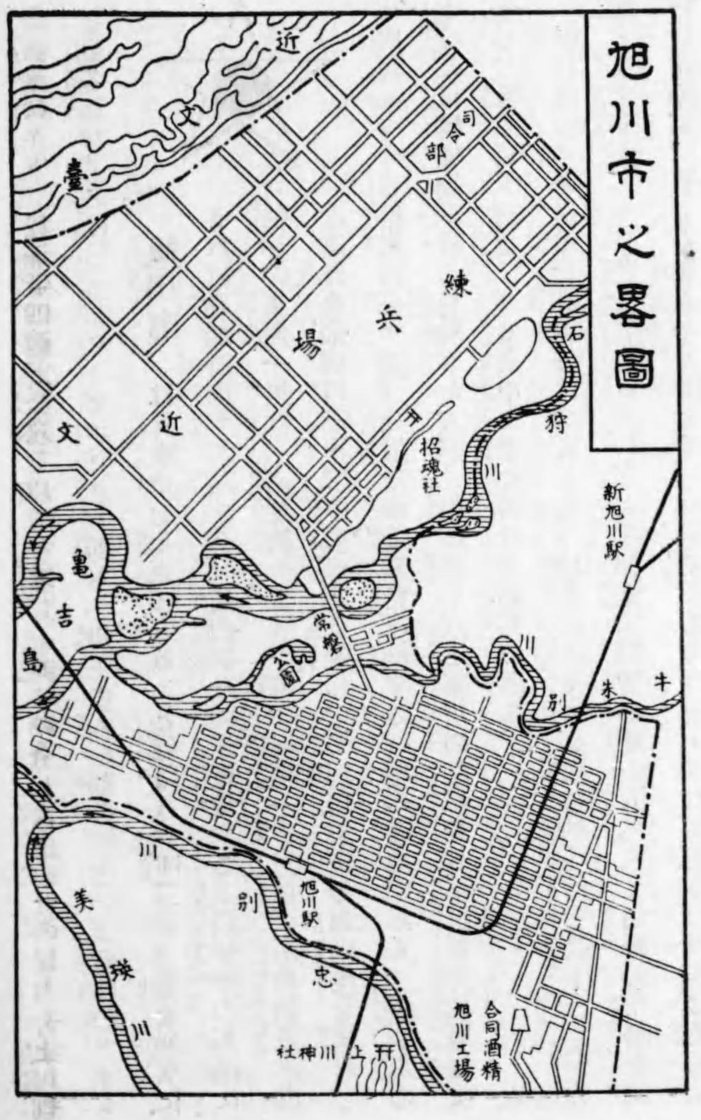
今や町は留萌支廳の所在地で、人口は約一萬四千。地形の關係上飲料水の乏しい處であつたが、町の南方三里餘に水源地を有する水道が出來た爲に、飲料水の心配はなくなつた。

增毛町は留萌の南方鐵路十哩四分、約四十分間の車程にある。人口は約一萬一千。古來有名な漁業地である。

旭川市

は札幌市を北東に去ること鐵路八六哩三分。普通列車によれば約四時間半で達する。道内第一の米産地たる上川平野の西部に位し、東西一里餘、南北約一里三十町、面積一方里餘。石狩川及び其の支流牛朱別川が市の中央部を貫流し、忠別川が市の西南境を流れ、市内に入つて石狩川に合する。北境には**近文台**と稱する一帶の臺地があり、忠別川の左岸には**神樂岡**と呼ぶ丘陵もあるが、市は全く以上諸川の築積せる平坦な沖積層地に坐し、海拔百十三米。本道中央部に於ける要都である。

茲に先づ市の沿革を尋ぬるに、もと此の地方はアイヌが遊牧的生活を營んでゐた處。文化年間(十一代將軍德川家齊時代)有名な探檢家**間宮林藏**が入込んで山野の形勢を視察したのが、恐らく和人の足跡を印した最初であらうといはれて居る。其の後明治維

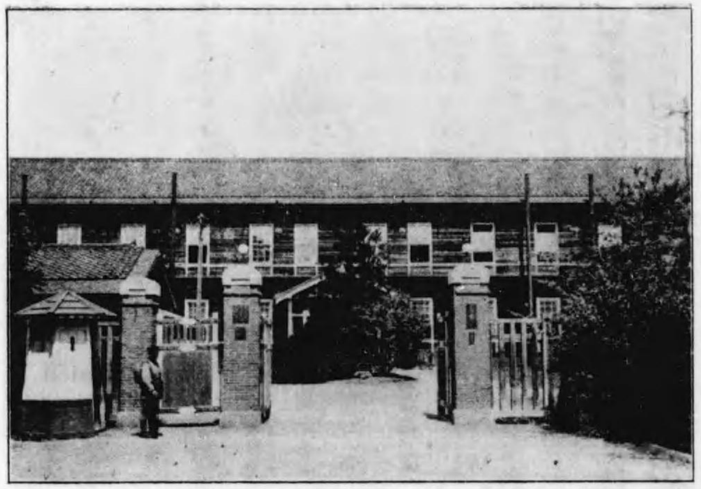


新前後に至り、**松浦武四郎**が公務を以て往來し、具に踏査した上、此の地方を**上川郡**と命名した。之はベニ、ウングルコタン卽ち「川上の人の部落」といふ意味のアイヌ語に基づく名稱である。其の頃からアイヌの運上物を徵集する爲に此の地方に出入した者に村上傳太夫といふ人があり、戸口調査と視察を兼て來た人に玉川慶吉といふ人もあつたといふことであるが、いづれも此の地方に定住はしなかつた。

然るに明治十年**鈴木龜藏**といふ人が、石狩川の中洲、今の市内龜吉島に住居を定めた。之が此の地方に於ける和人定住者の最初であらうといふことである。龜藏はもと膽振國千歳郡漁市街地に住んでゐたもの。明治五年から土人との交易を營む爲に、毎年丸木舟に乘つて石狩川を溯り、旭川地方に往來してアイヌと物々交換を行つてゐたのである。かくて同十年に至るや、彼は龜吉島に掘立小屋を造り、アイヌの女を妻として此處に土着し、米、味噌、酒、煙草などと、アイヌの獲物との交換を始めた。之が上川地方に於ける商業の最初だといはれて居る。當時アイヌは龜藏と發音するに

苦み、常に彼を龜吉と呼んだ所から、龜吉島の名が起つたものだといふことである。餘談に亘るが、龜藏は其の後今の市内曙町に移つて雜貨商を營み、或は酒造業を始めなどして資産を積み得たが、常に土地の開發に力を盡し、屢〻公共事業の爲に寄附金を出して、其の都度本道長官の表彰する所となり、同三十五年六月十日五十歳で歿した。隨つて龜藏は旭川開發の一恩人として今に市民の尊敬を受けて居る。

話が前に戻るが、龜藏の龜吉島土着以後明治十八年までの間には特に記すべきことはないが、此の年九月司法大輔岩村通俊、屯田兵本部長永山武四郎等の一行が此の地方を視察し、今の鷹栖村近文山に登つて上川盆地を俯瞰し、此の地方開發の大方針を定めたもので、其の記念碑は今に其の地に殘つて居る。かくて翌十九年一月廢縣置廳、岩村通俊が本道廳最初の長官として赴任するや、空知郡市來知より忠別太（旭川市の入口神居村内）に通ずる二十二里餘の道路を開鑿し（明治二十二年全通）、同二十一年六月岩村に代つて長官となつた永山武四郎は翌年忠別太より上川盆地を横斷して北見國網走に通ずる道路を開鑿することとした（同二十三年全通）。然るに此の年（明治二十二年）十二月内閣總理大臣山縣有朋から「石狩國上川郡内に於て、他日一都府を建て離宮を設けらるゝに付夫々計畫施設すべし。」との達示があり、同二十三年調査委員が精査の末、今の神樂村神樂岡を以て離宮豫定地とした。此の事は大いに此の地方に對する世の注意を喚起したもので、移住者も次第に多くなり、同年九月始めて**旭川村**が置かれた。旭川とは舊土人のチュップベツの意譯。チュップは太陽、ベツは川の意である。其の後同二十



第七師團司令部

旭川市役所

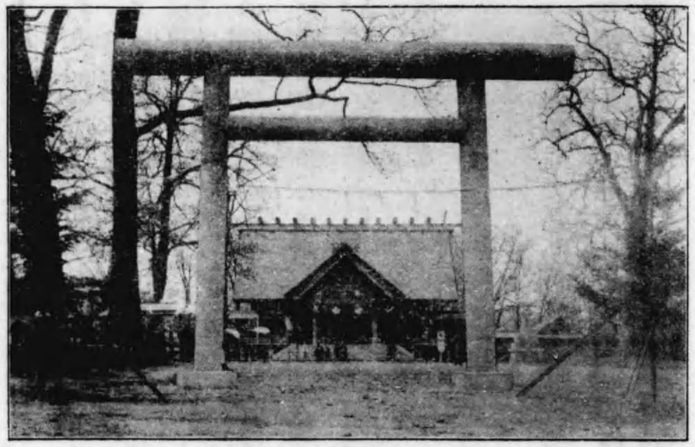
五年四月には札幌警察分署が設けられ、同二十六年七月には戸長役場、同年十二月には旭川郵便電信局が置かれ、同三十年七月上川郡役所が置かれると同時に曩の警察分署は改めて旭川警察署となり、同年十一月官制改革の結果、上川郡役所は上川支廳となつたが、是等の諸機關の設置は皆旭川發展の上に氣勢を加へたものである。殊に此の頃から次第に盛になつた水田開發と鐵道の開通及び師團設置は大いに此の地の發展を促したもので、同三十一年七月十六日空知太（今の瀧川）旭川間の鐵道が開通するや、戸口が俄に增加し、翌三十二年二月隣村鷹栖村字近文が**第七師團**所在地と定まつて更に一段の光彩を添へることとなつた。乃ち同三十三年八月旭川村は**町**となり、同三十五年四月鷹栖村字近文六號以南及び近文臺以東を旭川町に編入した。其の後大正三年四月一日**區制**を施行し、同十一年八月一日**市制**を實施して今日に至つて居るが、今や市の人口は七萬五千を超え、道内第四の都市である。

以上の發展を見る間に、鐵道は諸方に向つて敷設せられたもので、南方に向つては**富良野線**（三三哩九）が下富良野驛に通じて根室本線と接續し、**宗谷本線**（一七四哩六）は新旭川（石北西線の分岐點）、名寄（名寄線の分岐點）、音威音府（天鹽線當驛より稚内驛に通ず）、稚内（天鹽線の分岐點）を經て稚内港に通じ、**石北西線**は新旭川驛より分れて今は中越まで通じて居る。此の外**旭川電氣軌道會社**經營の電車が市内四條から市外東川まで通じて居る。

かゝれば市は道内屈指の物資集散市場となり、其の商業範圍は道内東北部六ヶ國に亘り、米、木材、石炭、薪炭、雜穀類、肥料及び各種釀造物等の移出入が頗る多く、

又大正十二年五月稚泊連絡（稚内、大泊間）が開始せられ、次いで翌年稚斗連絡（稚内、本斗間）も開かれた爲に、樺太との取引關係が年と共に密接になり、本市の商品は樺太南半に入込むやうになつて居る。近い將來に於て留萌の築港が完成する筈であるから、之が爲に當市の商業は更に發展するに相違あるまい。

工業も市の誇の一つ。殊に米の年産額約百萬石と稱する上川平野の中心なるが爲、精米業及び酒造業は特に盛であり、其の外、燒酎、味噌、醬油、家具指物、疊等の製造も頗る盛で、其の産額はいづれも道内第一位を占めて居る。大規模の工場は少いが合同酒精株式會社の旭川工場の如きは實に堂々たるもので、其の敷地は約二萬二千坪、工場建物及び倉庫の建坪總數は三千百坪餘。馬鈴薯の澱粉粕、燕麥、玉蜀黍、フスマを原料として燒酎、酒精、ウイスキー、清酒、ウォッカ等を釀造し、一ヶ年合計三萬五千石の釀造能力を備へて居る。當會社は旭川の外、上川郡名寄町にも工場を持つて居る。



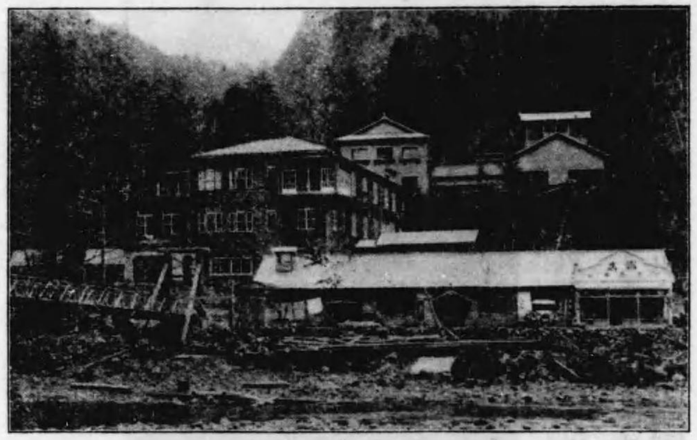
上川神社

市は帶廣町と共に道内稀に見る大陸的氣候地であるが、開村以來四十餘年の歳月を經て軍事、交通、商工業の要地となつた處。市役所、上川支廳、第七師團司令部並に軍事及び鐵道關係諸機關等の外には特に擧げる程の官公署はないが、天然資源の頗る豐富な本道の中央に位し、又米産地上川平野の中心地なるが故に、道内及び樺太の開拓の進むにつれ、商工業を以て益々雄飛すべき處と認められて居る。

旭川驛の南方約三十町の神樂岡は嘗て離宮の豫定地となつた處。今は市の鎮守たる縣社

上川神社（祭神は天照大神、大巳貴命、少彦名命外九神）の社地となり、丘頂に莊嚴な社殿があり、丘麓には公園的施設が加へられて居る。又同驛の北方十三町、市街の中央部に在る**常盤公園**は石狩、牛朱別兩流に挾まれ、面積は四萬九千坪、其の中に一大池水、運動場、上川神社頓宮などがあつて、市民の一大遊覽地となつて居る。此の外第七師團の練兵場附近には第七師管の**招魂場**があり（旭川驛より二十六町）、市の北西部なる**近文**には**舊土人部落**（戸數六十餘戸）がある（旭川驛より約一里、近文驛より約九町）。約三百人の舊土人が市の保護の下に、主として農業を營みつゝ平和な生活をして居る爲に、視察者の出入が少くない。

鹽谷温泉　旭川市に客となる者は、是非一日を層雲峡の遊覽に割く必要がある。層雲峡が本道第一の峡谷で、天下の奇勝たること及び峡の中央部に**鹽谷温泉**あることは既に石狩川の條に述べて置いた。此處に行くには、旭川市から自動車を借切つていつてもよいが、汽車による方が經濟的である。即ち旭川驛から石北西線行の列車に乘つて上川驛に下車（此の間に約二時間半を要す）。



鹽谷温泉層雲閣

驛前から乘合自動車に乘れば、一時間餘で鹽谷温泉に到着する。

此の地は上川驛を距ること約六里。大雪火山彙の一峯黑岳の登山口に當り、奇勝層雲峡遊覽の中心地であるが、交通不便の爲に、長く世人に知られない千古の神秘境であつた。然るに旭川市の名望家**荒井初一**、**鹽谷忠**の兩氏は夙に此の奇勝の紹介及び温泉の開發に志し、種々畫策する所があつた。併し何分にも交通不便、容易に其の目的を達することが出來なかつた。所が大正十年夏旅行好の文學者**大町桂月氏**（大正十四年六月十日歿す）が北海道を巡遊して先づ大雪山に登り、更に層雲峡を探勝した上、其の紀行文を雜誌「中央公論」及び「太陽」の特別號「日本山水大觀」に載せた。

大雪火山彙はヌタクカムウシュペ或は旭岳の名を

以て、夙に小學校用の地理書にも載せられてゐたが、層雲峽が全國的に紹介せられたのは之が始めで、層雲峽の名付親も桂月氏である。由來大雪火山彙は旭岳（大雪山）を主峯として幾多の高山峻嶺より成り、山容水態雄偉超凡、或は原始林に蔽はれ、或は高山植物を戴き、幽玄神秘の仙境たるに拘らず、交通の不便に累せられて、少數の火山學者、植物學者の外は、容易に人が近づかなかつた。仍つて荒井、鹽谷兩氏は同志を語らひ、大正十三年夏純學術的調査機關たる大雪山調査會を組織し、荒井氏は其の會長、鹽谷氏は其の理事となつた。かくて同十四年夏同會の事業として夏季大學を鹽谷温泉に開き、同十五年には「大雪山、登山法、登山案内」（著者は小泉秀雄氏）及び「大雪山及石狩川上流探檢開發史」（著者は河野常吉氏）を發行して廣く世の參考に資した。

層雲峽銀河の瀧（瀧雌）

尚、一方に於て荒井氏は層雲峽の紹介及び鹽谷温泉開發の爲、私費を以て上川より此の地に至る道路を開鑿し、橋梁を架設し、又旭川衞戍病院層雲峽分院（俗に師團温泉といふ）建築費を寄附した。氏が大雪山及び層雲峽の紹介並に鹽谷温泉開發に投じた資金は少くも二十萬圓を下らないだらうといふことである。

今や鹽谷温泉には層雲閣、蓬萊閣、登仙閣等堂々たる温泉旅館及び師團温泉もあつて、頻に自動車が湯治客並に遊覽客を送迎して居るが、其の今日の盛況を見るに至つたのは、主として荒井氏の賚である。元來荒井氏は富山縣西礪波郡松澤村の生れ。明治二十六年旭川に居を移し、健闘多年、土地の資性重厚果斷、名利に恬淡にして仁俠公共事業に盡瘁し、地方産業の開發に努力した人である。に富み、常に至誠を以て事に當り、大正十一年十一月推されて旭川商工會議所會頭となつた。大

層雲峽流星の瀧（瀧雄）

正十五年五月二十四日旭川市唯一の地元銀行たる絲屋銀行が突如休業した時の如き、荒井會頭は一市六十餘ケ町村に亘る預金者の心事に同情し、病軀を押して東奔西走、幾度も重態に陥りつつ尙不休の努力を續けること七ケ月、終に預金者救濟の目的を達した。氏は昭和三年二月十九日五十六歳で歿したが、有志が氏の銅像建設の議を發表するや、多年氏を德とする人々が多かつた爲に、其の資金は立所に集まり、昭和四年七月三十日層雲峽黑岳登山口に其の銅像除幕式が行はれた。

餘談はさて措き、鹽谷溫泉の泉質は單純泉に屬し、無色透明無味淡白、ラヂュームの含有量が多く、消化器病、貧血症、神經諸病、リューマチス、婦人科疾患、皮膚病、痔疾等に効驗があるといふことである。

地は卽ち層雲峽の中央部。遊覽區域は上下五里、奇想天外より至るともいふべき勝地が到る處に滿ちて居る。大體の形勢は長野縣下で有名な上高地の溪谷に似てゐて、しかもより以上に奇拔な景を備へて居る。峽中特に名高い勝地は、旣に石狩川の條に載せて置いたから、玆には省略する。

狩勝峠

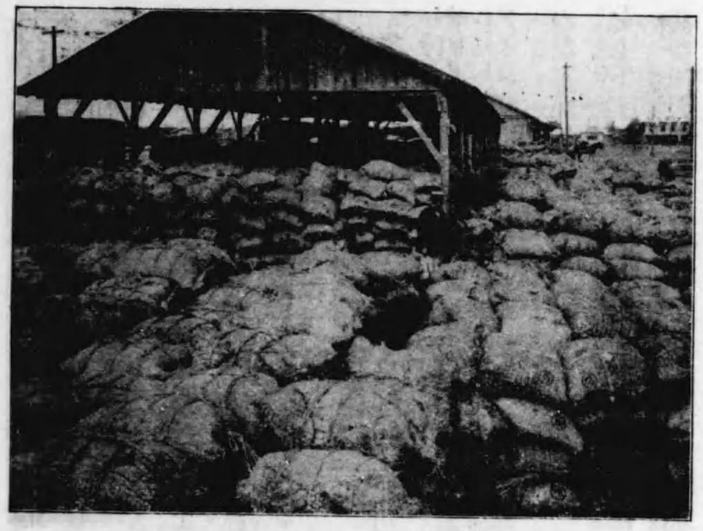
狩勝峠　旭川驛から富良野線によつて南下すれば、約二時間にして下富良野驛に着く。驛は瀧川より根室町に通ずる**根室本線**（二七七哩九）と富良野線との接續點。此處から根室本線によつて十勝方面に向ふ途中の**落合**驛（下富良野、落合間は三三哩四。普通列車によれば此の間に約二時間を要す）と次驛**新内**との間に、日本新八景の一たる狩勝峠がある。此處は安政五年探檢家松浦武四郎が跋涉した處。石狩、十勝の國境にあるから、明治二十九年時の本道鐵道部長田邊朔郎博士が鐵道線路選定の際、狩勝峠と命名したのである。

峠の上に道内最長の隧道があるが、此處は海拔五三四米餘（一、七六二尺二）。本道鐵道の最高所。列車が隧道を出離れるや、忽ち眼下に面積六百三十六方里の十勝平原が展開して渺茫海の如く、汽車は勾配四十一分一の環狀的大カーブの線路上を走る。車中の人は右顧左眄雄大無比の展望に心氣を奪はれる處である。大正天皇は明治四十四年東宮にまし〳〵て本道御巡啓の際、暫し鶴駕を此處に駐めて御展望あらせられ、今上天皇陛下は大正十一年攝政宮として本道御巡啓中、御展望あらせられた。是より先大正九年ロイテル通信社員エッチ、シー、マンテー氏が此の地を通過し、「予の知れる範圍では、米國のロッキー山脈を越えるリオグランド鐵道線中に一ヶ處、露國のウラル山脈を越える線に一ヶ處、此の地の展望に匹敵するものがある。蓋し狩勝の展望は車窓よりの世界三大展望の一つであらう。」と激賞したといふことである。

北海道拓殖鐵道　新内驛の次に新得といふ驛がある。此處は明治三十三年山形縣人**村山和十郎**といふ人が同志と共に移住して開拓を始めた處。今や人口七千數百を有する大村落となり、燕麥、大豆、亞麻、甜菜等の產出多く、驛附近は市街地を形成して居る。北海道拓殖鐵道株式會社經營の鐵道は此の地を起點として、今は鹿追まで通じて居る。

清水村と河西鐵道　新得の次驛を清水といふ。此の地は明治三十一年香川縣人**谷本儀八**なる人が開拓を始めた處。**明治製糖株式會社清水工場**（原料は甜菜）の所在地で、人口は約八千。河西鐵道は此の地を起點として熊牛、下幌内等を經て鹿追に通じ、尙熊牛より分れて南熊牛、北熊牛に至る兩支線並に下幌内より上幌内に至る線を經營して居る。

帶廣町　は十勝平野の中央部、十勝川と其の支流音更川との合流點に臨み、帶廣川が町内を流れて居る。落合驛を距ること鐵路四十四哩六分、約三時間の車程に在る。アイヌ語では「オペレヘルプ」と呼んだ處（川尻の壞れたる川の義）で、明治十六年十三戸の農家が移住したのが町の創始である。當時は土人の操縱する丸木舟によつて十勝川を上下する外には交通の道がなかつた處であるが、同二十五年集治監が置かれた爲に、其の後囚人の手によつて始めて道路が開かれた。之より次第に戸口の增加を見たが、



帶廣驛の雜穀

釧路より次第に延長せられた鐵道が同三十八年十月二十一日此の地に通じ、同四十年九月八日函館方面へも全通してからは、移民が各地から集まり來り、其の後**士幌線**（帶廣、上士幌間二三哩八）、及び**十勝鐵道**（帶廣、藤、戸蔦間。藤、常盤、八千代間並に常盤上美生間）並に**廣尾線**（帶廣より漁港廣尾に通ずべき線で、今は帶廣、中札間が開通）の開通によつて益々活氣を呈し、今や人口約二萬二千。河西支廳、北海道農事試驗場十勝支場（明治二十八年創立、總地積三十二町歩）、測候所、十勝水產會社經營の鮭鱒人工孵化場、刑務所十勝支所等の所在地である。

十勝公會堂

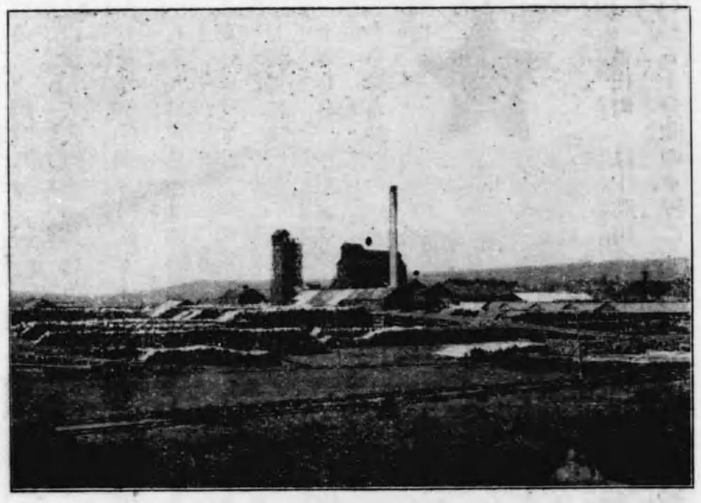
當町は町内及び周圍の農村所產の米、雜穀、蔬菜、家畜等の大集散地として名高く、又製材及び木工業の盛な處。驛の南方約三十町の川西村には大正八年創立の**北海道製糖株式會社**の大工場があつて町に氣勢を添へて居る。同工場は一日六百噸の甜菜を消化する能力を有し、白糖の年產額は約二十萬俵に達する。甜菜は四月播種、十月其の成熟を待つて製糖用に供せられるのであり、其の製糖作業は翌年三月上旬頃終りを告げる。當社直

營の大農場については既に産業の條下に述べて置いたから、茲には省略する。

話が再び帶廣町に戻るが、市街區劃の設計は米國華盛頓市の設計を模したものだといふことで、街衢の整然たることは札幌、旭川兩市に讓らず、又**十勝公會堂**は明治四十四年の建築で（敷地三、六〇〇坪、工費二萬圓）、同年及び大正十一年の兩度、時の皇太子殿下を奉迎した處。共に當町の誇の一つになつて居る。

新田ベニヤ板工場　帶廣の東方鐵路八哩八分に**止若**といふ驛がある（此の間に約三十分間を要す）。驛は幕別村に屬する止若市街地に在るのであるが、此の附近に**新田ベニヤ板工場**がある。當工場は大正八年の創立で、ベニヤ板、同ドアー及びフローリングを製造して居る。ベニヤ板の特徴は膠着完全にして、耐水、耐熱力に富み、膠着材の變質、蟲喰の憂がなく、又濕氣にあつても斑點の生ずる恐れもない。年産額は百萬圓を超え、製品は遠く海外にも輸出せられる。（もと此の地には新田製澁工場もあつたが、先年火災に罹り、今は其の事業を休止して居る）

池田町　は十勝川が其の支流利別川を收容する合流地に位し、止若の東方六哩二分、帶廣から約五十分間の車程に在る。明治十二年山梨縣人武田某の移住以來次第に發達した處。池田仲博侯經營の**池田農場**（耕地六三三町歩）及び高島長政氏を場主とする**高島農場**（耕地七五五町歩）及び富士製紙株式會社の**池田工場**などが此の地の發展を促したもので、大正十五年十月町制を布いた。町の人口は約一萬四千。鐵道**網走線**の分岐點に當り、同線は野付牛、美幌、網走、斜里等を經て、今は札鶴まで通じて居る。併し網走線方面の都邑の說明は後に讓つて、話を根室本線に進める。



富士製紙池田工場

大樂毛馬市場　池田驛から根室本線を進むこと五十九哩二分、約三時間にして大樂毛驛に着く。此處は行政上釧路市に屬して居るが（次驛新富士も同樣）、市の本部にある釧路驛を西方に距

ること四哩八分（此の間に約二十分間を要す）に位し、市街地からは可なり隔つて居るから、線路順に從つて大樂毛の誇たる馬市場を先づ述べる。

明治四十四年時の皇太子殿下（後の大正天皇）が本道御巡啓中、鶴駕を釧路市公會堂に駐めさせられた時、此の地の優良馬を御臺覽あらせられ、優諚を賜はつたことがある。釧路畜産組合では此の光榮を記念する爲、大樂毛に馬市場を開設し、毎年八月一日より九日間及び十月三日より七日間並に十一月一日より五日間馬の定期大市を開いて居る。今や當市場は本道第一の馬市場として知られ、今上天皇陛下は大正十一年攝政宮として本道御巡啓中、親しく市場の現狀を御臺覽あらせられた。

釧路市　は東西五里二十八町、南北一里三十二町に亘り、三方里餘の面積を有して居るから、其の地域は頗る廣いが、其の本部たる市街地は釧路川河口の南北兩岸に跨り、長さ二町の立派な幣舞橋を以て相連絡して居る。川より北の市街は全部平地に在るが、川より南の市街は小高い丘陵性の高臺と其の麓の平地とに在り、高臺の南には周圍約一里半の春採湖がある。

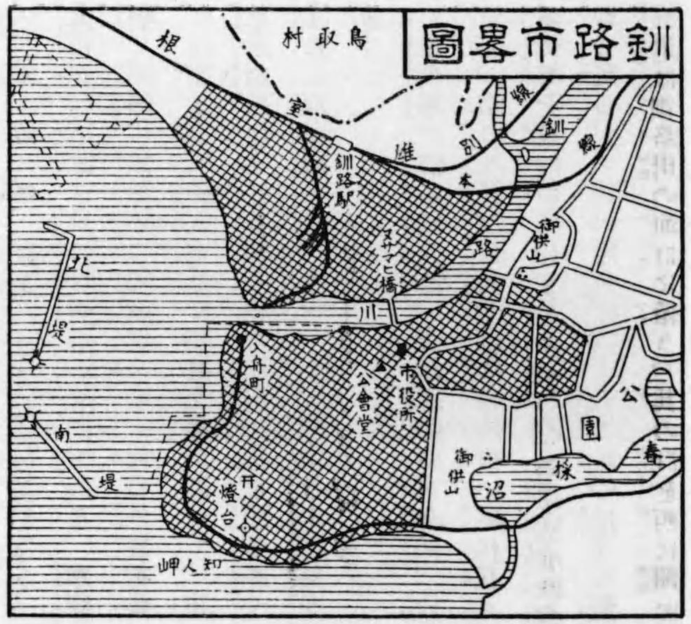
釧路市の幣舞橋

釧路はアイヌ語「クスリ」（越ゆる道の義）の轉訛。寛永十二年松前藩が此の邊一帶の海岸を漁場としてから、長く其の運上屋の所在地となり、漁場請負人のゐた處である。かくて安政四年に至り、漁場請負人**佐野孫右衛門**が南部地方の人十五人（五戸）を此の地に移住せしめたが、之が此の地方に於ける永住者の最初である。其の後明治三年同人は更に奥羽地方の漁民二百三十五戸を移し、自費を以て家屋、漁具等を給し、以て漁業に從事せしめた。蓋し孫右衛門は釧路市開發の基礎を固めた恩人である。爾來年と共に發達しつつあつたが、

同二十年跡佐登の硫黄山及び春採炭山の採掘が始められた爲に、函館方面からの移住者が急に多くなり、又此の地が貨物出入の要地として發展する樣になつた。それより數年の後（明治二十三年）釧路は特別輸出港となり、更に同三十二年八月四日**開港場**となつて益々勢を增し、翌三十三年七月一日**町制**を施行した。其の後鐵道の敷設及び築港工事の進行に伴うて著しく發展し、大正九年七月一日**區制**を布き、更に同十一年八月一日**市制**を實施して今日に至つて居る。最近の人口は凡そ四萬四千。釧路川の支流別保川を水源とする水道が市民を養つて居る。

今や市は鐵道根室本線の通過地たるのみならず、**雄別炭礦鐵道**は釧路驛より分れ、北西に向つて雄別炭山に通じ、**釧網線**は市內東釧路驛（釧路の次驛）から分岐し、北東に向つて、今は弟子屈まで達し、尙**釧路臨港鐵道**が市內入舟町から春採まで通じて居る。

港は釧路川の河口に續き、其の口を西に開いて居る。明治四十二年度着手の築港工事によつて、長さ約十三町の南防波堤及び十二町半の北防波堤を築き、河口及び內港の浚渫を行つたのであるが、此の工事に續いて本道第二期拓殖計畫により、長さ六町餘の西防波堤及び四町餘の防砂堤を築いて、其の內部に副港を設ける筈である。其の上浚渫を行ひ、尙埋立地及び釧路川河口岸壁を築造する豫定で、昭和十七年度に完成する豫定である。



市は元來**水產業**によつて發達の基を開いた處。今も漁業の一大根據地

で、鮪、鱈、鰊、鮹、鮭、海草等の漁獲が多く、漁期には漁船が輻湊して港内に滿ち、魚市場の活躍は眞に目覺しいものである。**水産物製造業**も盛に行はれて、搾粕、蒲鉾類、開鱈、魚油等の製造が多く、此の外**製材業**、**採炭業**等も盛況を呈し、市外鳥取村には富士製紙株式會社の**釧路工場**があつて、市に光彩を添へて居る。**商業**も亦盛で、水陸兩路による各種貨物の取引、集散頗る多く、**貿易**は輸出が主で、支那、關東州を主なる取引國とし、木材、板、鐵道枕木、昆布類、乾鱈、洋紙などが重要輸出品である。

市役所、釧路國支廳、釧路聯隊區司令部、公會堂等の諸官衙は概ね高燥な丘上に在るが、市役所及び公會堂は展望の好い處に在り、殊に公會堂は兩度鶴駕を奉迎し奉る光榮を荷つたものである（明治四十四年と大正十一年）。春採沼北岸の丘陵は市の公園になつて居るが、其の附近には土人穴居の址たる**竪穴**が群存し、又市街茂尻矢には土人の城砦址たる**チャシ**がある。自然の丘陵の一端を利用したものらしいが、其の形が大小二個の御鏡餅を重ねた如くに見える爲に、俗に**御供山**と呼び、市内の一遊覽地になつて居る（市内春採沼附近の丘陵中にも、別に一つの御供山がある）。

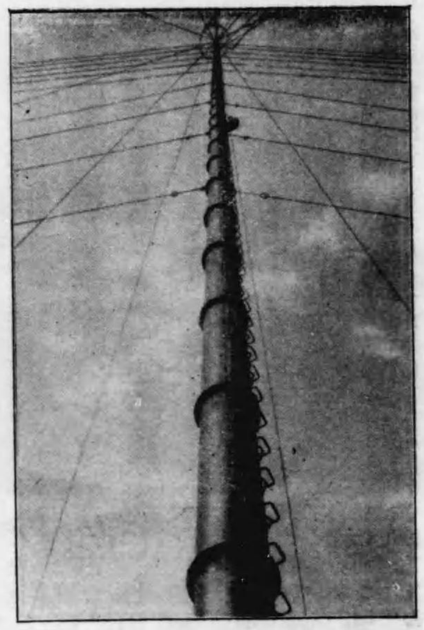
釧路市の御供山

既に氣候の條に述べた通り、釧路方面一帶は春から夏にかけて、濃霧が海陸を襲うて展望の利かない日が頗る多い。爲に市の南端知人岬の燈臺には、かかる場合に備へる爲に霧笛を鳴らす設備がある。併し秋から冬にかけては快晴の日が多く、殆んど霧笛の必要はない。

厚岸町　は釧路市の東方鐵路二十九哩に在り、約二時間の車程である。町は厚岸灣及び其の灣頭に入込める厚岸湖畔に廣がり、夙に**厚岸場所**と呼ばれた

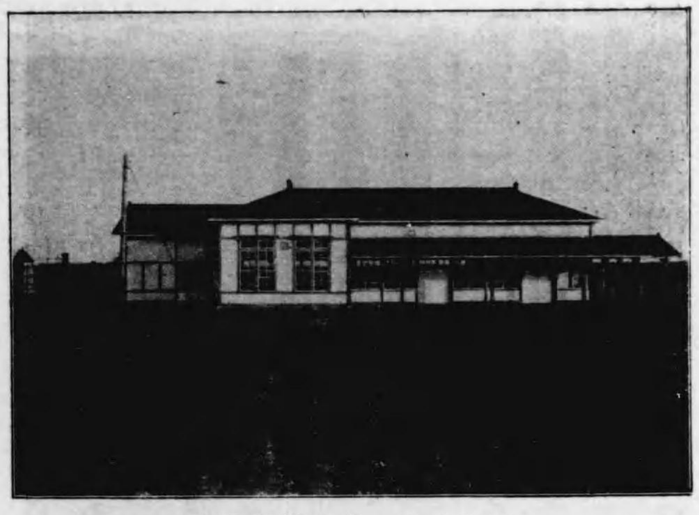
漁業地で、今も當町生産總額の七割以上は水産物の占める所となつて居る。其の町制を施行したのは明治三十三年で、人口は約一萬。町の本部は厚岸湖の南を擁する半島の北端に在つて、厚岸驛の所在地とは海上約六町の隔りがある。町内の**國泰寺**(臨濟宗)は有珠の善光寺、樣似の等澍院と並び稱せられる。本道の三名刹で、文化元年の創建。境内に櫻が多く、其の花時には參詣を兼ねる觀櫻客が頗る多い。當町水産物の主なるものは鰊、鰮、昆布、鮭、鱒等で、搾粕、鹽藏魚、素乾等の製造、移出が盛である。灣は大正二年以來海軍防備港候補地として當局の着目する所となり、**厚岸湖**は牡蠣の名産地として知られて居る。同湖の周圍は約七里。中に六十二の小島があつて、潮の滿干に從つて隱顯する。其の一つの牡蠣島には天然記念物として保護せられる厚岸草、しばまつば、しばふがある。

落石無線電信局　厚岸驛の東方鐵路四十三哩餘に落石といふ驛がある(此の間に約三時間を要す)。驛の所在地は根室國根室郡和田村に屬する。村の南端たる**落石岬**の東南角に**落石無線電信局發信所**がある(驛を距ること約一里)。當局の通信開始以前には、米國航路の船舶は銚子無線電信局(明治四十一年五月十六日開局)と通信を交換してゐたものであるが、其の頃は通信距離の關係上航海中十餘日間通信杜絶の不便があつた。此の不便を補ふ必要上明治四十一年十二月二十六日落石局を開局したものである。其の後大正四年規模を擴張し、高さ三百尺の鐵柱を建て、尙同十二年根室町に**受信所**を開局した爲に、落石局は專ら發信を取扱ふこととなつた。



落石無線電信局の鐵柱

根室町　落石驛より北方鐵路十一哩八分、約四十分間で根室驛に着く(釧路、根室間には約六時間を要す)。驛は現在では日本最東の停車場。其の所在地根室町は花咲半島の中央部約三方里半を占め、地勢は高臺性丘陵で、北は根室灣に向つて緩に傾き、南は緩傾斜を以て太平洋に望んで居る。市街の本部は根室灣頭の緩傾斜地に、一部は南海岸



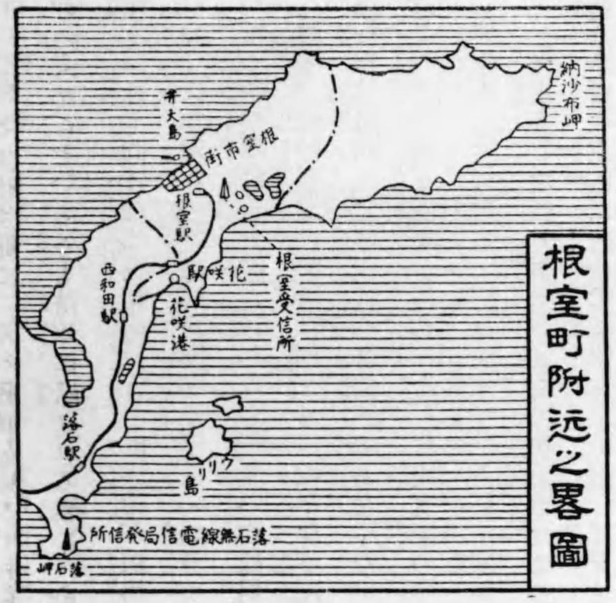
日本極東の停車場根室驛

の花咲灣頭に在り、其の他は概ね牧場或は蔬菜畑になつて居る。

此の地は舊土人が「ニムオロ」（樹木繁茂の義）と呼んだ處。それが轉じて根諸となり、更に轉じて根室となつたものである。夙に漁場として知られ、漁場請負人の置かれた處で、有名な高田屋嘉兵衛、同養子金兵衛、藤野喜兵衛、同四郎兵衛などは皆其の一人。いづれも根室開發の恩人である。明治二年開拓使判官松本十郎（大正五年十二月郷里山形縣鶴岡に歿す。七十九才）なる人が移民百三十名を率ゐ、英國船テールス號に乘つて根室に赴任した時、此の地には運上所、金刀比羅神社の外には殆んど見るべきものはなかつたといふことであるが、其の後次第に開拓の歩を進め、明治九年十二月十四日には開拓使長官黒田清隆が臨場して此の地に花咲學校を開校するに至つた。之が現在の花咲尋常高等小學校の前身で、校名は黒田長官の命名。自ら筆を執つて「花咲學校」と書き殘したが、其の書は扁額に仕立てて今に保存せられて居る。

爾來、海陸産業の進展に伴うて、次第に盛況に向ひ、明治三十三年七月一日町制を施行し、同四十三年六月一日開港場となつた。其の後大正十年八月五日根室線の全通によつて、益々活氣を呈し、今や根室支廳の所在地で、人口は約一萬七千。本道東部の要都となつて居る。町は元來漁場として發展の緒を開いた處。今も漁業の根據地として重きをなし、鮮魚は之を冷藏貨車によつて鐵路東京其の他各地に送り、昆布の如きは盛に支那に向つて輸出せられる。工業も次第に盛況に向ひ、罐詰（北寄貝、帆立貝、鯨、鱈等）、酒、醤油、味噌等の製造地として知られ、商業は根室國本土及び千島の國

後島並に色丹島等に對する貨物の取引地として、活氣を呈して居る。近來町の後背地たる根室原野の開發が著しく行はれつつあるから、其の開拓の進行につれて、町勢は更に發展すべき筈である。



港の修築工事は大正九年起工、同十三年に至つて終了（長さ三町餘の防波堤を築いた）したが、まだ十分とはいへない爲に、第二期拓殖計畫により、更に昭和二年度から第二期の築港工事を起して居る。此の工事は同十一年度に完成する豫定であるから、竣工の曉には町は更に一段の發展を見るであらう。唯冬季嚴寒の際には港内が氷結するのみならず、港外も流氷に蔽はれる爲に、船の出入が出來ない。爲に此の時期には南岸の不凍港**花咲**港を副港として、此處に出入せしめるのである。

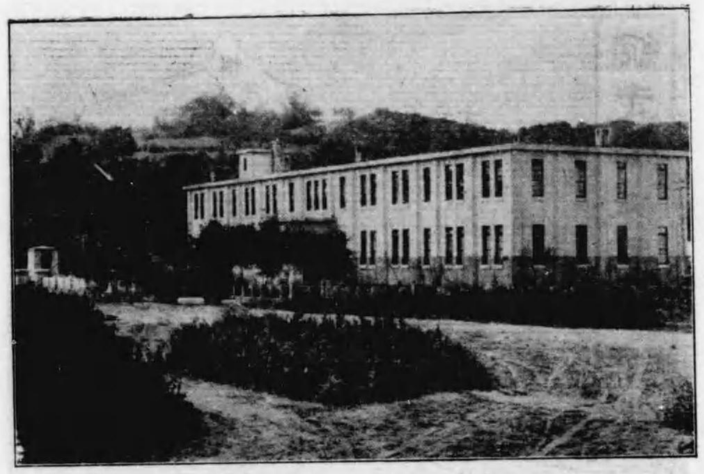
市街の區劃整然たることは、札幌、旭川などと同じく、又今後町の發展につれて擴張すべき餘地を十分に備へて居る。市街の東部なる縣社**金刀比羅神社**は文化三年時の漁場請負人高田屋嘉兵衞の創建で町民の崇敬篤く、境内は港内及び遠近の形勢を大觀するに都合のよい展望所である。此處と指呼の間に在る**辨天島**には市杵島神社があるが（村社）、之も高田屋嘉兵衞が建てたものである。

野付牛町　鐵道網走本線が**池田**から分れて今**札鶴**まで通じて居ることは既に述べて置いた。池田から北東に向ひ、鐵路八十七哩、約五時間にして北見の一要都野付牛町に着く。町は常呂川中流の河畔に位し、もと屯田大隊の在つた處。明治四十四年九月二十五日池田からの鐵道が開通し

て俄に活氣を增し、其の後網走線の延長及び湧別線（野付牛、下湧別間五〇哩六、其の全通は大正五年十一月二十一日）の開通によつて益〻發展し、今や人口約二萬四千。常呂川流域に豐富な米、麥、大豆、甜菜、馬鈴薯等の集散地に當り、又附近に產する木材を利用する木工品（角材、枕木、下駄材、板等）製造の盛な處。北海道農事試驗場の北見支場も町內に在る。

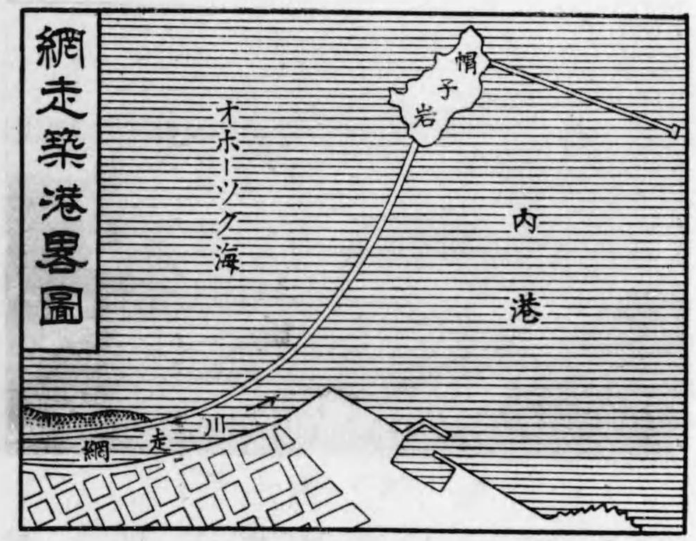
美幌町　野付牛より網走本線を東方に進むこと十五哩六、約一時間で美幌町に着く。町は木材、木炭、亞麻、米等の集散地。鐵道相生線の開通以後益〻盛況に向つて居る（人口約一萬二千）。相生線は美幌驛より分れて南方に向ひ、今は北見相生驛まで通じて居る。

網走町　美幌驛から北走十七哩八分、五十餘分間にして網走驛に着く。驛の所在地たる網走町の區域は頗る廣く、其の面積は四十方里。人口は二萬五千を超える。併し其の本部たる市街地は網走川の最下流に跨り、人口は約一萬二千。街衢整然さながら碁盤の目の如くである。此の地は舊土人がアパシリ（入口の陸地の義）と呼んだ處。安政六年網走場所といふ獨立の漁場となつた時には土人の家屋が六十六戸あつたといふことであるが、明治十四年市街區劃を行つた時、當市街地には土人三十餘戸、和人數戸あるに過ぎず、概ね未開の森林地であつた。然るに其の後次第に發展して、北見方面第一の都會となり、現に網走支廳の所在地である。



網走支廳

此の地も元來漁業を以て發達の緒とした處。今もオホツク海に於ける漁業の中心地で鮭、鰊、鰈、大鮃、鱒等の漁獲が多く、佃煮搾粕、蒲鉾、鹽鮭等の製造が盛であるが、陸上開拓の進展に伴ふ農產物も頗る豐富で、其の總額は水產物總額よりも遙に多くなつた。豆類、麥類、蔬菜、薄荷、甜菜、馬鈴薯、亞麻、蕎麥等が重要農產物で、薄荷油、醬油、木製品、澱粉、味噌等の製造も盛である。



網走川河口附近の**護岸工事**は町營で。昭和三年に起工せられたものであるが、翌年竣工し、同河口に續ける港の築港は大正八年八月に起工したのであるが、之も昭和四年を以て落成した。鐵道網走線が當町まで開通したのは大正元年十月五日であるが、同線は其の後延びて斜里に通じ、今は更に延長せられて札鶴まで開通して居る。將來同線は現在の釧網線と接續して釧網兩地を連絡すべく、又網走、中湧別間の湧網線も既に豫定線に編入せられて居るから、是等の鐵道開通の曉には、當町は目覺しい發

網走市街と築港

達を遂げるに相違あるまい。

市街の南に接する丘陵は之を**桂ケ岡**といひ其の一部は公園になつて居り、市街及び港を瞰下する好展望所である。併し此の岡を登りつめた處の高臺に建てる鐵筋混凝土造の網走中學校の屋上の眺望は更に雄大。一方に煙波渺茫たるオホーツク海を見渡し、一方には知床半島及び斜里、藻琴、阿寒の秀峰を眺めて實に絶景と稱する外はない。又此の丘陵地帶中に在る網走男子尋常高等小學校は大正十一年七月十六日時の攝政宮殿下が本道御巡啓中、鶴駕を駐めさせられた處で、其の御座所

は今も大切に保存せられて居る。

市街を西に距ること一里十町に周圍十一里十四町（面積三千六百四十五町歩）の**網走湖**がある（鮭、鱒、鮒、鯉、海老、鰕等棲息す）。其の北岸の**三眺山**は登り八町の丘陵であるが、丘頂に立てば眼下に網走湖を見下し、北に能取湖（周圍約八里、面積五、二四三町歩）及び之に續くオホーツク海を望み、南方には阿寒岳等を眺め、山、海、湖水の三美を賞し得る絶好の展望處である。

其の麓に近く網走刑務所がある。交通不便の時代には、特に重罪犯人を入監せしめた網走監獄で、有名な「五寸釘の寅吉」も此處で苦役に服し、改心の上出獄したのであるが、今は農業本位の監獄で、普通の犯人を收容して居る。

話が再び市街地に戻るが、網走河口より北の海濱は北見方面中最も有名な海水浴場で、夏は同方面各地から浴客の雲集する處である。

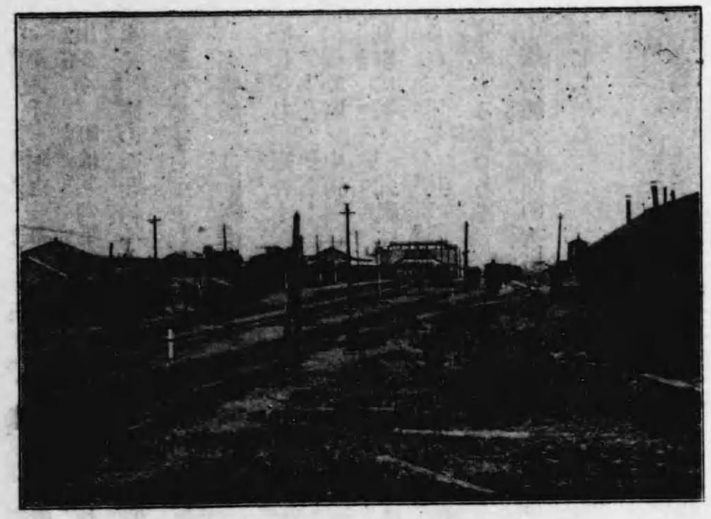
遠輕と石北東線　野付牛驛から湧別線によつて北西に進むこと三十七哩半で遠輕驛に着く（此の間に二時間餘を要す）。此の地は製材業の頗る盛な處で、人口は約一萬三千。石北東線の分岐點に當り、同線は今、白瀧まで通じて居る。遠輕附近の平原は地味肥沃にして薄荷、亞麻等の產出多く、驛の西北約一里に留岡幸助氏經營の**家庭學校農場**がある。同場は不良青少年を收容して其の感化事業を主とし、模範的に農業、牧畜を營んで居る。

名寄線　遠輕驛の北方十哩餘に**中湧別**といふ驛がある。驛は湧別線の終點下湧別驛の南方三哩に位し、宗谷本線の名寄驛に通ずる名寄線（中湧別、名寄間七五哩七）の連絡する處である。

紋別町　中湧別驛から名寄線によつて北西に進むこと約十八哩（此の間に一時間餘を要す）で紋別町に着く。此處は松前藩時代以來有名な漁場で、今も鰊、帆立貝などの漁獲の多い處として知られて居る。其の湊は北見方面に於ける避難港の一つで、大正十二年以來築港工事を施し、近く完成する筈である（人口約九千）。

渚滑線　紋別の次に渚滑といふ驛がある。驛は渚滑線の分岐點。同線は今、北見瀧ノ上驛まで通じて居る。

名寄町　渚滑驛から名寄本線によつて海岸傳ひに北西に進み、興部驛から急に方向を西方に轉



名寄驛

じて内陸に入り、遂に名寄驛に到着する。渚滑名寄間は鐵路五十五哩餘、約三時間の車程である。名寄驛は名寄本線と宗谷本線との接續點で旭川驛を北に距ること四十七哩餘、約三時間の行程である（急行列車では約二時間を要す）。

驛の所在地名寄町は、舊土人がナイオロと稱へた處。「川の傍」といふ意である。蓋し名寄川が天鹽川の上流に注ぐ地點に當る爲に、かく名付けたものであらう。此處に和人が始めて移住したのは明治三十三年であるが、同三十六年九月三日旭川からの鐵道が開通した爲に、發展の氣運を開き、其の後宗谷本線の延長及び名寄本線の敷設（名寄本線の全通は大正十年十一月五日）によつて鐵道交通の要地となり、今や人口は約一萬四千。附近一帶の地は地味肥沃にして農耕に適し、亞麻、馬鈴薯、菜種、小豆、麥類等の產出多く、町は其の集散地として發展しつつある。旭川市に在る合同酒精株式會社經營の名寄工場は當驛附近にあるが、其の敷地は七千坪に近く、一ヶ年に二萬五千石の釀造能力を備へて居る。

音威子府　名寄驛から宗谷本線により、天鹽川に沿うて北進すること三十三哩餘、約二時間にして音威子府驛に着く。驛は天鹽線（音威子府、稚内間七九哩八）の分岐點であるが、同線は後にまはして、宗谷本線を進むことにする。

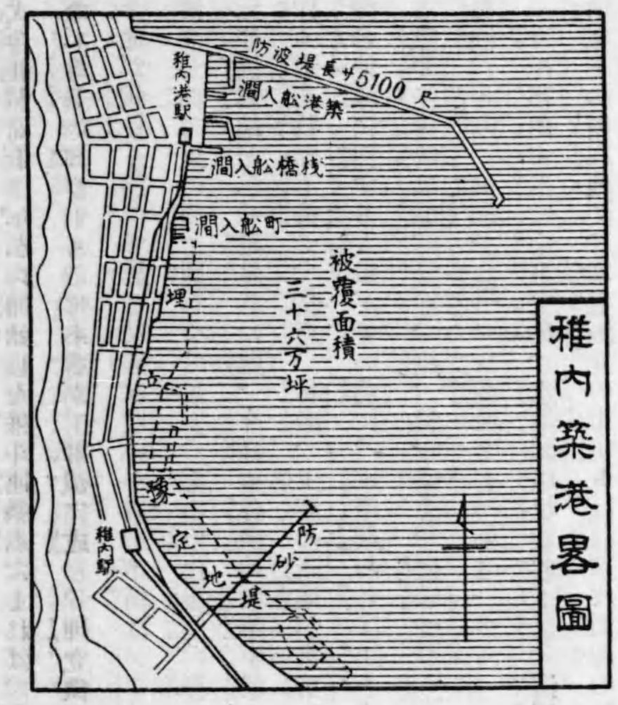
クッチャロ湖　音威子府驛より宗谷本線によつて稚内驛に至る間は九十三哩餘、約五時間を要するが、此の間の沿線には特に紹介する程の處はない。唯音威子府驛を距ること三十八哩餘の濱頓別驛と次驛山輕驛との間に周圍十里餘のクッチャロ湖が樹林の間に隱顯して單調を破り、聊か旅情を慰めるものの如くに見える。湖畔の密林が其の影を鏡の如き水面に宿し、靜寂幽邃の勝地であるが、近年山火事が森林の一部を燒拂つた爲に、著しく風致を害した。湖中には魚貝が多く殊に蜆貝が名產になつて居る。

天鹽線　は音威子府と稚内との兩方面から敷設したもので、其の全通したのは大正十五年九月二十五日である。之より先、音威子府より東海岸を經て稚内に至る宗谷本線は大正十一年十一月一日を以て開通し、其の後同線は昭和三年十二月二十六日稚内驛から稚内港驛まで（一哩一）延長せられたが、稚内、音威子府間は天鹽線の方が宗谷本線よりも十三哩四分短い爲に、稚内港驛を終始驛とする急行列車は天鹽線のみを經由して居る。

稚内町　は北海道最北の町で、函館から急行列車によれば、十八時間餘で達する。行政上の稚内町の面積は凡そ三十一方里で、町内に停車場が九箇所（宗谷本線中に七箇所、天鹽線中に二箇所）もあつて、隨分廣い地域である。併し人口は約一萬九千に過ぎず、其の大部分は町の本部たる市街地に住んで居るのである。

此の市街地は舊土人が**ヤムワッカナイ**（給水地の義）と稱へた處。天明年間松前藩が始めて漁場を開き、村山傳兵衛を其の請負人たらしめた處である。其の後幾多の變遷を經て今日に至つたものであるが、背後に近く丘陵を負ひ、其の麓に港岸に沿うて狹い平地が細長く連つて居るに過ぎないから、市街はノッシャプ岬の燈臺附近から海岸に沿うて約二里の間に廣がつて居り、此の中に稚内、稚内港の二驛がある。此の地も元來漁業地として發達した處。今日も各種の産業中第一位を占めるのは、漁業と之に伴ふ水産物加工業で、農産、林産、工産の諸業が次第に之に亞ぐのである。併し町全體の地域に對する人數が少い爲に、水産業の外は誇とするに足らない。此の地に於ける重要漁獲物は鰊、昆布、鱈、鮭、章魚、鰈等で、主なる水産製造物は搾粕、鹽鮭、魚油、干鱈、海參、鯑、身欠鰊などである。

今や稚内市街は宗谷支廳、水産試驗場宗谷支場、海軍無線電信所、鐵道省無線電信所などの所在地で、本道極北の市街とは思はれぬ程の活氣を呈して居るが、之は樺太の南半が我が領地となり、又鐵道宗谷本線及び天鹽線が全通して、樺太に對する旅客



貨物出入の大門戸となつた爲で、旅館の如きも設備の能く整うて居るものがある。殊に管野旅館の如きは皇族殿下の御宿泊を仰いだこともある宿で、實に堂々たるものである。

港は大正九年以來築港工事を續け、昭和六年度には完成の豫定であるが、大正十二年以來鐵道省營の稚泊連絡船の發着港となり、同船によれば海上八時間にして樺太の大泊に達する。又北日本汽船株式會社が同十三年から開始した稚斗連絡船によれば、海路七時間にして樺太西岸南部の本斗港に到着する。將來築港工事が完成し、埋立豫定地が埋立られた曉には、更に活氣を增すに相違あるまい。

利尻、禮文の兩島は共に稚内港より四時間の航程である。いづれも漁業の盛な處で、鮮魚を隔日に稚内市街に送つて居る。名産の昆布は毎年七月下旬より八月末頃まで採取するが、其の時期には昆布積込船が來島し、小樽經由で主として阪神地方に送られる。

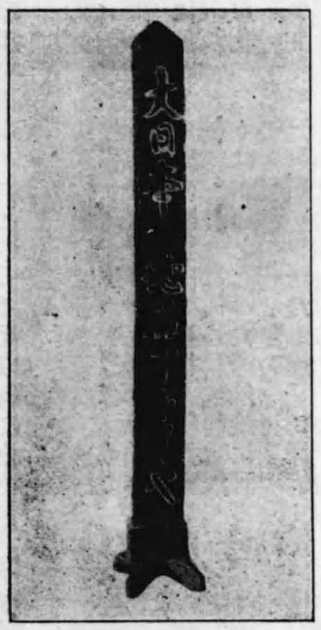
第六章　千島列島

維新前後の千島　千島の古名をクルセミといふ。西洋人は之をクリル諸島と呼んで居るが、古來交通不便の地で、他の地方との交渉が乏しかつたと見え、古い記錄が無い爲に、其の沿革も能く判らない。其の松前家の領地となつた時代も知ることは出來ないが、元祿年間に同家から幕府に差出した松前島鄕帳に「クナシリ、「エトロホ」等の名が見えて居るから、此の頃松前家では千島を同家の領地扱にしてゐたものと見てよからう。當時同家で千島のどの島までを其の領地と心得てゐたかも明瞭でないが、天明六年五月得撫島に渡航して露人在住の實況を視察した**最上德内**が同島を視察した最初の和人であることを思ひ、又寛政十年**近藤重藏**が德内と共に擇捉島に渡り、露人の建てゝゐた十字架を拔き棄てゝ「大日本惠土呂府」の標柱を建てかへたこと及び、翌十一年幕府が東蝦夷地を其の直轄とし、南部、津輕兩家をして守備兵を派遣せ

しめ、或は重藏の命によつて高田屋嘉兵衛が始めて國後、擇捉間の安全な航路を發見したことなどを考へるならば、松前家の政令は殆んど千島には及ばず、天明、寛政の頃から、德川幕府が日本領としての實を表し始めたものと見てよからう。しかも幕府の探檢調査は主として擇捉以南に止まり、得撫以北の島々には及ばなかつたものらしい。

斯樣な關係からと見え、安政元年十二月二十一日調印の日露和親條約に於て、千島に於ける日露の國境は、擇捉、得撫兩島間の海峽（得撫水道）と定まり、得撫島及び其れ以北の島々は露領となつた。餘談に亘るが、今函館中學校の所藏品中に「大日本地名アトイヤ」と彫りつけた木標（高さ六尺七寸五分、幅六寸二分、厚さ三寸四分、用材は根松）がある。之は安政六年幕府が仙臺藩に擇捉島の警備を命じた爲に、同島に渡つた同藩士が、曩に近藤重藏が建てゝ置いた標柱の剝蝕せるを見て、建て換へたものだといふことである。

明治二年八月十五日北海道を十一ケ國に分けた時の千島國も同列島全體ではなく、擇捉島以南の島々だけであつたが、同八年五月七日調印の樺太千島交換條約によつて始めて千島列島全體が日本領となり、同時に之を千島國と呼ぶことになつたのである。前に述べた「大日本地名アトイヤ」の木標は同九年開拓使書記官時任爲基が擇捉島巡視の際持ち歸り、函館博物館に陳列した後、函館中學校に交付したものである。



大日本地名アトイヤ木標

面積、人口　千島は三十一島より成る火山列島で、其の面積は千〇三十三方里四六。現今根室支廳の管下になつて居る。色丹、國後、擇捉、得撫、新知、捨子古丹、温禰古丹、幌筵、占守、阿賴度などが主なる島であるが、此の内**占守島**は日本最東の島（島の東端は東經一五六度三十二分）、幅四海里餘の千島海峽を隔てて露領勘察加のロパトカ岬と相對して居る。又**阿賴度島**（荒度とも書く）は我が國最北の島で（其の北端は北緯五〇度五六分）、樺太に於ける日露の國境（北緯五〇度）よりも稍北に當つて居る。

國後島の茶々岱

島はいづれも火山島で、阿賴度島の如く島全體が一つの火山であるものもあり、又擇捉、得撫の如く島の基盤を破つて噴出した火山を戴く島もある。尙其の火山の多くは休火山であるが、現に活動せるものもあり、いづれも航海者の目標となつて居る。

國後島の東北部に聳ゆる**茶々嶽**（爺々嶽とも書く。一八七二米の休火山）は特に有名な火山。富士形の山體上、更に小富士を戴く二重式火山である。茶々嶽とは舊土人語で、「チャチヤ」は老爺、「ヌプリ」は山の義である。蓋し此の山が同島第一の高山であるから、かく名付けたものであらう。

千島列島の全人口は僅かに一萬二千餘。しかも其の大部分は國後（人口七千二百餘人）、擇捉（約四千人）、色丹（七百五十餘人）の三島に住んで居るのであるから、他の島々は殆んど無人島ばかり。唯新知、占守等の島に漁舍の番人等が越年するに過ぎない。以上の内色丹島の住民中には特に**色丹土人**と稱し、特殊の來歷を有するものが住んで居る。

色丹土人　明治八年五月七日調印の樺太千島の交換條約によつて、我が國は樺太全島を露國に讓り、其の代償として得撫島及び其れ以北の千島を得たが、是等新附の島々に住んでゐた島民の去就は彼等の希望にまかせたものである。爲に其の際島を去つて露領に引揚げたものも少くなかつたが、其の他のものは新に我が帝國臣民たることを望み、依然として舊來住み馴れた島々に殘留することとなつた。然るに是等殘留者の生活に對しては、我が政府が其の安定を保證する約束になつてゐた爲に、衣食住總ての生活物資を政府から給與したものである。隨つて彼等は働かずとも、少しも生活に窮することはなかつた。所が生活物資配給の手數が容易ならざる爲に、一度に一年分或は二年分を給與して置くと、彼等は時々露領方面から出漁して島を訪ふ露領住民に生活物資を分配する樣なこともあつた。そこで同十七年一月根室縣令**湯地定基**は是等の島々を巡視し、彼等を諭して悉く色丹島に移住せしめることにした。

此の時、色丹島に移住した殘留民は合計九十七名。依然生活物資は政府の給與を仰ぎ、北千島方面に出獵或は出漁したのである。さるかはり彼等の獲物は官に收めて金

にかへ、彼等の共同金として保管することにしてあつた。卽ち彼等は生活の安定は保證せられて居るが、財産の自由がない。爲に悠々徒食するのみで、忠實に勤勞に從事することをしない。彼等の發展を圖る爲には、獨立自營の道を立てしめ、同時に財産の自由を與へなければならないといふことになり、大正十五年以後彼等も任意の業に從事して自活の道を立てることとなつた。此の事に關係して彼等の爲に最善の方策を講じた直接の功勞者は當時の根室支廳學務課長**淺野正**氏（現在は根室町花咲尋常高等小學校長）である。

其の際、根室支廳が保管してゐた彼等の共同金を全部渡すならば、彼等が之を徒費する憂がある爲に、新に營業に從事する資金として、共同金の約半額を彼等に分配し、殘りは彼等の生活改善に關する永遠の計畫に對する共同資金として、今も同支廳が保管して居る。現在色丹土人の數は移住當時の約三分の一に減じて居るといふことである。

千島の探檢　開拓使の設置以來、官民努力の結果北海道の開拓は年と共に進行して今日に至つて居るが、殆んど全力を北海道本島の開拓に注いだもので、千島列島は將來の開發を待つて居る。之は必ずしも千島に海陸自然の富が乏しい爲ではない。氣候は寒冽、海は荒く、又既に述べた通り、島の多くは無人島、交通も亦極めて不便であるから、北海道本島に開拓の餘地ある間は、千島の開發に手が伸びないのは當然といはなければならない。

從來千島に往來した人々の話を綜合すれば、其の近海は殆んど年中波風が強く、汽船から艀舟に乘移る場合にも、艀舟から汽船に乘込む時にも、荷物同樣ウインチによらなければならないことが少くない。又濃霧が船の進退を窮せしめる場合も珍しくはない。それ故航海業者は北千島近海を世界三大難航路の一つとして居り（他の二つは南米ホーン岬と阿弗利加の喜望峯近海）、船が擇捉島近海にさしかかれば、保險料が一躍五割增になるといふことである。尙寒季が頗る長く、嚴寒期に入れば、島の周圍の海水が結氷

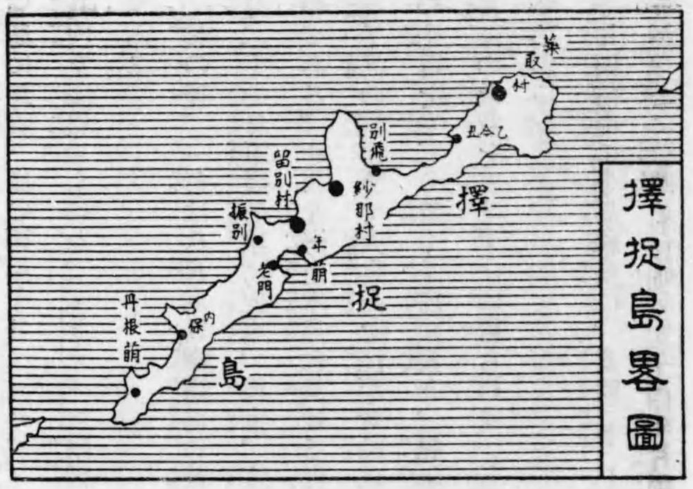
する上、流氷が襲來して之を圍み、毎年五月にならねば全く融解しない。**千島海峽**の如きは結氷期には占守島から對岸まで氷上の往來が出來るといふことである。

斯樣な次第であるから、**幌筵島**には大正八年九月十二日開局の**無線電信局**があつて此の方面に出動する漁船等に便利を能へて居るが、其の通信取扱期間は毎年五月から九月までである。

千島に對する北海道廳の命令航路も函館、擇捉間は毎月三回（年に三十六回）であるが、函館、占守間は毎年五、六、七、九月各々一回（合計四回）に過ぎない。

函館地方から毎年漁船が北千島方面に出漁し、千人内外の漁師が入込むが、其の漁期は五月から九月までで、少數の越年者の外は皆九月中に引返すのである。隨つて今日に於ても特別任務の遂行者或は營業者の外は北千島に往來する人が殆んどないと謂つても差支はない。

然るに、顧れば明治二十四年**片岡**（利和）**侍從**は千島に渡り、島に越年せられたことがある。片岡侍從は明治天皇の叡旨を奉じて千島の地理、風俗、人情等を視察することとなつたものであるが、其の一行が札幌を出發せられたのは明治二十四年十月三十日。同年十一月十九日**擇捉島**の東北部なる**蘂取村**に上陸せられた。最初の豫定は得撫島に渡つて越年の見込であつたが、既に時期が後れて渡島することが出來なかつた爲に、蘂取を以て越年地と改め、附近の山野を跋渉して新年を迎へ、同二十五年二月中旬から島内各村を巡廻せられた。かくて五月十六日島内紗那村出帆。得撫以北の島々を巡視し、七月五日占



守島に到着。島の西岸なるモヨロップに上陸して、小屋を造り、此處を根據地として島内を視察せられた。モヨロップ附近の灣を片岡灣といふのは侍從の姓を採つたものである。

其の後、一行は八月五日幌筵島に渡り、オットマイを本居として島内を巡視し、同月二十七日軍艦磐城に便乘。根室、室蘭を經由して、九月十一日札幌に歸着せられたのである。まだ北海道本島に於ける開拓も初期といふべき明治二十四年に、早くも僻遠千島の端にまで大御心を注がせ給はつた明治大帝の御叡慮は畏き極であり、又大帝の聖旨を奉じて遠く千島に渡り、越年の上島々を巡視せられた片岡侍從の勞に對して甚深の敬意を表せずには居られない（片岡侍從は明治三十三年五月九日男爵を授けられ、同四十一年十一月二日薨ず）。

片岡侍從の千島視察は、當時著しく世人の千島に對する注意を喚起したものであるが、之に激勵せられたものと見え、其の後海軍豫備大尉郡司成忠を會長とする報效義會が成立して、北千島の警戒と開發に當ることとなつた。即ち明治二十六年三月十九日會長以下數十名の同志はカッターに乘り、占守島に向つて隅田川を出發した。然るに其の途中暴風に遭つて壞された舟もあり、又多數の死者も出した爲に、其の後或は汽船に、或は帆船に便乘して、八月初旬千島の捨子古丹島に到着したが、此の時一行は會長及び探檢主任白瀨矗（後に南極探檢を企てた人）外十三名であつた。此の十三名中の九名は同島調査の爲に、島に居殘ることとなり、會長、探檢主任外四名は再び帆船に便乘して占守島に向つたが、知林古丹島附近に於て、軍艦磐城に出遇つた。仍つて六名は同艦に便乘し、同月三十一日占守島の片岡灣に入港の上モヨロップに上陸。嘗て片岡侍從が起臥せられた小屋址に小屋を新設して此處に住居することとした。曩に捨子古丹島に居殘つた九名の内五名は出漁中行方不明となり、四名は草廬中に病死した（此の事は明治二十七年六月軍艦磐城が九名の殘留者搭載の目的で同島に立寄つた時、病死者の日記によつて判つたのである）。

占守島の六人は或は蔬菜類を試作し、或は狐狩を行ひ、又島内を踏査してゐたが、明治二十七年六月二十八日軍艦磐城が片岡灣に入港した。同艦は當時日清兩國間の國交が圓滿を缺き、頗る危急の狀態に迫つてゐた爲、其の筋の内命により、郡司會長以下六名を島から引返させる用務を帶びてゐたもので、同艦には郡司會長の父（幸田成延）が前の六名と交代すべき會員五名をつれて便乘してゐた。其の結果白瀨探檢主任外五名が島に居殘ることとなり、郡司會長等は同艦に乘込み、七月一日同灣を解纜して歸航の途に就いた。

白瀨以下六名は占守の島生活を營むこと更に一年餘。其の間に三名は病死し、白瀨氏外二名は幸にして健康を保ち、明治二十八年十月島を辭して再び鄕土を踏むことが出來た。報効義會は其の後も北千島の開發に力を注いだもので、一時は百七十餘名の會員が占守、幌筵兩島に分住し、海陸の開拓に從事してゐたこともあるが、大成功を收めるまでには至らず、其の後同會の消息も一向知られなくなり、郡司會長も大正十三年八月十五日六十五歳で歿くなつた。

千島の開發　千島列島中、國後、擇捉、色丹の三島には定住者があつて、國後島には泊、留夜別の二村があり、擇捉島には留別、紗那、藥取の三村、色丹島には斜古丹の一村がある。いづれも水産業が盛で、鮭、鱒、鱈、鰊、鰈、大鮃、タラバカニ、章魚、昆布、鯨等の漁獲が多く、タラバガニ、鮭、鱒等の罐詰製造業が頗る盛況を呈して居る。

然るに得撫島以北の北千島は處々に少數の越年者が居るのみで、多くは無人島。得撫島の如きは比較的近距離にある可なり大きな島であるが、最近同島を視察した人の話によると、大正五年農商務省が放養した狐は蕃殖して居るが（農商務省が狐を放つたのは得撫島以北温禰古丹島に至る島々である）、無人島だといふことである。しかも此の島は鮭、鱒等の漁業及び捕鯨業の根據地として將來頗る有望。唯開發を待つものの如くであるといふことである。

幌筵、占守近海もタラバガニ、鱈、鰈、鰊、章魚等が多く、臘虎、海豹、海馬等の海獸も少からず、陸上には熊、狐、溪流には紅鱒、鱒、鮭などが棲んで居る。隨つて夏季八十日乃至百日の間は函館方面から出漁する者が多く、此の期間だけは根室警察署から巡査も一名出張する。併し分署も交番もある譯ではないから、巡査は漁場を巡視し、漁夫と共に漁舍に起臥するのである。何分にも漁季が短く、漁夫もそれを心得て仕事を勵む爲に警官を煩はすやうな事件が起らない。隨つて巡査は漁場を巡視しながら、到る處で漁場の手傳をするといふ有樣である。有名な漁場は幌筵島の東北端なる**村上灣**（二海里の幌筵海峽を隔てゝ占守島の片岡灣と相對す）と同島オホーツク海岸中央部の**荒川**とで、共に千島漁業會社の漁業根據地である。此の外同島には約三十近くの漁場があり、占守島にも數箇處あつて、毎夏の漁獲高は莫大なものであるのみならず、少數の越年者が狩によつて得る熊、狐の毛皮代も存外多いといふことである。

尙、幌筵島には硫黃、砂鐵も豐富であり、又天然の炭酸水が盛に流れ出て海に注いで居る處もあるといふ次第。北千島海陸の富は只管世の開發を待ちつつあるものの如しといはれて居る。

昭和二年の夏、東京の**報知新聞社**が特派員を千島に派遣して、占守島の東端に「日本東極の標」と記した銅板を地下深く埋めさせ（七月二日銅板を埋め、其の上に日章旗と同社々旗を立てた）、更に阿賴度島の北端に「日本北極の標」と記した銅板を埋めさせたことがあるが（七月三日銅板を埋め、我が國旗と同社々旗を樹てた）、其の時の特派員の報告を見ても、北千島は日本の一大寶庫たり得る資格を備へて居るものらしく思はれる。

昭和四年六月地方長官會議が東京に開かれた際、畏くも今上天皇陛下は、時の北海道長官澤田牛麿氏に對して千島に關する御下問を發し

給はつたといふことであるが、それが爲道廳に於ては將來大いに千島の開發に力を致す準備として、先づ調査隊を北千島に派遣する必要を認めるに至つたといふことである。

第二編　樺太

第一章　名稱の由來、國境、面積、人口

樺太とサガレン

樺太はオホーツク海と間宮海峽との間に南北に横たはる細長い島で、其の南端なる西能登呂岬は宗谷海峽を隔てて北海道本島の北端なる宗谷岬と相對し、其の間海上僅かに二十二海里餘に過ぎない。

我が國では、嘗て北海道を蝦夷島或は蝦夷と稱へた關係から、樺太を其の位置によつて北蝦夷或は奥蝦夷とも呼んだことがある。併し古來最も廣く用ひられた名稱は唐太で、多分唐人の轉訛であらうといふことになつて居る。卽ち昔本島の土人は滿洲方面の人と交易した錦、靑玉などを宗谷地方に持ち來つて、我が松前人と交易したもの

であるが、松前人は風俗の異る本島の土人を**唐人**といひ、又其の住める島を**唐人島**と呼んだものである。然るに奥羽、松前地方では**ヒ**を**フィ**と發音する所から、遂に**カラヒト**が**カラフト**に轉じ、フトに**太**の字をあてたものである、其の後時代は判然しないが、唐の代りに樺の字を用ひ始めた。爲に今日でも往々文字通りに本島をカバフトと訓む人もあるが、實は文字には拘泥せずして**カラフト**と訓む可きである。現に我が樺太廳でも海軍の水路部でもカラフトと呼ぶことにして居る。

次に歐洲諸國では本島を**サハリン**或は**サガリン**又は**サガレン**といふ。玆に其の起りを尋ぬるに、西曆千七百年代佛國から派遣せられて北京（今の北平）にゐた或宣教師が東方亞細亞地圖を本國の地理學者（ド、アンヴィリ）に贈つた。圖中黑龍江に對して其の滿洲名サハリンアニヤンハダ（滿洲語の黑い川の流れの意）を記入した。然るに此の名が黑龍江の下流から樺太島に跨つて記されてゐた爲に、地理學者は之を島の名と誤解した。即ち其後佛國出版の地圖に於て始めて本島を**サハリン**としたもので、サガリン、サガレンはサハリンの轉訛であるといふことである。もと我が國の海軍水路部では、英國の稱呼に從つて、本島を薩哈嗹島と呼んでゐたが、明治三十八年七月十二日此の名稱を棄てて、樺太と稱することとした。

樺太に於ける日露の國界　樺太に於ける日露の境界問題は幕末以來長らくの宿題で、兩國に於て屢々交渉を重ねたものである。隨つて其の來歷を述べると、可なり長くなるから、之に關する歷史話は最後の章に讓ることとし、玆には現在の國界について述べることにする。

戰爭は國家の大事。固より輕々しく戰ふ可きものではないが、事情已むを得ず戰ひを始めたならば、必ず勝たなければならない。明治三十七八年戰役に於て、我が國は露國に對して連戰連勝した爲に、明治三十八年九月五日調印の講和條約第九條によつて、北緯五十度以南の樺太を領有することとなつた。其の條文は左の通りである。

第九條　露西亞帝國政府ハ薩哈嗹島南部及其ノ附近ニ於ケル一切ノ島嶼竝該地方ニ於ケル一

切ノ公共造營物及財産ヲ完全ナル主權ト共ニ永遠日本帝國政府ニ讓與ス。其ノ讓與地域ノ北方境界ハ北緯五十度ト定ム。該地域ノ正確ナル境界線ハ本條約ニ附屬スル追加約款第二ノ規定ニ從ヒ之ヲ決定スベシ。日本國及露西亞國ハ薩哈嗹島南部又ハ其ノ附近ノ島嶼ニ於ケル各自ノ領地內ニ堡壘其ノ他之ニ類スル軍事上工作物ヲ築造セザルコトニ互ニ同意ス。又兩國ハ各宗谷海峽及韃靼海峽ノ自由航海ヲ妨礙スルコトアルベキ何等ノ軍事上措置ヲ執ラザルコトヲ約ス。

此の條文中に在る追加約款第二の規定は左の通りである。

兩締盟國ニ於テ各任命スベキ同數ノ人員ヨリ成ル境界劃定委員ハ本條約實施後成ルベク速ニ薩哈嗹島ニ於ケル日本國及露西亞國領地間ノ正確ナル境界ヲ、永久ノ方法ヲ以テ實地ニ就キ劃定スベシ。該委員ハ地形ノ許ス限リ北緯五十度ヲ以テ境界線トナスヲ要ス。若シ何レカノ地點ニ於テ、同緯度ヨリ偏倚スルノ必要ヲ認ムルトキハ他ノ地點ニ於ケル對當ノ偏倚ニ依リテ之ヲ塡補スベシ。該委員ハ讓與中ニ包含セラルル附近島嶼ノ表及明細書ヲ調製スルノ任ニ當リ、且讓與地域ノ境界ヲ示ス地圖ヲ調製シ、之ニ署名スベシ。該委員ノ事業ハ兩締盟國ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス。

右の條約文によつて、日露兩國政府は明治三十九年五月それ〴〵樺太の境界劃定委員を任命したが、我が委員長は陸軍砲兵大佐**大島健一**、彼れの委員長は陸軍中佐ワスクレセンスキーであつた。彼我の委員は此の年六月十五日北樺太のアレキサンドロフスク市に會見して、先づ境界劃定に關する大方針を議したが、彼れは境界線に溝を掘らうと提議した。然るに境界線に當る地方は東西に峻嶮な山地があるのみならず、一面密林に掩はれて居る處であるから、先づ林木を伐り拂ひ、更に溝を掘ることにするならば、徒に多くの費用を要するのみならず、多くの日子を費さなければならない。仍つて我が委員は彼れに再考を求め、協議の末遂に境界線（北緯五十度）に沿うて林空を設け、更に其の中に境界標を立てることとした。**林空**とは境界線の兩側に於ける森林を一定の幅に伐り拂ふので、其の幅は廣い程よいのであるが、時間と費用節約の爲、幅十米（五間半）の林空を造ることとした。

境界標は天測境界標、中間境界標、木標の三種とし、**天測境界標**は嚴密に天體

を觀測して北緯五十度と定めた場處に立てるもので、境界線の基準となるものである。其の數は四個で、其の第一は東海岸の鳴海に、第二、第三は幌内川流域の境と星野に、第四は西海岸の網干に立てたのである。其の地點は堅牢を期する爲、地下二米半（約八尺二寸五分）の處からペトン（セメント一、砂二、砂利四の割合に配合した混凝土）を以て築き上た臺座を造り、其の上に高さ約二尺樂棋の駒形の花崗岩の標石が立てあるので、其の周圍には木柵が繞らしてある。標石の日本に面する表面（即ち南面）

天測境界標

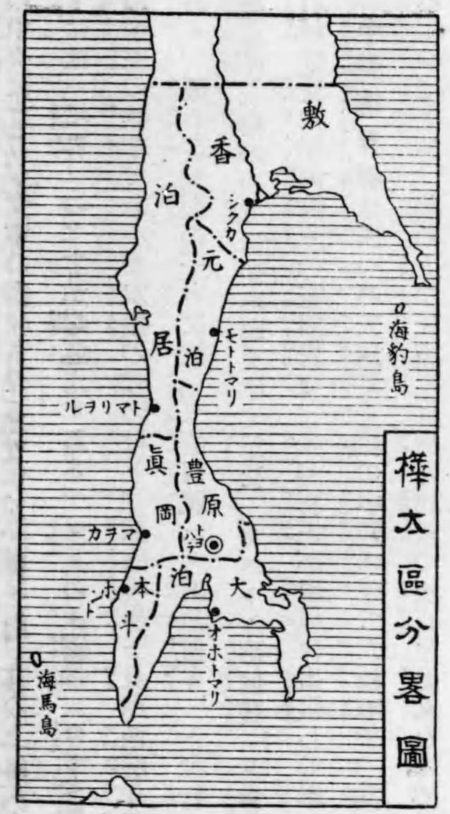
の中央には我が皇室の御紋章たる菊花を浮彫にし、其の上に「大日本帝國」の五字、下には「境界」の二字が彫込んである。又其の露國側（即ち北面）の表面には、當時露國帝室の紋章であつた双頭の鷲の紋と、「露國境界」及び西暦年數の露國文字が刻んであり、標石の側面の一方には「天第何號」、「明治何年」と二行に彫られ（標石番號と之を建てた年）、他の一方には露國文字で單に「アストル第何號」と刻んである。此の標石の石材は愛知縣岡崎産の花崗岩で、我が石工が現場に出張して彫刻したものである。

中間境界標は四つの天測境界標の中間に建てた標石で、其の總數は十七。地盤をペトンで固め、其の上に天測境界標と同式の標石を据ゑたのであるが、其の形が稍小さく、又其の南面には「日本」、北面には亞剌比亞數字を以て番號が刻んである。

木標は尖頭四角形の角柱で、其の總數は十九。其の南面の最上部に菊花の御紋章を彫込んだ上、其の下に「大日本帝國境界」の七字を彫りつけ、北面には双頭の鷲の紋と、「露國境界」といふ露西亞文字並に西暦年數が彫込んである。

境界の全長は百三十一粁（キロメートル）七一二七六（三十三里十九町二十二間）。此の間幅十米（メートル）（五間半）の林空が殆んど眞一文字に島を横斷して居るのであるが、一少部分には溝を掘つた處もある。

以上の境界劃定事業は明治三十九年及び四十年の夏季に行はれたもので、合計七箇月餘で完成したのである。



面積及び區分

日本領の樺太南北の長さは凡そ百十六里東西は最廣四十里、最狹七里。其の面積はまだ實測を經ないため、正確な數を示すことは出來ないが、樺太廳を始め一般の統計書類の採用して居る面積は二千三百三十九方里九二五（約二千三百四十方里。三百六十三萬七千餘町歩）であるから臺灣地方（澎湖島を合算した臺灣地方の全面積は二、三三二方里三九）よりも少しく廣いことになる。併し此の數は海軍水路部調製の海圖によつて算出したものであるから、概測數と見なければならない。

一方、我が陸地測量部調製の假製五萬分一の地圖によつて算出する時は、邦領樺太の陸地總面積（湖沼を除く）は二千百四十方里餘となり（三百三十二萬八千餘町歩）、約百九十九方里の減少となるから、之に湖沼の面積を加へて見ても、臺灣本島の面積には及ばないことになる。

どちらも概測であるから、正確は固より保し難いが、森林經營の如きものは、寧ろ小なる數を採用して基礎とするのが安全であるから、樺太廳内の農林部林務課では後者を採用して居る。併し地理の教科書や參考書などは、樺太廳が採用せる大なる數の

方を採用するのが普通である。

全土を治める役所は之を**樺太廳**といつて豐原町に置き、其の長官を樺太廳長官といふ。併し行政上全土を豐原、大泊、本斗、眞岡、泊居、元泊、敷香の七支廳管區に分ち、それ〳〵同名の地に支廳を置き、支廳長をして各管下の行政を掌らしめて居るのである。

住民　北緯五十度以南の樺太が我が領有となつた際、從來此の地に住んでゐた露國人の多數は、國境以北に退去し、之に代つて日本人が入込み始めたものであるが、明治三十九年末（南樺太が日本領となつた翌年末）に於ける全人口は僅かに一萬二千三百六十一人に過ぎなかつた。然るに樺太天賦の富源を開發する爲には、永住の目的を以て渡島し、着々開拓の實務に當るべき農民を我が內地各府縣より招く必要を生じた。爲に當局者は移住農民に對する保護、特典の道を講じて、其の招徠に努め、以て今日に至つて居る（移住農民に對する保護、特典は、後に產業の章に述べる）。其の結果邦領樺太の人口は次第に增加し、今や全人口は約**二十五萬**と稱せられるに至つた。領有翌年の人口に比較すれば、非常の增加に相違ないが、此の數は北海道の札幌、旭川兩市の人口の合計に匹敵するに過ぎない。一方里の人口密度は僅かに百七人內外に過ぎないから、住民は甚だ稀薄である。

今、確實な數を見る爲に、昭和二年末に於ける種族別現住人口を掲げると左の通りである。

本邦人	內地人	二一二五、四四三人
	朝鮮人	三、五七三人
土人	アイヌ	一、五一二人
	オロツコ	二八六人
	ギリヤーク（ニクブン）	一一五人
	キーリン	五六人

露國人……一二二人
支那人……八三人
外國人
波蘭人……三六人
土耳古人……一六人
獨逸人……一人
合計……二二一、二四三人
前年より增加數……一七、六七〇人
一方里の密度……九四人五

アイヌ　我が樺太舊來の土人中、其の數の最も多いのはアイヌで、其の風習は大體北海道アイヌと同じである。樺太廳保護の下に、諸處にアイヌ部落をつくり、平和な生活を營んで居るが、樺太鐵道（落合、知取間）の一驛**白濱**のアイヌ部落は交通便利の地である爲に、內地人の屢〻視察する處である。アイヌ部落は寧ろ西海岸に多く、彼等一般の生活は著しく內地人化し、處によつては殆ど內地人と變らないものもある。

オロツコ　は日本人の稱呼で、露人は之をオロチョンといふ。西比利亞の黑龍江流域に散住するツングースと同一種族で、體格、容貌は日本人と大差なく、男子は頭髮を五分刈にし、女子は頭髮を中央より分けて後に撫でつけ、辮髮を垂れて居る。馴鹿が彼等の最も大切な財產で、皆幌內川の流域に住し、中には五百頭內外の馴鹿を所有する財產家もあるが、馴鹿飼養の便宜上遊牧生活を營むのが一般であるから、家は甚だ簡單な小屋或は天幕式のものである。

ギリヤーク（彼等自身はニクブンといふ）も幌內川の流域に住み、馴鹿、貂、狐、熊などの飼育を主なる生業として居るが、半永住的生活を營み、粗末な家屋に起臥する。男女共に頰骨が高く頭髮は中央より分けて後に垂れ、辮髮或は捲髮にして居る。

右の統計に見る通り、我が樺太には數種の土人も住んでは居るが、其の數も少く、智識の程度も高からず、又樺太開發の責任觀念も强いとは見られない。從來の開拓が一に內地人の手によつて行はれた如く、將來の開發も亦內地人の手を煩すより外はない。然るに樺太の南隣にまだ開拓の餘地の多い北海道がある。殊に北海道では既に第二期拓殖計畫を樹てて其の實行に移り、各種の事業も興し、又盛に內地農民の移住をも奬勵して居る。特別の事情、關係のあるものは格別。さもない場合には、人は一

般に遠きを避けて近きにつくのが常であるから、樺太に移住する農民數の急激な增加を見ることは先づ困難と見るべきであらう。併し之が爲に樺太は決して悲觀すべきものではない。北海道に開拓の餘地が少くなる時が來れば、棄てて置いても樺太に多數の移民が渡るに相違ない。玆に昭和二年に於ける樺太への移住農民の數を見ると、四千七百五十一人（一、一〇〇戸）である。

第二章　地勢

一　海岸の出入

西海岸　我が樺太は其の海岸の出入の乏しいのが一つの特色であるが、西海岸は殊に少く、國境から南端なる**西能登呂岬**に至るまで、著しい灣もなければ半島もない。唯南部に**能登呂半島**があるが、西海岸に對しては何等の變化を與へてゐない。海岸段丘の多いことも亦樺太の一特色であるが、殊に西海岸一帶は山脚が近く海に迫つて其の端に海岸段丘の懸崖が長く連り、崖麓に多少の砂濱があるが、極めて細長く、殆んど見るべき平地はない。**來知志湖**といふ潟湖附近は稍廣いといふものの、之とて特に擧ぐべき程の廣さある平地ではない。尙近海に島の極めて少いことも樺太の特色の一つであるが、西海岸方面には唯**海馬島**あるのみである。此の島は能登呂半島の西

岸を西に距ること約三十海里に在る島で、其の周圍は約五里、夙に海驢の棲息地とし、又昆布や鰊の名産地として知られて居る。

南海岸　樺太の南には**亞庭灣**といふ大きな灣がある。此の灣は**中知床半島**と能登呂半島とによつて其の東西を擁せられる廣大な入海。其の最北部は更に陸地に入込んで、**千歳灣**となつて居るが、海岸は出入が少く、兩半島部の海濱には殆んど平地はない。殊に中知床半島方面は其の頸部に連坐せる**遠淵**、**和愛**、**池邊潰**三湖の湖畔以外は高臺又は山地の脚が海に迫つて懸崖を爲せる處が多い。此の三湖は土地の陷落と、風波の力によつて生じた砂嘴とによつて出來たもので、陷落潟湖といふべきものである。

東海岸　樺太の東海岸も極めて單調で、**多來加灣**以外には著しい出入はない。同灣は**北知床半島**といふ細長い半島によつて、其の東を守られ、廣く南方に口を開ける開放的の入海で、其の海岸には殆んど屈曲がない。唯其の北岸に幅一町乃至七町、長さ約八里の砂嘴が略東西に横たはつて、其の内側に面積約四方里の潟湖たる**多來加湖**を湛へて居る。其の水が砂嘴の一部を破つて斜に多來加灣に通ずる水路を**多來加川**といふが、其の河口より凡そ三十町の間は近海航行帆船の繫留所となつて居る。

灣を離れて南すれば、其の海岸は依然として單調、何等記すべき出入はないが、中知床半島の北部に面積

約四方里の**富内湖**がある。之も陥落潟湖で、土地の陥没部に水を湛へ、更に砂嘴によつて外海と隔てられたものである。樺太の湖水が皆海岸近くにのみある潟湖であり、又何れも鮭、鱒等の大切な繁殖所であることも樺太の一特色である。

北知床半島の盡端なる**北知床岬**の西南約十海里に**海豹島**といふ島がある。島は長さは約六町、幅は凡そ五十間、周回半里未滿の小島に過ぎず、周圍に砂濱を繞らせる高さ約五十尺（十五米餘）の高臺狀の岩島である。毎年五月頃から十一月頃までは、膃肭獸が群集する繁殖所で、世界に名高い處であるが、其の話は水産業の條に述べることにする。

次に樺太近海の海流を見るに、既に北海道の條に述べた通り、**對馬暖流**は北海道の西海岸に沿うて北上し、其の一派流を宗谷海峽に向はせた上、本流は樺太の西海岸を洗ひつつ**間宮海峽**に向つて北進する。此の外にオホーツク海奥より流れ來る寒流がある。此の海流は露領樺太（北樺太）の北端附近に於て東西二派に分れ、東流は**樺太海流**と名乘つて樺太の東岸近くを南下し、北知床岬附近に至つて更に二部に分れる。卽ち其の主力は直ちに南流して北海道本島の東岸に向ひ、副流は先づ多來加灣に入り、更に島に沿うて南下し、中知床半島の南端なる**中知床岬**を廻つて宗谷海峽方面に向つて居る。西流は之を**リマン海流**といひ、西比利亞大陸に沿うて間宮海峽に入り、遂に日本海に入るものである。以上の海流中、特に樺太の氣候及び海産物に影響の多いものは樺太海流と對島海流とである。

尙、我が樺太の海陸には、日露講和條約によつて軍事上の施設を加へてゐないが、其の海岸及び海面は北海道と共に第一海軍區に屬し、横須賀鎭守府の管轄區域となつて居る。

二　山脈

樺太山脈　露領樺太（北樺太）の北端エリサベス岬より邦領樺太（南樺太）の南端西能登

呂岬に至る間を南北に走る山脈は、樺太全島の骨骼に當るもので、之を樺太山脈と呼ぶ。島内に於ては最も著しい隆起帶であるが、高山峻岳はなく、日本領樺太に於ける最高峯敷香岳の如きも海拔一三二一米に過ぎず、本島中最も幅の狹い處である久春内、眞縫間附近に於ては著しく高度を減じて居る。之より南に進めば、再び高度を增し、留多加山（約七五八米）など稍人目を惹くものもあるが、左程高い山ではない。

東北山脈　北樺太の東岸中央部に起つて近く東海岸を南下し、遂に我が北知床岬に終る山脈は、樺太山脈に對して東樺太山脈といふ場合もないではないが、當山脈中日本領に屬する部分は、之を**東北山脈**と呼ぶのが普通である。此の山脈は國境附近に於て其の幅が最も廣く、南するに從つて次第に狹まり、遂に細長い北知床半島となつて海中に沒する。膃肭獸の繁殖地として有名な海豹島は其の餘勢の海面に表はれたものである。

鈴谷山脈　は南樺太南部の中央部を南北に通る山脈で、平野を隔てて樺太山脈の南部と相對して居る。**鈴谷岳**は脈中の最高峯であるが、海拔一〇四六米に過ぎず、其の他の山は遙かに低く、極緩慢な隆起帶であるが、南樺太中最も重要な地方に在る爲に人目を惹き易い山脈である。

此の外、中知床半島中にも半島を南北に貫く**中知床山脈**があるが、高山といふべきものはない。

以上の諸山脈は何れも略南北の方向を取つて相並行し、又高山といふべきものがない。之は樺太の地勢上の一特色である。

次に樺太に於ける火山を見ると、現に活動中のものはない。併し那須火山脈の餘勢が處々に表れて居る。卽ち海馬島は全島火山岩に蔽はれて居り、又樺太山脈の基盤を破つて出た火山岩より成る山に**野田寒岳**（約一〇二七米）、**伊皿山**（一〇七六米）、**鵜城山**（八六二米）、**釜伏山**（一〇八七米）などがあるが、高山といふべきものはない。

三　川と平野

幌内川　樺太全島中の第一の大河を幌内川といふ。源を北樺太なる東樺太山脈中の山地に發し、一時西に向つて流れるが、南轉して日露の國境を過ぎ、樺太、東北兩山脈間の低地を蛇行し、敷香附近に於て多來加灣に注ぐ。國境附近に於ける川幅は三十間内外に過ぎないが、河口の幅は約二町半に達する。河口を溯ること約六里の地點から分れて東南に向ふ派流があるが、之は**多蘭川**と稱し、本流河口の東北約一里半の地に於て多來加灣に流れ込む。本流の全長は七十里内外で、其の内日本領に於ける流程は凡そ三十里ある。往時は流木が到る處に横たはつてゐて舟行が頗る困難。時に地理に通ずる土人が丸木舟を操つて上下することはあつたが、普通の川舟は航行しなかつた。然るに明治三十九年國境劃定事業に從事した我が委員一行二百數十名が引上げの際丸木舟、筏及び境界劃定中に新造した川船に分乘し、途々流木を爆破して舟路を開き、無事河口に到着した。爲に翌年國境劃定事業續行の際には、我が委員一行に對する被服、食料等は主として當河の川船で運んだものである。

幌内平野　南樺太に於ける幌内川流域の平地は南に進むに從つて次第に廣く、南北凡そ二十八里、東西の幅は五里乃至八里に達し、我が樺太中最も廣い平地で、之を幌内平野といふ。平野は多くの場合人間生活に利便を與へることの多いものとなつて居るが、幌内平野は誠に價値が少い。此の平野の一部には矮小な落葉松、樺等の森林もあるが、大部分は枯死した蘚苔類又は泥炭より成る濕地で、冬は地表の水分が結氷して氷原となる。夏氣溫が高まれば氷は次第に解けて、極めて濕潤な土地となり、其上に蘚苔類、雜草などが密生し、諸處に沼澤地も出來る。然るに盛夏の候にも地を掘つて地下六尺内外に達すれば、地下水は依然凍つた儘である。かかる土地を地理學上**凍土帶**と稱へる。

凍土帶は嚴寒地には間々ある地相。西比利亞の北部は凍土帶として最も有名な處で

あるが、我が國に於ては幌内平野に之を見るのみである。盛夏の候蘚苔類が地表一面を蔽ふ時、好んで之を食ふ馴鹿の飼養には利用し得るが、農業の行はれる處でもなく又住み馴れない内地人が入込んで健康を維持し得る處でもない。唯比較的に排水のよい幌内川の河畔處々に土人の小部落があるに過ぎない。隨つて幌内平野は我が樺太中最も廣い平野ではあるが、經濟上殆んど價値のない處である。幌内川は此の濕潤な凍土帶に發する數多の支流を受ける爲に、其の水は常に暗赤色を呈して居る。

かかる次第であるから、我が樺太中經濟上最も重要な地位を占める平野は樺太山脈と鈴谷山脈との間に挾まる平地だけと謂つてよいのである。此の平野は南北凡そ二十餘里、東西は平均三里内外。從來多くの記錄に**南中央凹地帶**と記されて居るが、今は普通**鈴谷平野或は豐原平野**と呼んで居る。此の平野の北部には内淵川、南部には鈴谷川、留多加川が流れて居る。

内淵川　は源を野田寒岳の北東麓に發し、數多の支流を受けつつ南東に流れて鈴谷平野の北部に出で、落合に至つて南方より流れ來る支流**多古惠川**（上流を大谷川といふ）を合はせる。之より流路を北方に轉じ、榮濱附近に至るや、海岸の砂丘に妨げられてすぐには海に入らず、方向を西に轉じ、更に北に折れ、内淵に至つて始めてオホーツク海に注ぐ。本流の長さは凡そ三十里。河口附近は幅が廣くて能く小船を繫留せしめ之より上流約十里の間は川舟を通じ得るが、其れより上は水勢が急であり、又水も淺くて舟楫の便はない。

鈴谷川　は石炭産地として有名な川上方面の山地に發源し、南東に流れて平野に出で、樺太廳の農事試驗場の所在地たる小沼附近から水路を南に轉ずる。かくて豐原町の西方を南下し、貝塚附近に於て千歳灣に流れ込む。本流の長さは凡そ二十里に達する。

留多加川　は源を留多加山の南麓に發し、幾多の支流を受けつつ南流し、後次第に方向を南東に轉じ、留多加に至つて千歳灣に注ぐ。流程凡そ五十里に近く、下流數

里の間は川舟を通じ得る。

第三章　氣候

樺太は我が國の最北部に位して居るから、北海道本島よりも更に氣溫の低いのは當然であるが、南北に長い土地であり、又寒暖兩流の分布狀態の關係から、場處によつて餘程の相違がある。卽ち西海岸の眞岡附近以南の沿海地帶は對馬海流の影響によつて最も暖く、南部中央凹地帶(豐原平野)が之に亞ぎ、幌內平野は最も寒く、旣に地勢の條に述べた通り凍土帶(ツンドラ)といふ地相を備へて居る。

樺太に於ては毎年五月中旬から十月中旬までが暖季、十月下旬から翌年五月上旬までが寒季となつて居るが、氣溫の最も低いのは一月、最も高いのは八月である。嘗て明治四十一年一月十九日に落合測候所で攝氏零下四十五度六分といふ氣溫を觀測したることがあるが、之が從來日本に於て觀測し得た最低の溫度である。此の溫度を觀測した人の直話によれば、此の時には時計が自然に止まり、又凍死した鷄が

あつたといふことであるが、かういふ溫度は樺太でも珍らしいことで、一時の變調。普通落合に於ける一月中の最低氣溫の平均は攝氏の零下三十五度九分、大泊は同零下二十四度七分、眞岡は同零下二十度、本斗は同零下十九度二分であるから、北海道の旭川及び帶廣の同月最低氣溫の平均の方が、大泊、眞岡、本斗のそれよりも低い（旭川の一月最低氣溫の平均は攝氏の零下三十度。帶廣は同零下三十度七分）

降雪量も樺太は北海道本島よりも少く、海岸地帶は一、二尺、幌内平野方面は五六尺を普通とする。併し降雪期間は樺太の方が北海道よりも稍長く、初雪の見舞ふ平均日を見るに本斗は十月二十日、眞岡と落合は同月二十二日、大泊は同月二十四日であるから、旭川の同月二十三日と大差はない。終雪日の平均は本斗が五月一日、眞岡と大泊か同月十八日、落合が同月二十三日であるから、旭川の同月五日に比較すれば、本斗以外は旭川よりも大分後まで雪が降る譯である。

次に樺太近海の結氷期を見るに、東海岸一帶に於ける海水の凍結が最も早く、大抵十二月中旬頃より結氷し、西海岸の北部が之に亞いで一月上旬、亞庭灣が最も晩くて一月中旬に結氷する。西海岸中眞岡以南の海水の凍結することは極めて稀であるが、全く結氷しない譯ではない。隨つて樺太の港の中、全く結氷しないのは本斗の一港のみである。地理の教科書類には眞岡を不凍港として居るが、眞岡港の海水は時に半水半氷とでも謂はうか、アイスクリーム狀になることがあるから、純粹の不凍港とはいはれない。

大泊港の如きは一月中旬より三月中旬に至るまで岸を距ること十餘町の沖まで堅氷に鎖され、人馬が自由に氷上を往來し得る。隨つて結氷期に入港する汽船は碎氷裝置を有するもののみで、氷を割りながら進まなければならない。さもない船は波止場近くに近寄ることは出來ないから、船から岸に至るまでの間は、客も貨物も馬橇によつて氷上を運搬せられるのである。然るに三月中旬以後四月下旬に至る間が南樺太の解氷期で、海上の氷原は大小無數の氷板に分れ、風に從つて次第に浮流し

大泊港氷上荷役

去るのであるが、是等の流氷は其の頃からオホーツク海の奥から流れ來る流氷と共に、一時は南樺太近海に浮游して居る。其の氷板の水面上の高さは三四尺以下であるが、時に長さ二三里に亘る大氷板もあり、大小幾多の氷板が斷續浮動して居るから、航海者は船を之と衝突せしめず、又氷の間に挾まれない樣に注意を拂ひつつ進めて行かなければならない。しかも此の流氷期は可なりに長く、西能登呂岬附近に於ては四月中旬にも猶流氷を見、東海岸では五月中旬まで、海豹島附近では六月に入つても流氷に出會ふことが珍しくはない。隨つて南樺太近海全部に流氷の憂がなくなるのは六月以後である。

かくて六月中旬以後七月中旬に至る間が南樺太の春といふべき時で、百花一時に咲揃ふが、直ちに夏となつて八月は最高氣溫の月となり、九月中旬以後になれば落合、大泊方面には早くも初霜を結んで落葉季に入るのである。八月の最高氣溫の平均を見れば、落合は攝氏二十九度二分、敷香は二十七度三分、眞岡は二十六度五分、本斗は二十六度一分、大泊は二十五度七分であるから、帶廣の三十二度二分、旭川の三十一度六分に比較すれば、大分氣溫が低い。併し樺太は我が國内に於ては緯度の最も高い地方であるから、夏の晝間は頗る長く、最も日の長い時には午前二時頃夜が明け離れ、午後九時頃日が暮れる。隨つて夏の日照時間は頗る長く、植物の發育を盛ならしめるけれども一般に氣溫が低いから、内地で春收穫する物を樺太では夏收穫することになり、米の如きは嘗て大正五年の夏存外氣溫が高かつた爲に、收穫があつたが、其の他の年は十分結實するに至らず、爲に米作は試作はして居るが、先づ見込がない